

始





KI 65-62

342  
278

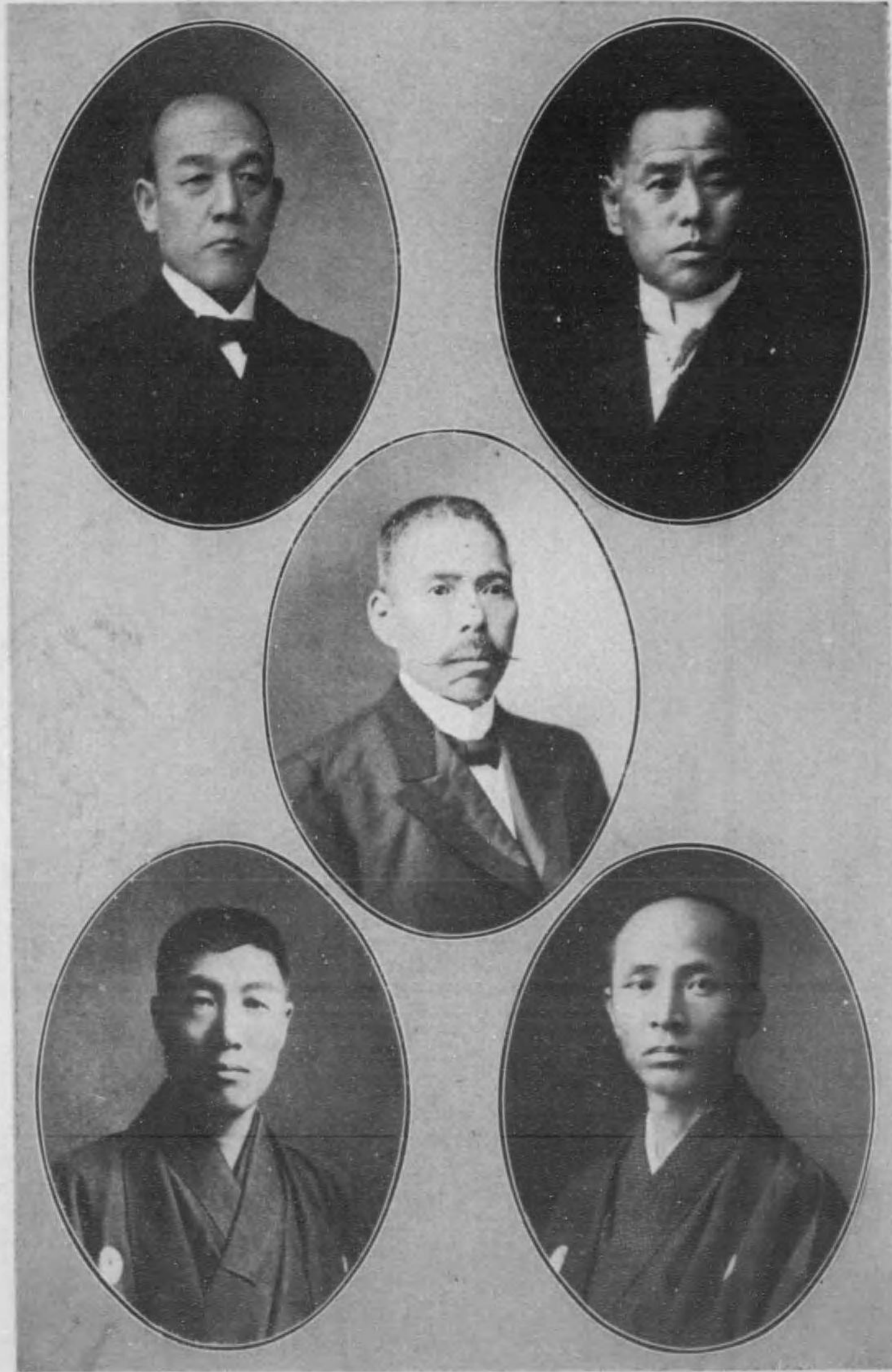


東京書籍組合及  
組合員檢査

東京書籍高橋  
寄贈本

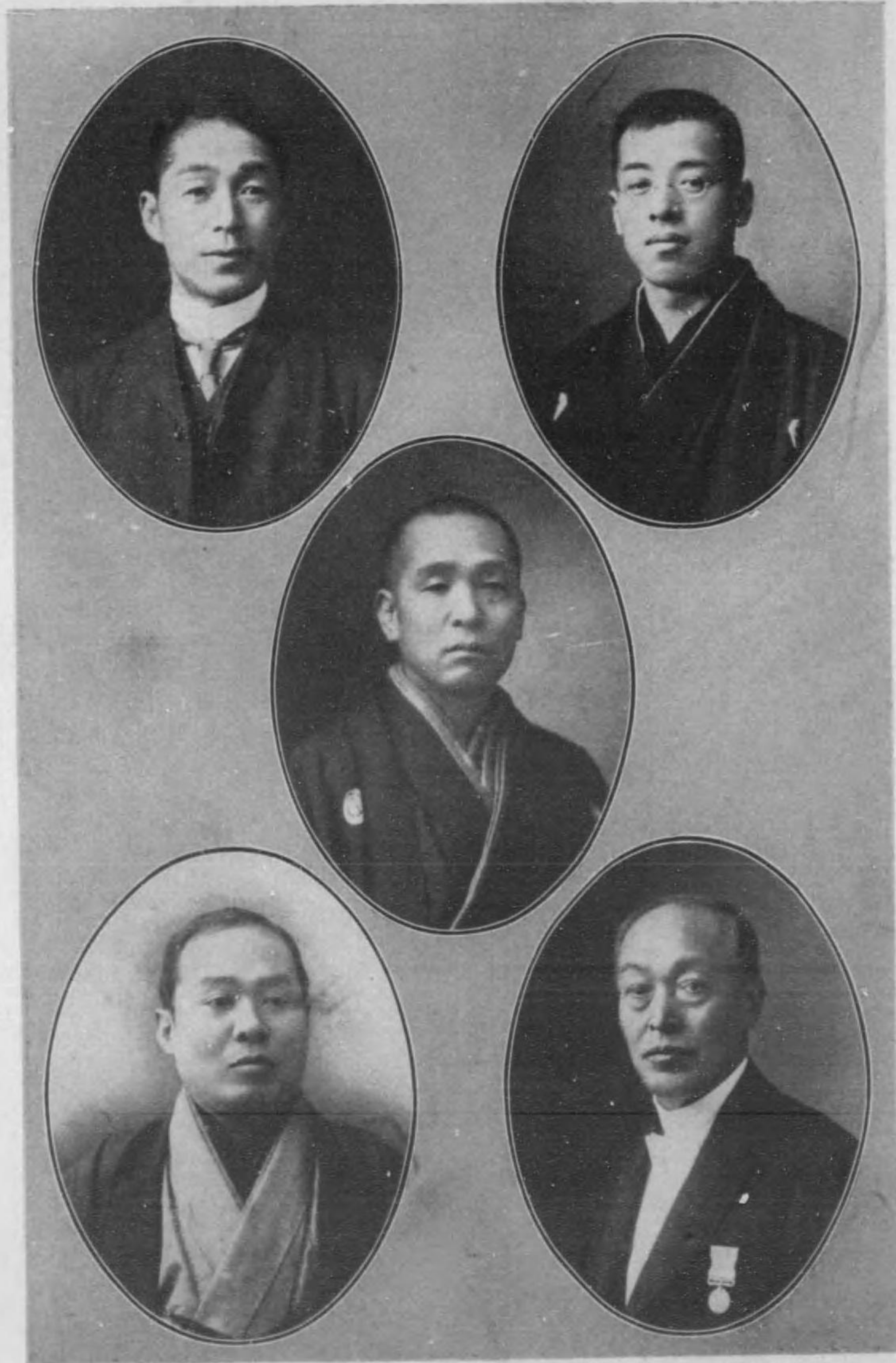
大正  
1. 12. 23  
寄贈





郎次平林 長組副      郎五保倉大 長組副  
郎四柴大 長組  
一英野岸 員議評      晉合川 員議評





吉友原 紳 員議評	忠重草江 員議評
吉虎野西 員議評	全保川宮 員議評
	一忠井龜 員議評





郎次慶野水 員議評  
坂之章山森 員議評  
兵太野多葉員議評  
馬治嘉本阪 員議評  
郎一才原上 員議評





助之文永福 員議評      吉久葉大 員議評  
藏增中田 員議評  
七甚黒目 員議評      作正川石 員議評





吉錠川大 員議評

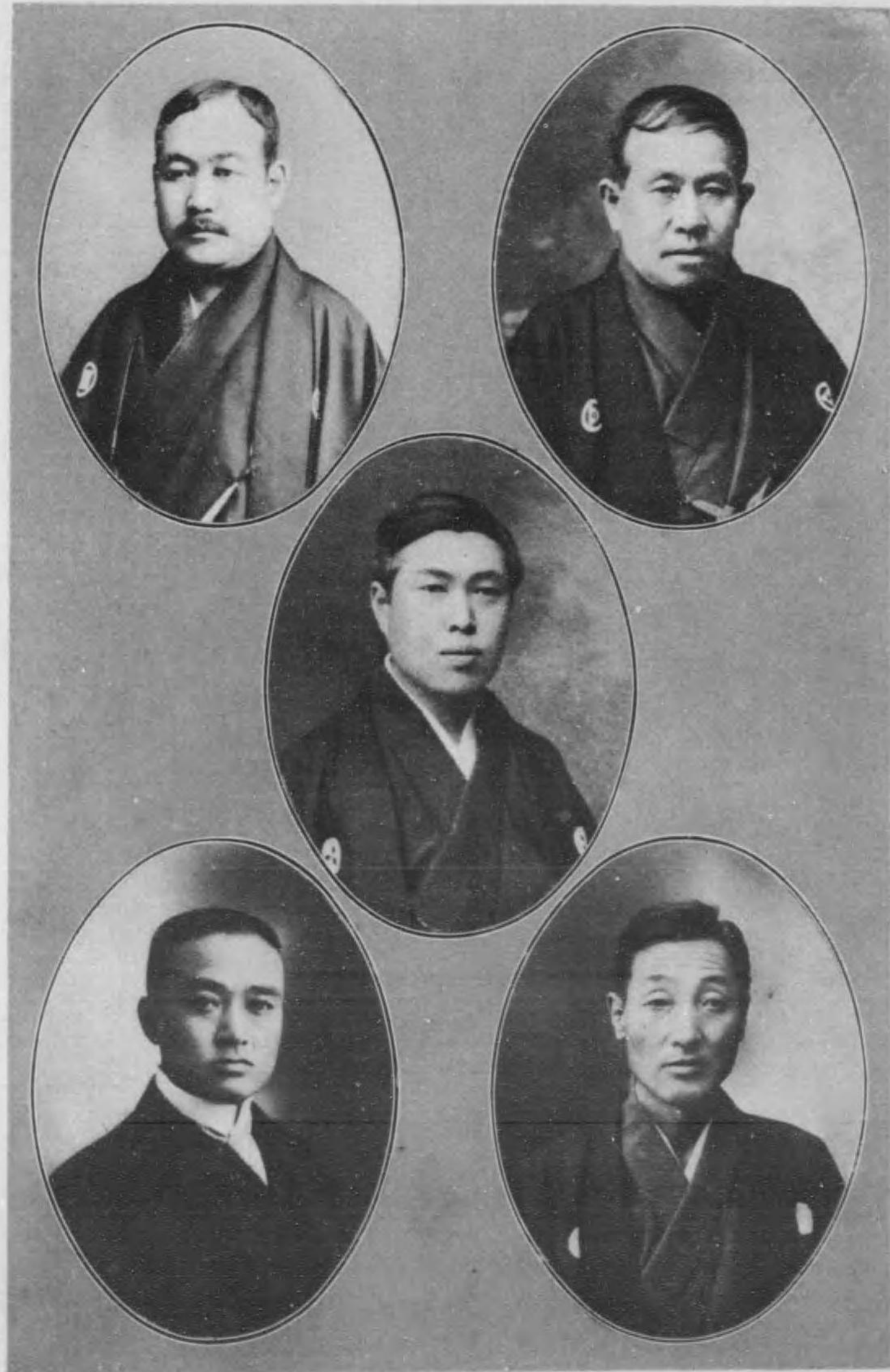
平一樹三 員議評

郎一亮 原 員議評

人要津柳小 員議評

丸百七本杉 員議評





郎治元岡福	員議評	郎一靜出河	員議評
	吉孫邑松	員議評	
郎太新橋大	員議評	郎太安岡高	員議評



### 緒言

回顧すれば、明治二十年創立當時の本組合は誠に微々たるものにして、同業者間にも殆ど其の存在を認められざる程の状態に在りしなり、爾來國威の隆輝に伴うて出版業も大に發展し、従つて我が組合も漸次基礎の鞏固を致せり。今茲大正元年十一月を期し創立二十五周年紀念を畫するの機運に際會したるは、本組合の光榮とするところなり。乃ち其の光榮を永遠に傳ふべく、此の組合史及組合員概歴を編纂發行せり。單簡なる組合員概歴の裏面は一の活歴史にして、これを編年統一せば趣味ある出版業史として窺ふことを得べきなり。

由來、史を編み、傳を記するに、其の文章は主觀と客觀の二種あり。前者は自己を叙し想像を離れ、單に事實を本位とすと雖も、後



者に至つては傳記を根據とし、主として評論的觀察を叙するものなり。本書の行文に就ては、編纂の當初に於て其の孰れに據らんかとの解決に躊躇したるも、組合が二十五周年紀念出版として發行するもの、自己組合員の傳を記するに當り苟も虚飾の文辭を弄すべきものにあらず、極めて眞面目ならざるべからずとの見地より、則ち主觀的にそれを以て編纂するに至りたるなり。本組合現在員は三百六十有九なるも、本書に収録したるもの僅に二分の一強に過ぎず、其の全員を網羅し能はざりしは本組合の最も遺憾とするところなり。

排列の順序は商號の「いろは順」に依りたりと雖も製版の都合上前後したるものあり、正しきは之を索引に掲げたり。

大正元年十一月

東京書籍商組合組長 大柴四郎

索引

(甲) 東京書籍商組合史

(一) 總記……………一

(二) 創立……………三

(三) 規約及規程……………三

○ 組合規約……………三

○ 會議細則……………七

○ 賣掛代金延滞者處分細則……………八

○ 代金引換郵便物及荷爲替物取引違背者處分細則……………三〇

○ 組合規約第十二條施行細則……………三二

○ 新加入者商號使用規程……………三三

○ 押切帳取扱規程……………三四

○ 雇人獎勵規程……………三五

○ 營造物使用規程……………三六

○ 圖書出版研究會規則……………三九

○ 圖書大羅市會舉行細則……………四〇



○圖書大雜市會規則……………三

(四)組合員……………四一

(五)役員……………四四

(六)創立以來役員當選表……………四五

(七)創立以來正副組長就任表……………五〇

(八)組合事務所……………五一

(九)組合月費……………五二

(一〇)組合經濟……………五三

(一一)組合財産……………五五

(一二)圖書大雜市會……………五五

(一三)賣掛代金延滞者處分……………五七

(一四)代金引換郵便物及荷爲替物取引違背者處分……………五七

(一五)圖書月報……………五八

(一六)圖書總目錄……………五九

(一七)全國書籍商名簿……………五九

乙 東京書籍商組合員概歴

(一)帝國小學校名簿……………五九

(二)彰 功……………六〇

(三)弔 慰……………六一

(四)慰問及招待……………六二

(五)賞牌贈與……………六四

(六)建白及請願……………六五

(七)救恤義捐……………六六

(八)寄附金……………六七

いろは書房 三輪逸次郎……………六九

育英舍 坂上陽之介……………六九

育成會 石川榮司……………七〇

磯部甲陽堂 磯部辰次郎……………七一

磯部屋 磯部太郎兵衛……………七三



六合館 林平次郎……………三  
 老鶴圃 内田淺……………五  
 會社六盟館……………五  
 博報堂……………七  
 博文館 大橋新太郎……………七  
 會社博進社……………九  
 萬書堂 田村奈良吉……………八  
 日本堂 布川甲三……………八  
 日英堂 横尾留治……………八  
 日進堂 鶴岡五郎……………八  
 二松堂 宮下松太郎……………八  
 日本書籍株式會社……………八  
 寶文館 大葉久吉……………八  
 本郷書院 吉田正太郎……………八  
 會社北隆館書店……………八

法木書店 法木徳兵衛……………八  
 勉強堂書店 岸野英一……………八  
 吐鳳堂 田中増藏……………八  
 東海堂 川合晉……………九  
 東洋印刷株式會社……………九  
 東洋社 石川正作……………九  
 東陽堂 吾妻健三郎……………九  
 東雲堂 西村寅次郎……………九  
 東亞堂 伊東芳次郎……………九  
 株式東亞公司……………九  
 會社東京堂……………九  
 東盛堂 越元次良……………九  
 東京印刷株式會社……………九  
 東京造書館 塚本岩三郎……………九  
 東京書院 磯村政富……………九



東京書籍株式會社	100
東京圖按印刷社	101
東京崇文館	101
統文館	103
島鮮堂	104
同文館	104
千代田書房	106
女子文壇社	106
良明堂	108
隆文館	108
大倉書店	110
大川屋	112
大屋書房	113
椀屋	114
學海指針社	115
山岸見喜壽郎	101
真田爲治	103
綱島龜吉	104
森山章之丞	104
寺本安之助	106
野口竹次郎	106
中井眞三	108
草村松雄	108
大倉保五郎	110
大川錠吉	112
額瀨房太郎	113
江島伊兵衛	114
前川一郎	115

開拓社	115
好文堂	116
巖松堂	117
翰香堂	118
開成館	119
大日本圖書株式會社	120
大同館	123
高岡書店	123
大黒屋	124
大正堂	125
淡海堂	125
泰文社	126
叢書閣	127
中西屋	127
南江堂	128
隅谷巳三郎	115
小池保吉	116
波多野重太郎	117
杉本七百丸	118
西野虎吉	119
阪本眞三	123
高岡安太郎	123
松木平吉	124
田中六藏	125
酒井久三郎	125
小泉徳兵衛	126
早矢仕民治	127
山田九郎	127
小立鉦四郎	128



久保田書店	久保田長吉	一元
魁眞樓		二元
畫報社	星野錫	三元
軍事教育會	高橋靜虎	三元
山口屋	森江佐七	三元
山口屋書店	荒川龜次郎	三元
丸山舍	竹澤章	三元
丸善株式會社		三元
敬文館	樫村喜久太郎	三元
警眼社	田山宗堯	三元
警醒社	福永文之助	三元
鷄聲堂	高島大圓	三元
慶雲堂	秋葉和助	三元
株式啓成社		三元
建築書院	吉原米次郎	四元

教文館	堀田達治	四元
武林堂	宮本林治	四元
武揚堂	小島棟吉	四元
袋屋	東生眞之助	四元
福島書店	福島孝太郎	四元
合資富山房		四元
福岡書店	福岡新三	四元
文學社	小林義則	四元
藤岡屋	水野慶次郎	四元
富文館	片山與三吉	四元
文榮閣	前川又三郎	四元
文林堂	淺見文吉	四元
文盛堂	榊原友吉	四元
文運堂	山本留次	四元
文光堂	淺井光之助	四元



文祿堂	堀野與七	一五三
文會堂	立田義元	一五三
文學同志會	大月隆	一五四
文陽堂	富田能次	一五五
文星堂	直江てつ	一五五
文進堂	鈴木貞吉	一五五
庚寅新誌社	手塚猛昌	一五七
弘道館	辻木卯藏	一五七
弘學館	江藤邦松	一五六
厚生堂	相澤富藏	一五九
今古堂	瀧川民治郎	一五九
光世館	谷澤光吉	一六〇
國華堂	山崎曉三郎	一六一
鴻盟社	今村延雄	一六一
株式會社 國定教科書 共同販賣所		一六二

光風館	上原才一郎	一六七
廣文堂	大倉廣三郎	一六八
帝國書院	村瀬兼太郎	一六九
青野書店	青野友三郎	一七〇
朝香屋	大柴四郎	一七〇
朝野書店	朝野文三郎	一七三
左久良書房	關 宇三郎	一七三
山海堂	來島正時	一七三
山陽堂	萬納孫次郎	一七四
三省堂	龜井忠一	一七四
三光堂	栢原伊三郎	一七五
三松堂	松邑孫吉	一七六
三新堂	三井新次郎	一七七
玉森堂	牧野准藏	一七八
玉潤館	小川一眞	一七八



京文堂	藤實	一
金槓堂	鈴木金輔	一八〇
金港堂書籍株式會社		一八一
金櫻堂	內藤加我	一八二
求光閣	服部喜太郎	一八三
有斐閣	江草重忠	一八五
有隣堂	穴山篤太郎	一八六
有朋館	阿部幸作	一八六
由盛閣	關由藏	一八七
明治書院	三樹一平	一八八
明誠館	松崎善太郎	一八九
目黒書店	目黒甚七	一九〇
明文堂	周防初次郎	一九一
三芳屋	神谷竹之輔	一九二
宮子書店	宮子音吉	一九三

都屋	樋川晴造	一九三
民友社	渡邊民藏	一九三
昌平堂	川岡東一	一九四
松聲堂	中島石松	一九四
松陽堂	池村鶴吉	一九五
松成屋	松成伊三郎	一九六
鍾美堂	福岡元治郎	一九六
尙榮堂	小川寅松	一九七
如山堂	今津隆治	一九八
至誠堂	加島虎吉	一九八
集成堂	石井清	一九九
秀才文壇社	野口安治	二〇〇
壽泉堂	白井佐太郎	二〇〇
十字屋	倉田繁太郎	二〇一
裳華房	芳野兵作	二〇一



出版協會	宮本勘次郎	101
聚星堂	増田彦太郎	101
春祥堂	近藤晋次郎	102
實業之日本社	増田義一	103
春江堂	湯淺久米策	104
松山堂	藤井利八	106
辰文館	中島卯三郎	107
清水屋	長谷川 常次郎	107
清水書店	葉多野 太兵衛	107
順成堂	瀬山 佐吉	108
信友堂	森 友吉	108
集文館	木田吉太郎	110
榮松堂	小室松太郎	110
益文堂	島村兵助	111
一二三館	栗本長七	111

森江分店	森江英二	113
靱山書店	靱山仁三郎	113
精美堂	大橋光吉	115
精華堂	長谷川 好太郎	116
盛林堂	林 甲子太郎	116
成美堂	河出靜一郎	117
成器閣	土井勝吉	118
盛陽堂	鈴木與八	118
青雲堂	葛西虎次郎	119
青山堂	青山清吉	120
盛花堂	岡村庄兵衛	121
誠志堂	南川圓太郎	121
積文堂	鈴木目一	123
川流堂	小林又七	123
攝陽堂	巽 久太郎	123



赤心社書店	山岸鉞次郎	三三
誠之堂	伊藤岩次郎	三五
昭文堂	宮城伊兵衛	三五
生文館	生沼大造	三六
須原屋	河合富吉	三七
鈴木書店	鈴木竹次郎	三七
嵩山房	小林ケイ	三八
須原屋	鈴木莊太郎	三九
すみや書店	鹿鹽龜吉	三九

索引終

東京書籍商組合史及組合員概歴

東京書籍商組合編纂

(甲) 東京書籍商組合史

(一) 總記

凡ノ當業ノ進歩發展ヲ圖ルニハ、同業團體ヲ設ケ、協心一致以テ事ニ當ラザルベカラズ。即チ此意味ニ於テ本組合ハ明治二十年ヲ以テ創立シタルモノニテ、爾來春秋二十有五ヲ回轉シ、大正元年十一月ヲ以テ其ノ二十五周年紀念會ヲ舉行ス。始メ本組合ハ、農商務省令組合準則ニ依リ、東京府廳ノ認可ヲ經テ設置シタルモノナリ。然ルニ右組合準則ハ明治卅四年改正セラレタル結果、該準則ニ據ルノ必要ナキニ至リタルヲ以テ、三十五年ニ任意ノ組合組織ト爲シ、規約ヲ根本的ニ改正シ、以テ漸々今日ノ如キ鞏固ナル基礎ヲ致シタルナリ。此間、組合規約ヲ基礎トシテ幾多規程ヲ設ケタル中ニ、特ニ賣掛代金延滞者處分細則、代金引換郵便物及荷爲替物取引違背者處分、組合規約第十二條施行細則等ハ、同業者



相互ノ共同利益ヲ圓滿ニ且ツ嚴正ニ保護セントスル精神ノ下ニ實行シツ、アリ。圖書大覽市會ハ、今ヤ東京年中行事ノ一ニ數ヘラル、ニ至リシガ、明治二十二年、始メテ開催シタル以來、同卅四年迄ハ、其ノ名義ノミ組合員有志者發起人トシテ舉行シタルナリ、是組合準則ニ、組合ハ直接營利事業ニ關與シ能ハザルノ規定アリシ爲ニ外ナラズ。明治三十五年本組合同規約改正ノ結果、斯ノ會ヲ組合直接ノ事業トシテ舉行スルコト、ナリ、其後方法ニ就テ幾多ノ改良ヲ加ヘ、大正元年十月ヲ以テ第十回紀念圖書大覽市會ヲ舉行シタリ。以上ノ外、商號使用規程ヲ設ケテ組合員相互取引上ノ複雜ヲ避ケ。雇人獎勵規程ヲ設置シテ組合員ノ店員ヲ獎勵シ。機關雜誌圖書月報ヲ毎月一回發行シテ當業者及ビ讀書界ニ利益ヲ與ヘ。圖書總目錄、全國書籍商名簿、帝國小學校名簿等ヲ出版シテ一般ニ便スル等、各方面ニ涉ツテ設備ヲ施シタリ。然レドモ、其ノ施設シタル各方面ニ向ツテ、其ノ精神ヲ遺憾ナク發揮シタリト云フニアラズ。

要スルニ、本組合過去二十五年ハ、所謂農作ニ於ケル播種時代ニシテ、多少其ノ收穫ヲ見タル點ナキニアラザルモ、其ノ全體ニ涉ツテハ未ダ以テ遼遠ナリトス。即チ其ノ播種シタルモノ、果實ヲ結ブノ秋ハ今日以後ニアリ。庶幾クハ我が組合員諸君ハ、過去ニ於ケル播種ヲ善ク培養シ、目的ノ如ク成熟セシムルコトニ努メ、ヤガテ豊年ノ泰平ヲ謳ハンコ

ト之レ期シテ待ツベキナリ。

## (一) 創立

我が東京書籍商組合ハ明治二十年十一月ノ創立ニシテ、其當時ハ東京書籍出版營業者組合ト稱ス。二十年十一月六日始メテ總會ヲ開キ、委員ヲ撰ビ、正副頭取ヲ互選ス。同年十二月二十一日ヲ以テ組合設置ノ儀ヲ東京府廳ニ出願セシニ、同月二十三日付府知事ヨリ認可ヲ得タリ。

明治三十五年組織ヲ變更シ、總テヲ革新シ、名稱ヲ現在ノ如クニ改メ、而シテ府廳ノ認可ヲ辭シ、獨立申合組合トナス。

## (二) 規約及規程

### ○ 組合同規約

明治二十年十一月六日ノ總會ヲ開會スル以前ニ於テ組合同規約ヲ確定シ、同月十四日ヲ以テ組合全員之ニ署名捺印ス。

明治二十二年二月二十二日ノ臨時總會ニ於テ規約ヲ改正シ、同年四月十日ヲ以テ東京



府廳ノ認可ヲ得タリ。而シテ該規約中第十三條乃至第十六條ハ當分中止スルコトニ六月五日ノ委員會ニ於テ議決ス。

明治二十四年一月五日ノ臨時總會ニ於テ規約ヲ改定シ、同年二月十三日東京府廳ノ認可ヲ得タリ。

明治三十五年一月十日ノ臨時總會ニ於テ組合規約ニ大改正ヲ加ヘ、同月十二日ノ役員會ニ於テ確定シ、直ニ施行ス。

明治三十六年一月十日ノ定期總會ニ於テ規約ヲ修正ス。

明治三十九年三月二十二日ノ臨時總會ニ於テ規約ヲ修正ス。

明治四十一年一月十日ノ定期總會ニ於テ規約ヲ修正ス。

現行組合規約左ノ如シ。

- 第一章 總 則
- 第二章 組合員
- 第三章 役 員
- 第四章 會 議
- 第五章 會 計

第六章 營造物

第七章 仲 裁

第八章 違約者處分

第九章 規約ノ變更

第十章 附 則

第一章 總 則

第一條 本組合ハ東京市内ニ店舗ヲ有シ圖書出版又ハ販賣ヲ業トスル者ヲ以テ組織ス

第二條 本組合ハ東京書籍商組合ト稱シ事務所ヲ日本橋區本材木町二丁目十六番地ニ

置ク

第三條 本組合ハ組合員協同一致シテ斯業ノ發達ヲ圖リ併セテ營業上ノ弊害ヲ矯正ス

ルヲ以テ目的トス

第四條 本組合ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事項ヲ執行ス

- 一 圖書ノ出版及販賣ニ關スル利害得失ヲ調査研究シ其改良ヲ圖ルコト
- 二 組合ノ機關雜誌及ビ圖書目錄書籍商名簿ヲ發行スルコト
- 三 組合員出版圖書ノ競賣會ヲ舉行スルコト



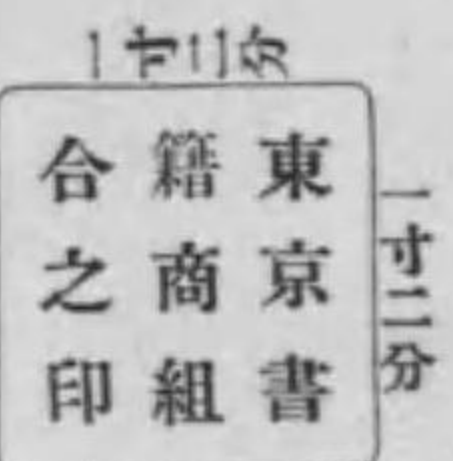
四 圖書出版ニ關スル諸法令ノ制定及ビ改廢ニ關シ意見ヲ官廳若クハ議會ニ開申スルコト

五 組合員中ノ雇人ヲ獎勵スルコト

六 組合員間ノ營業上ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

七 前各號ノ外本組合ノ目的ヲ達スルニ必要ト認ムル事項

第五條 本組合ノ印章左ノ如シ



一寸二分



徑七分

第二章 組合員

第六條 新ニ本組合ニ加入セントスル者ハ其營業所商號開業年月及ビ氏名年齢ヲ記シタル書面ニ組合員中二人ノ紹介者連署ノ上加入金貳拾圓ヲ添ヘ組合事務所ニ申込ムベシ

前項紹介者ノ一人ハ評議員タルヲ要ス

加入ノ申込アリタルトキハ組長ハ役員會ニ諮詢シ其許否ヲ決スベシ

申込人其加入ノ許諾ヲ得タルトキハ組合名簿ニ署名捺印スベシ

第七條 組合員廢業又ハ營業所ノ移轉若クハ氏名商號ヲ變更シタルトキハ七日以内ニ

組合事務所ニ届出ヅベシ

第八條 組合員ハ組合ノ經費負擔ノ義務ヲ負フ

第九條 組合員相互ノ商取引ハ特ニ圓滑ヲ期シ必ず支拂ヲ延滞スベカラズ

第十條 組合員ニ對シ商取引ノ支拂ヲ延滞シタル者アルトキハ被害者ヨリ其處分ヲ組

合事務所ニ請求スルコトヲ得

第十一條 前條ノ請求アリタル場合ニ於テ被請求者組合員ナルトキハ此規約ニ依リテ

處分シ組合員外ナルトキハ別ニ定メタル細則ニ依リテ處分ス

前項ノ場合ニ於テ取引停止ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シ組合員ハ其解除ノ通知ヲ得ル

ニ非ザレバ之ト商取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 東京市内ニ店舗ヲ有スル組合員外ノ同業者ニシテ前條取引停止中ノ者ト商

取引ヲ爲スモノアルトキハ組合ハ其商取引中止ヲ要求スベシ

前項ノ要求ニ應ゼザルトキハ別ニ定メタル施行細則ニ依リ處分ス



第十三條 組合員ハ著作家又ハ藏版者ヨリ其圖書ノ發行若クハ販賣ヲ組合員ノ一人又ハ數人ニ特約アル場合ニ於テハ其契約解除ノ後ニ非ザレバ該圖書ノ發行若クハ販賣ノ依託ヲ受クルコトヲ得ズ但前約者ト協商シタル場合ハ此限ニ在ラズ

第十四條 組合員ノ雇人中不正ノ行爲ニ因リ解雇シタルトキハ雇主ハ其者ノ氏名年齢及ビ事由ヲ速ニ組合事務所ニ届出デ組合一般ニ通知スルコトヲ請求スベシ但通知ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ組合員ハ其者ヲ雇入ルルコトヲ得ズ

第十五條 本組合雇人獎勵規程ニ依リ賞牌ヲ授與セラレタル者本組合ニ加入セントスルトキハ加入金ヲ要セズ但一旦脱退シタル者ハ此限ニ在ラズ

第十六條 組合員ハ組合ノ品位ヲ汚損スルガ如キ行爲アルベカラズ

第十七條 組合員ニシテ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ破廉恥罪ニ依リ重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ著作權侵害ニ因リ處分ヲ受ケタル者ハ組合員ノ資格ヲ失フ

第十八條 組合員ニシテ本組合ヲ除名セラレ又ハ組合員タルノ資格ヲ失ヒ若クハ脱退スル者アルモ本組合ハ財産ノ分配又ハ加入金ノ返還ヲ爲サザルモノトス

第十九條 組合員ハ組合事務所ニ於テ調製シタル左ノ標札ヲ店頭ニ掲グベシ但實費ヲ

支拂フコトヲ要ス

印

○ 東京書籍商組合 印 何 某

二尺五寸

第三章 役員

第二十條 本組合ハ組合員中ヨリ左ノ役員ヲ選出スベシ

評議員 三十人

評議員ハ其互選ヲ以テ組長一人副組長二人ヲ置ク

第二十一條 役員ノ選舉ハ定期總會ニ於テ組合員ノ無記名連記投票ヲ以テ之ヲ行ヒ有効投票ノ多數ヲ以テ當選トス

得票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ定ム

選舉ハ代人ヲ以テ投票スルコトヲ得ズ

選舉人名簿及ビ投票用紙ハ選舉ノ當日其會場ニ於テ交付スベシ

選舉長ハ組長之ニ當リ選舉委員ハ選舉長之ヲ定ム

第二十二條 左ノ投票ハ無効トス但第二號及ビ第四號ノ場合ニ於テハ其資格ナキ者ヲ



除ク外有効トス

- 一 所定ノ用紙ヲ用ヒザルモノ
  - 二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
  - 三 被選人以外ノ事項ヲ記シタルモノ
  - 四 組合員名簿ニ記載ナキ氏名ヲ記シタルモノ
- 第二十三條 役員ノ任期ハ一箇年トス但再選ヲ妨ゲズ
- 第二十四條 役員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ズ
- 第二十五條 役員ニ半數以上ノ缺員ヲ生ジタルトキハ臨時總會ヲ開キ補缺選舉ヲ行フベシ
- 第二十六條 役員ハ總テ無給トス但實費ヲ要スル場合ハ相當ニ支辨スベシ
- 第二十七條 役員其在任中特ニ功勞アル者若クハ繁劇ノ事務ヲ處理シタル者ニ對シテハ役員會ノ決議ヲ經テ賞與若クハ臨時報酬ヲ爲スコトアルベシ
- 第二十八條 役員ノ職務權限左ノ如シ
- 一 組長ハ本組合ヲ代表シ組合全般ノ事務ヲ總理ス
  - 二 評議員ハ各般ノ議案ヲ審議シ且規約第四條各號ノ事務ヲ分掌ス

三 前各號ノ外本組合ニ必要ナル事項

第二十九條 役員ハ總會ノ決議ヲ執行スルノ責ニ任ス

總會ノ決議ヲ要セル事項ニ就テハ役員會ノ決議ヲ以テ執行ス

第三十條 組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ必要ノ細則ヲ定ムルコトヲ得

第三十一條 組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ事務員ヲ任免黜陟ス

#### 第四章 會議

第三十二條 會議ヲ分チ左ノ三種トス

- 一 定期總會
  - 二 臨時總會
  - 三 役員會
- 第三十三條 定期總會ハ毎年一月之ヲ開キ左ノ事項ヲ審議ス
- 一 前年度ノ庶務成績、經費ノ收支決算並ニ組合員異動ノ報告
  - 二 經費ノ賦課徵收方法及ビ收支豫算
  - 三 役員ノ選舉
  - 四 前各號ノ外豫メ組長ヨリ發案シタル事項



- 第三十四條 臨時總會ハ役員會議ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員總數十分ノ一以上ノ同意ニ因リ其目的及ビ事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ之ヲ開ク
- 第三十五條 總會ヲ召集スルトキハ開會七日前組長ヨリ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員ニ通知スベシ但急速ヲ要スル事件ハ此限ニアラズ
- 第三十六條 役員會ハ毎月一回之ヲ開キ總會ノ決議ヲ要セザル事項ヲ審議ス
- 組長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時役員會ヲ開クコトヲ得
- 第三十七條 會議ハ總テ組長ヲ以テ議長トス組長事故アルトキハ副組長之ニ代ハル
- 第三十八條 組合員ハ總會ニ於テ發言及ビ表決ノ權ヲ有ス但會議ノ事項ニ關シ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ズ
- 第三十九條 會議ハ本規約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス
- 第四十條 議事ノ方法及議場ノ整理ハ議長ノ指揮ニ從フ
- 第五章 會計
- 第四十一條 本組合ノ經費ハ組合月費及ビ圖書競賣會ノ收益又ハ其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

- 第四十二條 組合經費ノ賦課徵收方法及ビ收支豫算ハ總會ノ協賛ヲ求ムベシ
- 第四十三條 緊急ノ場合ニ際シ豫算外ノ支出ヲ要スルトキハ役員會ノ決議ヲ經テ支辨スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テハ次期ノ總會ニ其承認ヲ求ムベシ
- 第四十四條 本組合ノ財産目錄ハ定期總會ニ於テ之ヲ報告スベシ
- 第四十五條 金錢出納ノ主任ハ二人トシ役員中ヨリ役員會ニ於テ之ヲ定ム
- 第四十六條 本組合ノ基金及ビ收入金ハ役員會ニ於テ定メタル銀行ニ寄託スベシ
- 第四十七條 本組合ノ會計年度ハ曆年度ニ依ル
- 第四十八條 組合員ハ事務ノ妨ゲナキ限リハ何時ニテモ會計ニ關スル帳簿ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得
- 第六章 營造物
- 第四十九條 本組合ハ組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル營造物ヲ所有スルコトヲ得
- 第五十條 營造物ノ管理ハ役員會ニ於テ其管理者ヲ定メ其者ノ名義ヲ以テ登記スベシ但其任期ヲ一箇年トシ滿期ニ至リ再選ヲ妨ゲズ
- 第五十一條 營造物ハ事務ニ妨ゲナキ限リニ於テ貸與ヲ爲スコトヲ得其細則ハ役員會



ニ於テ之ヲ定ム

第七章 仲裁

第五十二條 組合員間ニ於テ營業上ニ關シ紛議ヲ生ジタルトキハ當事者ノ一方若クハ双方ヨリ此規定ニ依テ本組合ニ仲裁ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 仲裁ノ請求書ニハ双方本組合ノ仲裁規定ヲ遵守スルコト及ビ其仲裁ニ對シテ後日異議ヲ申立テザルコトヲ明記シ署名捺印スルヲ要ス

第五十四條 本組合ノ仲裁ハ當事者ニ於テ和解ヲ爲ス權利アル事件ニ限ル

第五十五條 本組合ノ仲裁ハ役員會ニ於テ役員中ヨリ選出シタル五人ノ委員ヲシテ之ヲ判斷セシム

第五十六條 仲裁委員ハ其互選ヲ以テ委員長一人ヲ置キ其判斷ハ委員ノ過半数ニ依リ可否同數ナルトキハ委員長ノ裁決ニ依ル

第五十七條 仲裁委員ハ左ノ事由アルトキハ其任ヲ回避スベシ

- 一 仲裁事件ニ利害ノ關係ヲ有スルトキ
- 二 當事者ノ一方ト親族又ハ雇人後見人等ノ關係ヲ有スルトキ但其關係消滅シタルトキト雖モ亦同ジ

前各號ノ場合ニ於テハ當事者ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

第五十八條 當事者ハ仲裁委員ノ指揮ニ從テ進退シ又ハ關係書類ヲ提供スベシ

當事者ハ仲裁委員ノ許可ヲ得テ代人ヲ出スコトヲ得但代人ハ其家族又ハ商業代務人ニ限ル

第五十九條 仲裁判斷ハ事件收受ノ日ヨリ三週間以内ニ審理宣告ス但繁雜ナル事件ハ期間ヲ延長スルコトヲ得

第六十條 本組合ノ仲裁判斷ニ對シテハ裁判所ニ起訴スルコトヲ得ズ

第六十一條 左ノ場合ニ於テ仲裁宣告ノ日ヨリ二週間以内ニ當事者ノ申立アルトキハ再審スルモノトス

一 宣告中法律ニ抵觸シタル事項アルコトヲ發見シタルトキ

二 此仲裁規定ニ依ラズシテ審理又ハ宣告シタルトキ

第六十二條 前條ノ場合ニ於テハ第一審ニ干與シタル委員ヲ總テ改選ス

第六十三條 仲裁判斷ニ要シタル費用ハ當事者ノ負擔トス但其負擔ノ割合ハ仲裁判斷ト同時ニ宣告スベシ

第八章 違約者處分



第六十四條 第九條ノ規定ニ違背シテ商取引ノ支拂ヲ怠リタル者ハ其完済ニ至ルマデ組合員間ノ取引ヲ停止セラル但此處分ハ被害者ノ申告ニ依ル

第六十五條 左ニ記載シタル者ハ本組合ヲ除名セラル

一 第八條ノ規定ニ違背シテ三箇月以上組合費ヲ納メザル者

二 第十六條ノ規定ニ違背シテ組合ノ品位ヲ汚損シタル者

三 第六十條ノ規定ニ違背シテ裁判所ニ起訴シタル者

四 違約料ノ處分ヲ受ケ其徴收ニ應セザル者

五 取引停止若クハ三回以上違約料ニ處セラレタル者

第六十六條 左ニ記載シタル者ハ壹圓以上百圓以下ノ違約料ニ處セラル

一 第十一條及第十二條ノ規定ニ違背シテ取引停止中ノ者ト取引シタル者

二 第十三條ノ規定ニ違背シテ發行若クハ販賣ノ依託ヲ受ケタル者

三 第十四條ノ規定ニ違背シテ從業者ヲ雇入レタル者

第六十七條 第二十四條ノ規定ニ違背シ正當ノ事由ナクシテ當選ヲ辭シタル者ハ三箇年間役員ノ被選權ヲ停止セラル  
就任シテ引續キ六回以上故ナク役員會ヲ缺席シタル者亦同ジ

第六十八條 違約ニ依リ除名處分ヲ受ケタル者ト雖モ悔悛ノ實アルトキハ處分後六箇月ヲ經テ復歸ヲ許スコトアルベシ但此場合ハ組合員二人ノ保證アルコトヲ要ス

第六十九條 本章ノ處分ハ總テ役員會ノ決議ヲ經テ組長之ヲ宣告ス

### 第九章 規約ノ變更

第七十條 此規約ハ總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得

第七十一條 規約ノ變更ハ組合員總數四分ノ一以上出席シ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

### 第十章 附 則

第七十二條 第四條第三號ノ圖書競賣會舉行ニ就テハ組長ハ役員ノ外特ニ組合員中ヨリ五人ヲ選ミ其事務ニ參加セシム

第七十三條 本組合ノ財産ニ對スル共有權利ハ新舊組合員共平等均一ナリトス

第七十四條 従前ノ附屬規程ニシテ此規約ニ牴觸セザルモノハ總テ有効トス

第七十五條 此規約ハ明治三十五年一月決議確定ノ日ヨリ施行ス

### ○會議細則

明治二十一年委員會ニ於テ總會及委員會ニ適用スベキ會議細則ヲ設置ス。

明治二十四年一月五日ノ臨時總會ニ於テ會議細則ヲ改正ス



(此細則ハ明治三十五年一月規約改正ノ結果自然不用ニ歸シタルヲ以テ茲ニハ其條文ヲ省略ス)

○賣掛代金延滞者處分細則

明治二十八年十一月十六日ノ委員會ニ於テ賣掛代金延滞者請求ニ關シ規約第七條施行細則ヲ設置シ同年十二月一日ヨリ施行ス。

明治三十五年六月五日ノ役員會ニ於テ規約第七條施行細則ヲ賣掛代金延滞者處分細則ト改メ内容ニ大修正ヲ加ヘ直ニ施行ス。

明治四十年四月五日ノ役員會ニ於テ賣掛代金延滞者處分細則ヲ改正シ同年五月ヨリ施行ス。

現行賣掛代金延滞者處分細則左ノ如シ。

第一條 東京書籍商組合員ト組合員外同業者トノ商取引ニ關シ其賣掛代金ノ支拂ヲ延滞シタル者アリタルトキハ本組合同規約第十一條ノ規程ニ從ヒ此細則ニ依リテ處分スルモノトス

第二條 本組合ハ此細則ヲ施行スル爲メ常設調査委員五人ヲ置ク  
常設調査委員ハ評議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

常設調査委員ハ其互選ヲ以テ委員長一人ヲ定ム

委員長ハ常設調査委員會ヲ掌理ス

第三條 本組合員ハ第一條ノ延滞者アリタルトキハ其狀ヲ具シ處分ヲ組長ニ請求スルコトヲ得

第四條 前條ノ請求アリタルトキハ組長ハ速ニ之ヲ常設調査委員會ニ移牒シ其調査ヲ求ムベシ

第五條 常設調査委員會ニ於テ延滞ノ事實アリト認メタルトキハ組長ハ延滞者ニ對シ指定ノ期間内ニ延滞金ヲ支拂フヘキコトヲ催告スヘシ

第六條 延滞者前條ノ催告ヲ受クルモ其期間内ニ支拂ハサルトキハ組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ取引停止ニ處シ之ヲ組合員ニ通知スヘシ

第七條 取引停止ノ處分ヲ受ケタル者延滞金ヲ完済シ其解除ヲ請求シタルトキハ組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ其處分ヲ解除スルコトアルヘシ

解除ノ決定アリタルトキハ之ヲ組合員ニ通知スルモノトス

第八條 第三條ニ依リ處分ヲ請求シタル者其處分確定ノ日ヨリ起算シ滿二箇年以内ニ於テ同一被處分者ニ對シ再ヒ第三條ノ請求ヲ爲シタルトキハ組長ハ役員會ノ決議ヲ



經テ之ヲ拒ムコトヲ得

第九條 第七條ニ依リ取引停止處分ノ解除ヲ受ケタル者再ヒ停止ニ處セラレタルトキハ組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ之ニ對シテハ重テ解除ヲ與ヘサルコトヲ得

第十條 第三條ノ請求ヲナスモノハ手数料トシテ一件ニ付金二圓ヲ差出スヘシ

第四條 第六條、第七條ニ關シ特ニ費用ヲ要シタルトキハ之ヲ請求者ニ負擔セシム

○代金引換郵便物及荷爲替物取引違背者處分細則

明治三十五年六月五日ノ役員會ニ於テ、代金引換郵便物及荷爲替物取引違背者處分細則ヲ設置シ直ニ施行ス。

現行代金引換郵便物及荷爲替物取引違背者處分細則左ノ如シ。

第一條 東京書籍商組合員ハ組合員外同業者ノ注文ニ基キ發送シタル代金引換郵便物若クハ荷爲替物ニ對シ其受取ヲ拒ミタル者アリタルトキハ此細則ニ依リ其處分ヲ本組合ニ請求スルコトヲ得

第二條 本組合ハ此細則ヲ施行スル爲メ常設調査委員五人ヲ置ク

常設調査委員ハ評議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

常設調査委員ハ其互選ヲ以テ委員長一人ヲ定ム

委員長ハ常設調査委員會ヲ掌理ス

第三條 被害者ヨリ第一條ノ請求アリタルトキハ組長ハ速ニ之ヲ常設調査委員會ニ移牒シ其調査ヲ求ムヘシ

第四條 常設調査委員會ニ於テ被害者ノ請求ヲ正當ナリト認メタルトキハ組長ハ注文者ニ對シ其發送ニ因リテ生シタル損害金ヲ指定ノ期間内ニ賠償スヘキコトヲ催告スヘシ

第五條 注文者前條ノ催告ニ應セサルトキハ組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ取引停止ニ處シ之ヲ組合員ニ通知スヘシ

第六條 前條ノ處分執行ニハ本組合同約第十一條第二項ヲ適用ス

第七條 取引停止ノ處分ヲ受ケタル者第四條ノ損害金ヲ償却シ其解除ヲ請求シタルトキハ組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ其處分ヲ解除スルコトアルヘシ但解除ノ決定アリタルトキハ之ヲ組合員ニ通知スルモノトス

第八條 第三條ノ調査ニ關シ特ニ費用ヲ要シタルトキハ之ヲ請求者ニ負擔セシム

第九條 此細則ハ明治三十五年六月二十日ヨリ施行ス

○組合同約第十二條施行細則



明治三十九年三月二十二日ノ臨時總會ニ於テ、組合規約第十二條施行細則ヲ設置シ、同年四月一日ヨリ施行ス。

現行組合規約第十二條施行細則左ノ如シ。

第一條 本組合ハ東京市内ノ組合員外同業者ニ對シ規約第十二條ニ依リ商取引中止ヲ要求シ其要求ニ應セサルトキハ此施行細則ニ依リ處分ス

第二條 本組合ハ此施行細則ヲ實施スル爲メ常設調査委員五人ヲ置ク

常設調査委員ハ評議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

常設調査委員ハ其互選ヲ以テ委員長一人ヲ定ム

委員長ハ常設調査委員會ヲ掌理ス

第三條 東京市内ニ店舗ヲ有スル組合員外ノ同業者ニシテ組合規約第十一條ニ依リタル取引停止中ノ者ニ對シ商取引ヲ爲ス者アルコトヲ認知シタル組合員ハ直ニ之ヲ本組合事務所ニ通告スヘシ

第四條 前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ組長ハ速ニ之ヲ常設調査委員ニ移牒シ其調査ヲ求ムヘシ

第五條 常設調査委員會ニ於テ其事實アリト認メタルトキハ組長ハ該組合員外同業者

ニ對シ取引停止中ノ者トノ商取引ヲ中止セラレタキ旨ヲ要求スヘシ

第六條 前條ノ要求ニ應セサルトキハ組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ該組合員外同業者ニ對シ本組合員トノ取引停止ニ處シ之ヲ組合員ニ通知スヘシ

第七條 前條停止セラレタル者ニシテ第五條ノ要求ニ服從シ又ハ其取引停止中ノ者ノ解除セラレタル場合ハ組長ハ役員會ノ決議ヲ經テ其停止ヲ解除スルコトヲ得

前項解除ノ決定アリタルトキハ之ヲ組合員ニ通知スルモノトス

第八條 此施行細則ニ依リ二回以上停止ニ處セラレタル者ニ對シテハ解除セサルコトアルヘシ

第九條 此施行細則ハ明治三十九年四月一日ヨリ實施ス

○新加入者商號使用規程

明治三十七年四月五日ノ役員會ニ於テ、新加入者商號使用規程ヲ設置シ、直ニ施行ス。現行新加入者商號使用規程左ノ如シ。

第一條 新ニ本組合ニ加入セントスル者ハ現組合員ノ使用セル商號ト同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ス、館、房、屋等ハ同一ノモノト看做ス

第二條 止ムヲ得サル事情ノ爲メ現組合員ノ使用セル商號ト同一ノ商號ヲ用ヒントス



ル者ハ其先用者ノ承諾書ヲ受ケ之ヲ加入申込書ニ添付スルコトヲ要ス  
第三條 現組合員ニシテ從來使用セル商號ヲ變更セントスルトキハ速ニ組合事務所ニ届出ツヘシ  
其變更ノ商號組合員中ニ同一ノモノアル場合ハ此規程ニ據ル

○押切帳取扱規程

明治二十八年一月五日ノ臨時總會ニ於テ、押切帳取扱規程ヲ設置シ、同月二十五日ヨリ實施ス。

(備考) 明治二十三年九月五日ノ委員會ニ於テ、糶帳へ組合事務所ノ番號印章ヲ押捺スルコトヲ議決シ、同年十月一日ヨリ實施シタリシガ、現行法ニアラザルヲ以テ省略ス)

第一條 組合員ハ豫メ押切帳ヲ製シ置キ相互取引上ニ關シ金錢授受ノ際ニハ必ス之ヲ用フヘシ  
第二條 押切帳ハ必ス組合事務所ノ檢印ヲ受置クヘシ  
第三條 押切帳ニ組合事務所ノ檢印ヲ請フトキハ必ス店主ノ實印ヲ押捺シタル請求書ヲ添付スヘシ

第四條 組合員ニ金錢ヲ交付スルノ際ハ必ス押切帳ニ金額ヲ明記シ押印ヲ爲スヘシ  
第五條 押切帳ヲ持參セサル者ニハ如何ナル場合ト雖モ金錢ノ授受ヲ爲スヘカラス但シ金錢授受スヘキ者店主ナルトキハ必スシモ押切帳ヲ要セス

○雇人獎勵規程

明治三十三年一月五日ノ臨時總會ニ於テ、雇人獎勵規程ヲ設置シ、直ニ施行ス。

明治三十九年一月十日ノ定期總會ニ於テ、雇人獎勵規程ヲ改正ス。

明治四十年一月十日ノ定期總會ニ於テ、雇人獎勵規程ヲ改正ス。

明治四十三年一月十日ノ定期總會ニ於テ、雇人獎勵規程ヲ改正ス。

現行雇人獎勵規程左ノ如シ。

第一條 此規程ニ雇人ト稱スルハ本組合員ノ雇用シタル書籍店ノ從業者ヲ云フ  
第二條 本組合ハ雇人滿十年以上勤績シ品行方正ニシテ勉勵顯著ナル者ニ賞品ヲ贈與シテ其精勤ノ功ヲ表彰スルモノトス但新ニ本組合ニ加入シタル組合員ニシテ其加入後滿三年ヲ經過セサルモノハ本規程ニ據ルコトヲ得ス  
第三條 前條ノ賞品ハ左ノ三種トス但重テ本條ノ賞品ヲ受ケタル者ニ對シテハ賞牌ヲ他ノ賞品ニ代フルコトヲ得



第四條 賞品ヲ贈與スルトキハ左ノ褒賞狀ヲ添付ス

品目	概	價	受賞者勤続年限
一等賞	牌金參拾五圓	二十年以上	
二等賞	同前金貳拾五圓	十五年以上	
三等賞	同前金拾五圓	十年以上	

褒賞狀

割印 第 號

何 々 (株式会社「合名會社」「合資會社」) 何某殿店員

籍 族 何 誰 君

年 月 生

品行方正ニシテ業務ニ勉勵シ滿何年以上勤續ニ付何等賞品ヲ贈與シテ  
茲ニ精勤ノ功ヲ表彰ス

組印 年 月 日

東京書籍商組合組長 何 誰

第五條 賞品ヲ贈與シタルトキハ之ヲ組合員一般ニ報告スヘシ

第六條 組合事務所ハ雇人獎勵名簿ヲ備ヘ受賞者ノ族籍氏名ヲ登記シ永ク保存スヘシ

本條ノ名簿ハ閱覽ノ請求ニ應ス

第七條 第二條ノ資格ヲ有スル者アルトキハ本人ノ履歷書ヲ添ヘ其雇主ヨリ組合事務

所ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ之ヲ委員會ノ議ニ付シ其認否ヲ決スヘシ

第八條 此規程ニ據リ賞品ノ贈與ヲ受ル雇人ノ雇主ハ第三條ニ定メタル概價ノ三分ノ

一ヲ本組合ニ寄附スルヲ要ス

第九條 雇人勤續中兵役ニ服シ除隊後復勤シタル者ハ其年數ノ中斷セララル、コトナシ

第十條 受賞者ニ於テ不都合ノ行爲アルトキハ其賞品ヲ返戻セシメ獎勵名簿ヨリ除名

シ之ヲ組合員一般ニ報告スヘシ

附 則

第十一條 賞品贈與式ハ毎年組合總會ニ於テ舉行ス

第十二條 第七條第一項ノ届出期間ハ毎年九月一日ヨリ同三十日迄トス

第十三條 此規程ハ明治三十三年一月ヨリ實施ス



○營造物使用規程

明治三十九年二月五日ノ役員會ニ於テ、營造物使用規程ヲ設置シ、直ニ施行ス。  
現行營造物使用規程左ノ如シ。

第一條 本組合ノ營造物ヲ使用セントスル者ハ本細則ニ準據スヘシ

第二條 本組合ノ營造物ヲ使用セントスル者ハ其使用ノ目的ヲ詳記シ本組合評議員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ムヘシ

第三條 左ノ場合ニハ本組合ハ營造物ノ使用ヲ謝絶又ハ中止スルコトアルヘシ

一、本組合ノ體面ヲ汚スト認ムルトキ

二、營造物ニ損害ヲ及ホス恐アリト認ムルトキ

三、本組合ノ業務ヲ妨クルト認ムルトキ

第四條 本組合ノ營造物ヲ使用セントスルモノハ規定ノ使用料ヲ納付スルヲ要ス

第五條 本組合營造物使用料ハ毎年一月役員會ノ評決スルトコロニ據ル

第六條 使用者ニ於テ備付ノ器具若クハ營造物ヲ破損シタル場合ニハ之カ復舊實費ヲ辨償セシム

第七條 使用者ニシテ使用料若クハ辨償金ノ徴收ニ應セサルトキハ紹介人其責ニ任ス

第八條 使用者ニ於テ門前ニ看板等ヲ掲出セント欲スルトキハ組長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 營造物ノ使用ニ關シ本細則ニ規定ナキ事項ハ正副組長ノ合議ニ一任ス

○圖書出版研究會規則

明治三十五年十二月十八日ノ臨時役員會ニ於テ、圖書出版研究會規則ヲ設置シ、翌三十六年一月ヨリ施行スルコトニ決ス。即チ左ノ如シ。

第一條 本會ハ本組合規約第四條第一號ノ規定ニ基キ特ニ之ヲ設立ス

第二條 本會々員ハ互ニ親睦ヲ厚フシ營業上ノ利害ヲ研究スルヲ以テ目的トス

第三條 前條ノ目的ヲ達センカ爲メ左ノ方法ヲ設ク

一 毎年二回以上集會ヲ開キ營業上ノ研究ヲナスコト

二 時々學者著作者ヲ招キ出版ニ關スル講話ヲ聞クコト

三 必要ノ場合ニハ朝野教育家ヲ招キ教育上ノ方針ヲ聞クコト

第四條 本會ノ事務ヲ處理スル爲メ評議員ノ互選ヲ以テ常任幹事五名ヲ置ク

常任幹事ハ其互選ヲ以テ幹事長一人ヲ置ク

幹事長ハ本會ヲ掌理ス

第五條 本會ニ於テ議事ヲ開キ決議ヲ要スル場合ニハ幹事長ヲ以テ議長トシ出席員ノ



過半数ニ依リ之ヲ決ス

- 第六條 集會ノ場所及日時ハ其都度組合事務所ヨリ通知スルモノトス
- 第七條 本會ノ經費ハ組合ノ經常費ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第八條 本會ノ記事ハ圖書月報ニ掲載スルコトアルヘシ
- 第九條 本組合員ノ雇人ハ本會ヘ出席シ傍聽スルコトヲ得
- 第十條 此會則ニ明文ナキ事項ハ總テ本組合役員會ノ協議ヲ以テ之ヲ處理ス
- 第十一條 此會則ハ明治三十六年一月ヨリ施行ス

○圖書大耀市會舉行細則

明治三十五年八月十三日ノ臨時役員會ニ於テ、圖書大耀市會舉行細則ヲ設置シ、同年九月ヨリ之ヲ施行ス。

明治四十一年九月五日、圖書大耀市會舉行細則ヲ改正ス。  
現行圖書大耀市會舉行細則左ノ如シ。

- 第一條 本會ノ事務ハ左ノ係員ヲ以テ之ヲ處理ス
  - 一 本組合評議員 三十名
  - 二 本組合同規約第七十二條ニ依リ特ニ選定シタル參加員 五名

第二條 前條ノ係員ハ左ノ各部ニ分割シテ其事務ヲ擔當ス

- 一 會長 一人
- 二 副會長 二人
- 三 會計係 若干人
- 四 檢査係 若干人
- 五 販賣係 若干人
- 六 庶務係 若干人
- 七 傳票係 若干人

第三條 本會ノ會長ハ組長ヲ以テ之レニ充ツ

第四條 本會ノ副會長及各部擔當係員ハ本會係員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 各部員ニ於テハ互選ヲ以テ係長一人ヲ設ク

第六條 會長ハ本會全般ノ事務ヲ統理ス

第七條 副會長ハ會長ヲ補佐シ又會長ノ代理ヲナス

第八條 係長ハ各部擔當ノ事務ヲ掌理ス

第九條 會計係ハ更ニ簿記、出納ノ二部ニ分チ簿記部ハ賣買ノ計算表及仕譯書ヲ調整シ



出納部ハ本會ノ諸計算保證金其他本會ニ關スル金銭出納一切ノ事務ヲ掌ル

第十條 検査係ハ出品見本ノ檢閱及目錄ノ調整其他出品ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第十一條 販賣係ハ競賣ノ場所ニ臨檢シ賣買上ノ監督及「カード」ノ整理其他競賣ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第十二條 庶務係ハ飲食物其他會場内一切ノ雜務ヲ掌ル

第十三條 傳票係ハ賣品傳票ノ調製其他傳票ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第十四條 本會ニ於テ事務員ヲ要スルトキハ係員總會ノ決議ヲ經テ雇入ル、モノトス但臨時雇員ヲ要スルトキハ其係長ハ會長ノ許諾ヲ經テ雇入ル、コトヲ得

第十五條 本會ハ本組合同約第二十七條ノ規定ニ依リ本會係員ヘ相當ノ報酬ヲナスモノトス但其金高ハ純益金ノ百分ノ二十トス

第十六條 本會ノ規則ハ毎年係員總會ノ協議ヲ經テ之ヲ定メ開會一ケ月前ニ全國同業者ニ通知スルモノトス

第十七條 本會ニ純益金アリタルトキハ本組合ノ基本財産ニ編入シ若損失アリタルトキハ組合ノ經費ヲ以テ支辨スルモノトス

第十八條 本會ノ收支決算ハ事務終了後三十日間内ニ本組合員ニ報告ス

第十九條 第一條第二項ノ參加員ハ毎年本會規則協定前ニ之ヲ選定スルモノトス

第二十條 本會ノ係員ハ第十八條ノ決算報告ヲシタルトキヲ以テ解除スルモノトス

第二十一條 此細則ニ規定ナキ事項ハ本會係員總會ノ協議ヲ以テ之ヲ處理ス

### ○圖書大覽市會規則

圖書大覽市會ハ明治三十五年ヨリ本組合ガ直接舉行スルコトニナリ其年ヲ第一回トシ毎年舉行毎ニ規則ヲ編制スルモノナリ。茲ニ參考トシテ大正元年十月舉行ノ第十回紀念圖書大覽市會ノ規則ヲ掲グレバ左ノ如シ。

第一條 本會ハ東京書籍商組合規約第四條第三號ノ規定ニ依リ之ヲ舉行ス

第二條 本會ハ東京書籍商組合第十回紀念圖書大覽市會ト稱シ其事務ハ日本橋區本村木町二丁目十六番地本組合事務所ニ於テ取扱フ但開會中ハ其事務ヲ會場ニ於テ取扱フ

第三條 本會開會期日ハ大正元年十月七日ヨリ五日間トス但高況ニ依リ期日ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第四條 本會ハ東京市下谷區上野公園櫻ヶ岡常盤華壇ニ於テ毎日午前八時ニ開會シ午後六時ニ閉會ス



第五條 本會ハ手數料トシテ賣上金高ノ百分ノ三ヲ賣主ヨリ申受ク

第六條 本會ノ出品者ハ本年八月五日ノ本組合現在員ニシテ第三十一條ノ保證金ヲ納メタル者ニ限ル

第七條 本會ノ買主タラントスル者ハ本會ニ於テ確實ト認メ第三十一條ノ保證金ヲ納メタル者ニ限ル

第八條 本會ノ入場者ハ一人一日ニ付入場料五拾錢ヲ拂込ミ入場券ヲ受取ルヘシ  
本條ノ入場券ナキ者ハ入場スルコトヲ得ス

第二章 出品

第九條 本會ノ出品物ハ本組合員ノ發行及專賣ノ圖書ニ限ル但故意ニ奧附ヲ變更シタルモノ又ハ同業者ヨリ依託ヲ受ケタル專賣圖書ハ出品スルコトヲ許サス

第十條 出品者ハ八月二十日迄ニ其出品目錄(用紙ハ組合事務所ヨリ)ヲ組合事務所ニ提出スヘシ但其目錄ハ變更スルコトヲ許サス

本條ノ目錄ハ印刷ニ付シ第三十一條ノ保證金ヲ納メタル者ニ限り其出席ノ初日之ヲ交付ス  
本會開會前ニ本條ノ目錄ヲ希望スル者ハ一冊ニ付壹圓ヲ添へ組合事務所ニ申込ムヘシ

シ

第十一條 出品者ハ其出品見本各二部ニ出品傳票(用紙ハ組合事務所ヨリ)ヲ添へ十月三日四日ノ兩日中午前九時ヨリ午後四時迄ニ組合事務所ニ提出シテ検査ヲ受クヘシ當

日検査ヲ受ケサルモノハ出品スルコトヲ許サス

第十二條 前條ノ見本ノ内一部ハ物品授受ノ正確ヲ期スル爲メ検査ノ時ヨリ授受結了後二週間組合事務所ニ之ヲ保管シ他ノ一部ハ出品者ニ於テ保管シ賣立當番ノ際第二十一條ノ見本ト共ニ提出スヘシ

事務所ニ保管シタル見本ハ本條所定ノ期限後速ニ引取ルヘシ若シ其期限後一週間ヲ經過スルモ尙引取ラサルトキハ組合事務所ニ寄贈セラレタルモノト看做シ之ヲ返還セス

第十三條 本會ニ於テ一タヒ競賣ニ付シタル出品ハ本會開會中再ヒ競賣ニ付スルコトヲ得ス

第十四條 共同出版物ハ其共同出版者ノ一人ノ外出品スルコトヲ得ス  
第三章 出品點數

第十五條 本會ノ出品ハ一人二點迄トシ賣立ハ毎回一點トス



第十六條 出品ハ一種ヲ一點トス但二種以上ヲ出品セントスル者ハ左ノ區別ニ依ル

一 同一ノ價格ヲ以テ分賣スルモノハ二十種迄ヲ取合セ一點トス

二 數種ヲ一括シテ分賣セサルモノハ十種迄ヲ取合セ一點トス

三 定價ノ割合ニ據リ金高ヲ以テ分賣スルモノハ三十種迄ヲ一點トス

第十七條 同一ノ圖書ニシテ並製ト上製又ハ分本ト合本若クハ大本ト小本等其價格同一ナラサルモノハ各一種ト看做ス

#### 第四章 競 賣

第十八條 競賣順ハ會場ニ於テ開會初日午前六時ヨリ同七時三十分迄ニ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其時限迄ニ抽籤セサル者ハ第一回ノ競賣順ヨリ除却シ到著順ヲ以テ第二回目ノ末尾ニ加入セシム

本條ノ順番ハ讓與交換スルコトヲ得ス

第十九條 前條ノ抽籤者ハ必ス保證金預證書ヲ示スコトヲ要ス

第二十條 競賣順ノ際當番者不在ノトキハ棄權シタルモノト看做シ次番ヨリ繰リ上クルモノトス但次回ノ順番ニ加入スルコトヲ得

第二十一條 競賣當番者ハ見本十部以上ニ第十二條ノ検査済見本ヲ添へ競賣場ニ提出

スヘシ但大部ノ物若クハ特種ノ物ニシテ係員ノ承認ヲ經タルモノハ部數ヲ減少スルコトヲ得

第二十二條 本會ノ競賣方法ハ一部建、數部建若クハ定價建トシ其競落價格ヲ以テ賣價トス

第二十三條 買主ハ本會ヨリ交付シタル「カード」第二十四條ノ雛形ニ據ルノ相當欄内ニ其買入レノ書目番號及部數若クハ定價ヲ明瞭ニ記入シ之ヲ賣場係員ニ差出スヘシ本條ノ「カード」不足シタルトキハ請求用紙(「カード」冊ノ末尾ニ添附シアリ)ニ其氏名ヲ署シ之ヲ係員ニ差出シ更ニ「カード」ヲ受取ルヘシ

#### 第五章 「カード」

第二十四條 本會ハ左記雛形ニ據リ買主ヨリ差出シタル「カード」ノ相當欄内ニ正味金額等ヲ記入シ第三十四條ニ依リ代金拂込ノトキ買入仕譯書ト共ニ之ヲ其買主ニ交付ス賣主ニ對シテハ買主ノ口座番號、部數又ハ定價並ニ正味ノ金額ヲ明記シタル賣上仕譯書ヲ交付ス



### 形 籙「ド一カ」

大正元年十月 日 整理番號

賣立番號	買主	口座	第 番	カード番號
出品人	書目	番號	第 號	
殿				部數又は定價
				明瞭ニ記 載ヲ乞フ
此ノ下欄内ニハ御記入無之様額上候				
替		掛	正 味 金 額	
十	百	千	萬	十
十	百	千	萬	十
賣主は此「カード」を賣上仕譯 書と對照して引 替に現品を渡さ るべし 文字の訂正に係 員の檢印なきも のは無効とす 東京書籍商組合 第十回紀念 圖書大覽市會				

(「カード」は「カード」番號順に使用せらるべし)

第二十五條 「カード」ヲ紛失シタルトキハ左ノ規定ニ依ル

一 記入前ニ紛失シタルトキハ本會事務所ニ届出ツルコト

二 買主ニ於テ第三十四條ニ依リ受取リタル後紛失シタルトキハ速ニ之ヲ其賣主ニ通知シ且ツ本會事務所ニ届出ツルコト

三 賣主ニ於テ引換後紛失シタルトキハ其買主ノ證明書ヲ添へ代金受取ノ際申出ツルコト

### 第六章 物品ノ授受

第二十六條 賣主ハ閉會後十日以内ニ第二十四條第二項ノ賣上仕譯書ニ照シ「カード」ト引換ニ現品ヲ渡スヘシ但競賣ノ際係員ノ承認ヲ經タルトキハ本條期間ニ依ラサルコトヲ得此場合ニ於テハ本會ハ其「カード」ニ何月何日渡シト明記ス

現品引渡シノ際賣上仕譯書ト「カード」トヲ對照セサル爲メニ生シタル損害ニ就テハ本會ハ其責ニ任セス

第二十七條 「カード」ニ本會ノ印章ナキモノハ之ヲ無効トス

「カード」ノ欄内記入ニ訂正ヲ加ヘタルトキ係員ノ檢印ナキモノ亦同シ

第二十八條 買主ハ第二十四條ノ「カード」ヲ以テ必ス第二十六條ノ期限内ニ直接ニ賣主

ヨリ現品ヲ受取ルヘシ

第二十九條 買主ハ受取リタル物品中ニ落丁又ハ破損綴違ヒ等アリタルトキハ直接ニ



其賣主ニ對シ引換ヲ請求スヘシ賣主ハ異議ナク其請求ニ應スヘキモノトス

第三十條 本會ニ於テ競賣セシ物品タルコトヲ證スル爲メニ捺印ヲ爲ス者ハ直徑三分以內ノ印章ヲ用フヘシ此場合ニ於テハ第十一條ノ見本ニモ必ス其印ヲ押捺スヘシ

### 第七章 保證金

第三十一條 本會ノ賣買保證金ハ一名ニ付參拾圓トス

第三十二條 前條ノ保證金ハ左ノ規定ニ依リ預入レ又ハ受取ルヘシ

- 一 出品者ハ第十一條ニ依リ見本検査ノトキ本會ヘ預入レ第三十五條ノ計算濟ノトキ預證書ト引換ニ受取ルヘシ
- 二 買主ハ本會事務所又ハ會場ニ於テ預入レ第三十四條ノ計算濟ノトキ預證書ト引換ニ受取ルヘシ

第三十三條 保證金預證書ヲ紛失シタルトキハ速ニ本會事務所ニ届出ツヘシ此場合ニ於テハ本會ノ總決算後十五日ヲ經過スルニ非サレハ其保證金ヲ受取ルコトヲ得ス

### 第八章 代金授受

第三十四條 買主ハ閉會後三日目ニ本會事務所ニ其代金ヲ拂込ミ第二十四條ノ「カード」及買入仕譯書ヲ受取ルヘシ

前項ノ代金拂込ニハ自己ノ受取ルヘキ金員ト差引計算ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 賣主ハ閉會後五日ヲ經テ本會指定ノ期日ニ第二十四條ノ「カード」ト引換ニ其代金ヲ受取ルヘシ

「カード」ハ其全部ヲ取纏メタル上ニ非サレハ代金ヲ受取ルコトヲ得ス但第四十二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

### 第九章 制裁

第三十六條 賣主ハ閉會中ハ勿論閉會後ト雖モ競落價格ヲ標準トシテ私ニ賣買若クハ取引約束ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ違約金ヲ徴收シ尙次回ノ圖書大糶市會ニ出品スルコトヲ許サス其買主ニ對シテハ次回ノ圖書大糶市會ニ入場ヲ許サス

第三十七條 前條違約金ノ處分ヲ受ケ其徴收ニ應セサル者ニ對シテハ本組合同規約第六十五條第四號ヲ準用ス

第三十八條 本會ハ會ノ商況ヲ妨害スルノ行爲ト認メタル入場者ニ對シテハ之ヲ制止シ又ハ退場セシムルコトアルヘシ

第三十九條 賣主又ハ買主ニ於テ本規則ノ取引規定ニ違背シタルトキハ其違背ニ係ル



金額ノ二割ヲ違背者ヨリ徴收シ本會ト被害者トニ於テ折半收得スルモノトス  
 違背ニ因リ損害ヲ生シタルトキハ其保證金ヲ以テ辨償ニ充ツ若シ保證金ニテ損害ヲ  
 償フニ足ラサルトキハ更ニ違約者ヨリ其不足ノ金額ヲ追徴スルモノトス  
 第四十條 違背者前條ノ追徴ニ應セサルトキハ本組合同規約第十一條ヲ適用ス  
 第四十一條 本規則ニ明文ナキ事項ハ總テ本會係員總會ノ協議ヲ以テ之ヲ處理ス

附則

第四十二條 本組合員以外ノ買主ニシテ東京市内ノ者ハ其住所東京市外ノ者ハ其荷扱  
 所(荷扱者)及宿所ヲ入場ノ際必ス本會事務所ニ届出ツルコトヲ要ス  
 東京市外ノ買主ハ第二十四條ノ「カード」ヲ必ス其荷扱所ニ預ケ置クヘシ若シ「カード」ヲ  
 預ケ置カサルトキハ本會ハ適宜之ヲ處分スヘシ  
 前項ニ因リ生シタル損害ハ總テ其買主ノ負擔トス

(四) 組合員

本組合員ハ明治二十年十一月創立當時ニ於テハ一百三十一人ナリシガ大正元年十月  
 現在ハ實ニ三百六十人ニ増員セリ其毎年ノ異動ヲ統計的ニ示セバ左ノ如シ。

年次	加入	廢業脱退失格	除名	毎年現在
明治二十年				一三一
明治二十一年		三一		一〇〇
明治二十二年	二〇	一四		一〇六
明治二十三年	五七	一六		一四七
明治二十四年	二九	一七		一五九
明治二十五年	一九	一一		一六七
明治二十六年	二七	一七		一七七
明治二十七年	二六	二二		一八一
明治二十八年	一七	一六		一八二
明治二十九年	二四	一四		一九二
明治三十年	二八	一五		二〇五
明治三十一年	二〇	一五		二一〇
明治三十二年	三六	一〇		二三六
明治三十三年	二八	一一		二五三



年次	加入	廢業、脱退、失格	除名	毎年現在
明治三十四年	一七四	二	〇	四〇四
明治三十五年	一四	三	〇	三八四
明治三十六年	一八	〇	一	三六二
明治三十七年	一六	一	〇	三五三
明治三十八年	二五	一	二	三六三
明治三十九年	三一	二	〇	三七四
明治四十年	二四	一	二	三八五
明治四十一年	二	二	三	三六九
明治四十二年	二	一	四	三六四
明治四十三年	二	一	一	三七〇
明治四十四年	一六	二	三	三六九
明治四十五年	二	九	三	三六九
大正元年	二	九	三	三六九
十月現在				三六九

(五) 役員

本組合役員ハ、創立以來明治三十四年迄ハ毎年組合總會ニ於テ委員十五人ヲ選舉シ、委員ノ互選ヲ以テ頭取一人、副頭取二人ヲ定メ、更ニ委員會ニ於テ協議員ナルモノヲ十人設置シタリ。明治三十五年東京書籍商組合ト改稱シ、協議員ヲ廢シ、委員ヲ評議員ト改メ、三十人ニ増員シ、頭取ヲ組長ト改稱シ、副組長ヲ置カズシテ常任委員五人ヲ設ケタリシガ、翌三十六年以後常任委員ヲ廢シ、副組長二人ヲ設置ス。

(六) 創立以來役員當選表

明治二十年十一月、本組合創立以來、役員ニ當選シタル者左表ノ如シ。創立ヨリ同三十四年迄ハ役員ハ委員ト稱シ別ニ協議員ナルモノヲ置キタリシガ、明治三十五年以降、評議員ト改稱シ、協議員ナルモノヲ廢ス。

表中○ハ委員・評議員。×ハ協議員

(二十年二十一年ハ重任)

氏名	年次
原 亮三郎	十二年
	十三年
	十四年
	十五年
	十六年
	十七年
	十八年
	十九年
	二十年
	二十一年
	二十二年
	二十三年
	二十四年
	二十五年
	日下部 三之助
二十七年	
二十八年	
二十九年	
三十年	

(五) 役員 (六) 創立以來役員當選表















六月二十日京橋區館屋町十番地借家ニ移轉ス。  
 明治二十三年七月七日、京橋區銀座一丁目二十三番地ニ移リ、亦同年九月二十一日ヲ以テ日本橋區下槇町十三番地ニ移轉ス。  
 明治二十五年三月三十一日、日本橋區箔屋町八番地所在土藏二個及木造等建坪十八坪餘ノ家屋ヲ購入シ之ヲ事務所トス。  
 明治二十六年、日本橋區本材木町二丁目十六番地ニ木造二階建瓦葺上下三十三坪五合、同平屋建瓦葺八坪七合五勺ノ家屋ヲ建築シ、同年八月二十六日之ニ移轉ス、即チ現在ノ事務所是ナリ。

(九) 組合月費

明治二十年十一月設定ノ規約ニ據リ、組合月費ヲ左ノ二種トス。  
 一等月費金壹圓      二等月費金參拾錢  
 明治二十二年一月二十六日ノ總會ニ於テ、組合月費ヲ左ノ如ク改ム。  
 一等月費金五拾錢      二等月費金參拾錢      三等月費金拾五錢  
 明治二十二年二月二十二日ノ臨時總會ニ於テ、組合月費ヲ金貳拾錢ニ改メ、同年四月ヨ

リ實施ス。

明治二十六年一月四日ノ定式總會ニ於テ、組合月費ヲ金拾五錢ニ改ム。  
 明治四十一年一月十日ノ定期總會ニ於テ、組合月費ヲ金貳拾錢ニ改ム。  
 明治四十五年一月十日ノ定期總會ニ於テ、組合月費ヲ金參拾錢ニ改ム。

(一〇) 組合經濟

本組合創立ヨリ、明治四十四年ニ至ル、毎年末ノ收支ハ左表ノ如シ。

年次	收 入	支 出	損 益	累 計
明治二十一年	九五・二七	九二・九六	三・三〇一益	三・三〇一
明治二十二年	五五六・六四三	四八〇・二六	七六・四八益	九・七六六
明治二十三年	七八・五九二	四八・二四	三〇・四八益	三九・二三四
明治二十四年	六四・五三三	七五・七九	七一・二六損	三〇・九八
明治二十五年	六〇・九八四	八四・七五三	二二・七六九損	一〇・八一七
明治二十六年	一・三六・二二	一・四一・九七	八四・三三益	一九・一五九
明治二十七年	四七・五四	四一・九七	五・五七益	二四・七三六
明治二十八年	五七・一七	五八・〇四	二九・二九益	二五・〇四五
明治二十九年	七八・三五	五二・六元	二六・七六益	三三・七一



明治三十年	五五九・四五一	六八七・九四	六九・四三損	三四・四九
明治三十一年	六七九・五三	五九・八一	一六〇・三三益	四四・七〇
明治三十二年	一〇〇二・一六	九六四・四五	三七・七五益	五三・四七五
明治三十三年	二四八・二七〇	二・三三・七五	一四九・四五益	六七・九六〇
明治三十四年	二五九・三三〇	一〇一九・五〇	一五〇・〇〇益	二・五二・〇四〇
明治三十五年	二八三・〇五〇	一・三四・八七五	一五〇・六一五益	三七・八・三五
明治三十六年	四九五・九一〇	一・五五・一九〇	三四八・七〇益	七二六・九五
明治三十七年	一・三三・三五	一四九・〇三五	一三〇・七〇損	七〇四・三五
明治三十八年	四・六二・一三〇	二七九・一四〇	一・八三・九九〇益	八・八九・二〇五
明治三十九年	五・八七・一九五	四・〇八・六〇〇	一七六・五九五益	一〇・六三・八〇〇
明治四十年	五・三三・〇九〇	二・八五・三三〇	二五二・五五〇益	一三・一四・七・五五〇
明治四十一年	五・四〇・八・五〇	二・八七〇・五〇	二・五八・〇三〇益	一五・六五・五八〇
明治四十二年	八・四二・八〇	三・三五・五五〇	四・八九・三三〇益	二〇・五七・九〇〇
明治四十三年	四・八三・九六〇	六・七三・三四〇	一・八九・三六〇損	一八・七八・五二〇
明治四十四年	三・三六・五七〇	三・五六・二二〇	四・五・四〇損	一八・二六・二九〇

右累計金壹萬八千貳百六拾貳圓九拾八錢

金壹萬圓

內金六千七百參拾參圓八拾七錢

金壹千五百貳拾九圓拾壹錢

定期預金

別口定期預金

當座預金

(二) 組合財産

本組合財産ハ明治四十五年一月一日現在ノモノ左ノ如シ。

- 一金壹萬八千貳百六拾貳圓九拾八錢 現金
- 一二階建家屋及造作一式 壹棟此建坪二階建十六坪 平家建八坪
- 一電話權利 (本局八百十二番) 壹基
- 一圖書、什器 各種

(二) 圖書大糶市會

圖書大糶市會ハ明治二十二年十一月始メテ舉行シタルモノニテ、其ノ當時ヨリ明治三十四年ニ至ル迄ハ組合員中ノ有志者發起トナリ、毎回ノ純益金ヲ組合ニ寄附シ來リシガ明治三十五年一月、總會ノ決議ニ依リ、之ヲ組合事業トシ、改メテ第一回ヲ同年十月ニ舉行セリ。爾來毎年十月ヲ以テ舉行シ、第二回ヨリ出品目錄ヲ調製シ、第六回ヨリ「カード」ヲ使用ス。手数料ハ第一回ヨリ第七回迄ハ賣上高ノ五分ナリシガ、第八回ヨリ三分ニ改ム。大正元年ニハ第十回紀念圖書大糶市會ヲ開會セリ。



明治三十五年ノ第一回ヨリ、同四十四年ノ第九回ニ至ル十年間、毎年ノ賣上高ト純益金ハ左表ノ如シ。

回次	年次	賣上高	純益金	會場
第一回	明治三十五年	九六・三三・四八五	二・四八・五四〇	今盤木俱樂部
第二回	明治三十六年	一四・六四・五三二	二・五八・二五	常盤木俱樂部
第三回	明治三十七年	二〇・五八・五〇〇	恤兵献品	開花樓
第四回	明治三十八年	一五・三四・三三九	三・四四・九五〇	櫻館
第五回	明治三十九年	一七・五〇・二四三	三・六八・四二〇	伊勢平樓
第六回	明治四十年	一八・三三・六八〇	三・七九・二六〇	美術俱樂部
第七回	明治四十一年	一六・三三・三三〇	三・三三・四三〇	美術俱樂部
第八回	明治四十二年	一九・四三・四六〇	一・〇四・三五〇	美術俱樂部
第九回	明治四十三年	二〇・四三・二七〇	一・八六・三四〇	美術俱樂部
第十回	明治四十四年	一五・二六・五五五	六二・六四〇	福井俱樂部

(一三) 賣掛代金延滞者處分

賣掛代金延滞者處分ハ、明治二十八年十一月設置ノ規約第七條施行細則ニ始マリ、明治三十五年ニ於テ大改正ヲ施シ賣掛代金延滞者處分細則ナルモノヲ設置ス。爾來該細則

ニ依リ申請シ來リタルモノ、成績ヲ細別スレバ左表ノ如シ。

年次	申請數	完済	撤示	回談處分	解除
明治三十五年	一〇	—	—	八	—
明治三十六年	二一	—	—	〇	二
明治三十七年	四三	—	—	六	〇
明治三十八年	二二	—	—	〇	六
明治三十九年	二七	—	—	〇	四
明治四十年	八	—	—	五	三
明治四十一年	九	—	—	二	一
明治四十二年	二七	—	—	五	二
明治四十三年	二三	—	—	一	六
明治四十四年	二一	〇	—	五	四

(一四) 代金引換郵便物及荷爲替物取引違背者處分

明治三十五年六月、代金引換郵便物及荷爲替物取引違背者處分細則ヲ設置シテ以來、本件ニ關スル申請ハ甚ダ少數ニシテ、明治三十五年度ニ一件アリ、コレハ直ニ示談整ヒ。明治三十六年度ニ申請二件アリ、一件ヲ取引停止處分ニ付シ一件ハ示談整ヒ。明治三十八



年度ノ申請一件アリ其レヲ處分ニ付シタルノミニテ、其後更ニ申請ナシ。

### (二五) 圖書月報

本組合機關雜誌『圖書月報』ハ、組合規約第四條第二號ニ依リ、明治三十五年九月創刊シタルモノニテ、組合ト經濟ヲ別ニシ、廣告料ヲ以テ收支ヲ償ヒ、毎月一回壹萬冊ヲ發行シ、若シ損失ヲ招ク場合アラバ組合ヨリ補助スルコトニナリ居レドモ、爾來成績良好ニシテ、大正元年九月ニハ創刊十周年紀念號第拾卷第拾貳號ヲ發行シ、今後益々有望ナリト信ズ。其ノ創刊ヨリ明治四十四年末迄ニ純益金五百五拾貳圓貳拾參錢ヲ得ルニ至レルハ、要スルニ組合員ガ善ク本誌ヲ利用シタルニ外ナラズトス。

### (二六) 圖書總目錄

組合員發行ノ圖書ヲ蒐集シ、一冊子トシテ搜索ニ便スル、之レ當業發展ノ一要素ナルヲ以テ、本組合ハ明治二十六年七月、書籍總目錄ト題シ發行シタリ。  
明治三十一年五月、第一版發行後四年十ヶ月ヲ經テ、其ノ第二版ヲ發行ス。  
明治三十九年十月、第二版發行後八年五ヶ月ヲ經テ、其ノ第三版ヲ發行ス。此版ニ於テ

内容ニ大改善ヲ施シ、標題モ圖書總目錄ト改題シタリ。

明治四十四年三月、第三版發行後四年五ヶ月ヲ經テ、其ノ第四版ヲ發行ス。

總テ内容ハ「いろは別」發行所別「類別」ノ三種トシ、第四版ニ蒐集シタル圖書數ハ實ニ二萬二千餘種ニ至ル。

### (二七) 全國書籍商名簿

本組合規約第四條第二號ニ依リ、全國一般同業者ノ地名商號氏名等ヲ蒐集シテ一冊子トナスノ必要アルヲ認メ、明治三十五年十二月、地方書籍商名簿ト題シテ發行シ。同三十七年十月、加除訂正シテ日本書籍商名簿ト改題シ、其ノ第二版ヲ發行シ。又四十年十一月、内容ヲ改善シ、全國書籍商名簿ト改題シ、其ノ第三版ヲ發行シ。明治四十三年九月、其ノ第四版ヲ發行ス、收載セル人名實ニ四千二百三十六人ニ至レリ。

### (二八) 帝國小學校名簿

全國小學校名簿ノ必要アルヲ認メ、本組合ハ明治四十三年九月、帝國小學校名簿ト題シ之ヲ發行セリ。收載セル校名實ニ二萬五千八百二十七校、其ノ位置、學級、加設科目等ヲ掲



ゲタリ。

(二九) 彰功

明治二十五年二月、前頭取長尾景弼在職中ノ功勞ヲ表彰シ、銀瓶一個ヲ贈與ス。  
本組合創立以來滿十年委員ノ職ヲ繼續シ功勞顯著ナリトシ、明治三十年四月、小柳津要人、小林義則、牧野善兵衛、宮川保全、和田篤太郎等ニ金製印材各一具ヲ贈リ、其ノ殊功ヲ表彰ス。

明治三十八年一月、前副組長鈴木敬親ノ殊功ヲ表彰シ、金盃一個ヲ贈ル。

明治三十九年八月、前評議員松邑孫吉ノ功ヲ表彰シ、銀七寶花瓶一個ヲ贈ル。

明治三十九年十二月、前評議員宮川保全ノ殊功ヲ表彰シ、置時計一個ヲ贈ル。

明治四十二年八月、前評議員中島石松ノ功ヲ表彰シ、金若干ヲ贈ル。

明治四十二年八月、前評議員森江佐七ノ功ヲ表彰シ、金若干ヲ贈ル。

明治四十二年八月、前評議員石川榮司ノ功ヲ表彰シ、金若干ヲ贈ル。

明治四十三年三月、組合臨時總會ニ於テ前組長小柳津要人ノ功勞ヲ表彰シ、銀製花瓶一

對ヲ贈ル。

明治四十三年三月、前評議員金刺源次ノ功ヲ表彰シ、金若干ヲ贈ル。

明治四十四年一月、前評議員内藤加我ノ功ヲ表彰シ、金若干ヲ贈ル。

明治四十五年一月、前評議員布川甲三ノ功ヲ表彰シ、金若干ヲ贈ル。

(二〇) 弔慰

明治二十五年八月、委員辻敬之死亡ニツキ弔詞及造花ヲ贈リ、翌年七月香爐一個ヲ追贈シテ生前ノ功ヲ表彰ス。

明治二十六年八月、委員覺張榮三郎死亡ニツキ弔詞及造花ヲ贈リ、翌年六月香爐一個ヲ追贈シテ生前ノ功ヲ表彰ス。

明治二十八年二月、前頭取長尾景弼死亡ニツキ弔詞及造花ヲ贈リ、翌年祭祀料ヲ遺族ニ贈リ、生前ノ功ヲ表彰ス。

明治二十八年六月、委員小林喜右衛門死亡ニツキ弔詞及造花ヲ贈リ、翌年四月香爐一個ヲ追贈シ生前ノ功ヲ表彰ス。

明治三十一年十一月、組員佐久間貞一死亡ニツキ弔文ヲ贈ル。



明治三十二年二月、組合員和田篤太郎死亡ニツキ弔文及生花一對ヲ造リ、翌年三月銅製香爐一個ヲ追贈シ生前ノ功ヲ表彰ス。

明治四十一年、前副組長江草斧太郎死亡ニツキ生花一對及祭祀料ヲ贈リ、生前ノ殊功ヲ表彰ス。

明治四十一年八月、評議員芳野兵作死亡ニツキ花料ヲ贈リ、翌年八月銀七寶製佛具一對ヲ追贈シ、生前ノ功ヲ表彰ス。

明治四十二年二月、評議員小立鉦四郎死亡ニツキ弔詞及生花一對ヲ贈リ、翌年二月石造佛燈一基ヲ墓前ニ樹テ、生別ノ功ヲ表彰ス。

明治四十四年一月、評議員大橋省吾死亡ニツキ、石造手水鉢一基ヲ墓前ニ樹テ、生前ノ功ヲ表彰ス。

### (二二) 慰問及招待

明治二十七八年ノ役ニ、本組合員及其家族ヨリ兵役ニ服務シタルモノニ慰勞狀ニ添ヘ金員ヲ贈與ス。

明治二十八年十月、龜清樓ニ軍人慰勞會ヲ開キ、二十七八年役ニ兵役ニ服務シタル本組

合員及其家族ヲ請待ス。

明治三十四年十一月、萬國著作權保護同盟條約ニ加盟シタル以來著作權法實施ニ至ル迄ノ間ニ於テ本組合ニ有益ナル指導ヲ與ヘラレタル故ヲ以テ山田三郎、水野練太郎ノ兩君ヲ精養軒ニ招待ス。

明治三十七八年役ニ本組合員及其ノ家族雇人ニシテ兵役ニ服務シタルモノニ慰問狀ニ添ヘ金員ヲ贈與シ、且ツ戰死者ニ對シテハ弔詞及香料ヲ贈呈ス。

明治三十九年五月、花月華壇ニ於テ戰死者追弔祭ヲ舉行シ、遺族ヘ弔慰金若干ヲ贈リ、式了ツテ、更ニ歡迎會ヲ開催シ、凱旋將士ヲ招待シ、紀念トシテ銀製時計各一個ヲ贈呈ス。

明治四十年八月、受賞者坪谷善四郎君、歐米諸國ヲ漫遊セラル、ニツキ、三緣亭ニ於テ之ガ送別會ヲ開催セリ。

明治四十一年五月、評議員大橋新太郎君、歐米諸國ヲ漫遊セラル、ニツキ、精養軒ニ於テ之ガ送別會ヲ開催セリ。

明治四十二年一月、評議員大橋新太郎君、歸朝セラレタルニツキ、常盤華壇ニ於テ之ガ歡迎會ヲ開催セリ。

明治四十三年四月、山本留次君、歐米諸國ヲ漫遊セラル、ニツキ、日本橋俱樂部ニ於テ之



ガ送別會ヲ開催セリ。

(二二) 賞牌贈與

明治三十三年一月、雇人獎勵規程ヲ設置シ、同年十月第一回賞牌贈與式ヲ舉行シ、第二回ヨリハ組合定期總會ニ於テ舉行スルコト、ナリ、而シテ明治四十五年一月第十三回迄、毎年ノ受賞者數ハ左表ノ如シ。

回数	年次	一等	二等	三等	計
第一回	明治三十三年	一六	一五	一三	四四
第二回	明治三十四年			〇三	〇三
第三回	明治三十五年			二八	二八
第四回	明治三十六年		四	七	一一
第五回	明治三十七年			七	七
第六回	明治三十八年			〇	〇
第七回	明治三十九年			〇	〇
第八回	明治四十年	一		〇	一
第九回	明治四十一年			〇	〇
第十回	明治四十二年	三		六	九

第十一回	明治四十三年			一	一
第十二回	明治四十四年			〇	〇
第十三回	明治四十五年	一四	二五	二二	六一

(二三) 建白及請願

明治二十一年四月及同年六月ノ二回、東京府廳ニテ小學教科書ヲ編纂出版スルノ不可ナルコトヲ東京府知事ニ建白ス。

明治二十一年、原書翻刻ノ件ニ付東京府知事ニ陳情ス。

明治二十三年三月、文部省出版圖書拂下ニ關スル件ニ付文部大臣ニ請願ス。

明治二十三年十二月、出版條例改正ノ件ニ付帝國議會ニ請願ス。

明治二十五年六月、教科用圖書檢定ノ件ニ付文部大臣ニ建議ス。

明治三十年六月、萬國版權保護同盟條約ニ關スル件ニ付東京商業會議所ニ建議ス。

明治三十二年一月、萬國版權保護同盟條約ノ件ニ付內務大臣ニ請願ス。

明治三十二年二月、印刷料紙輸入稅全廢ノ件ニ付衆議院ニ請願ス。

明治三十四年十二月、清國ニ對スル版權ノ件ニ付外務內務ノ兩大臣ニ請願ス。



明治三十六年二月、小學校教科用圖書ノ件ニ付文部大臣ニ上申ス。  
明治三十七年三月、中等教科用圖書輸送ニ關スル件ニ付逓信大臣ニ請願ス。  
明治四十年十二月、外國圖書附屬品輸入税免除ノ件ニ付大藏大臣ニ請願ス。  
明治四十三年一月、著作權法修正ノ件ニ付内務大臣ニ請願ス。  
明治四十三年二月、營業税法改正出版稅新課法律案、關稅定率法改正法律案ニツキ衆議院及文部大臣ニ請願シ、且ツ同院特別委員等ニ陳情シ、東京商業會議所ニ請願ス。

### (二四) 救恤義捐

明治二十二年、福岡、和歌山、奈良ノ三縣水災甚シク、仍テ本組合ハ組合員ノ圖書大販賣ヲ舉行シ、分合ノ純益金ヲ右三縣ニ義捐スルコト、シ實行セリ。  
明治二十四年十月、尾濃地方ニ震災アリ、其慘狀甚シキ爲メ本組合ハ組合員ヨリ募金シ、之ヲ岐阜、愛知、福井ノ三縣ヘ分與シタリ。  
明治二十七年、日清戰爭ニ際シ、本組合ハ組合員ヨリ釀金シテ軍資金ヲ献納スルコトヲ決議シ、募集委員ヲ設ケ、而シテ其ノ募集シタル總金額ヲ献納シタリ。  
明治二十九年七月、三陸地方海嘯罹災者ニ對シ、本組合ハ組合員ヨリ義捐金ヲ募集シ、一

括シテ義捐シタリ。

明治三十三年八月、本組合ハ組合員ヨリ恤兵義捐金ヲ募集シ、之ヲ北清事件ニ因ル帝國軍人ノ戰死者遺族及傷病者ニ贈金セリ。

明治三十七年、日露戰爭ニ際シ、本組合ハ組合員ヨリ金六千圓國庫債券ヲ購入ス。

明治三十七年十月、本組合ハ恤兵圖書大耀市會ヲ舉行シ、其ノ純益金ヲ以テ物品ヲ購入シ、海陸兩軍ヘ献品セリ。

明治三十九年、東北三縣凶作地ノ窮民ヲ救助スル爲メ、本組合ハ組合員ヨリ金五百圓ヲ出金シ、尙、組合員ヨリ釀金シ以テ宮城、福島、岩手ノ三縣ヘ義捐シタリ。

明治四十三年八月、各地ノ水害ハ酸鼻ヲ極メ、家ヲ失ヒ財ヲ流シタルモノ多シ、本組合ハ之ヲ救助スベク組合員中ヨリ募集シタルニ、血性ニ富メル組合員ハ進ンデ此舉ニ賛シ爲ニ豫定以上ヲ募入スルコトヲ得タリ、仍テ救助區域ヲ東京府下ト限定シ、其分配方法ハ全額ヲ東京水災善後會ニ寄託セリ。

### (二五) 寄附金

明治三十四年十一月、委員大橋新太郎君ヨリ亡父ノ遺志ニ依リ本組合基本金トシテ金



壹千圓ヲ寄附セラル。

明治四十二年十二月評議員大橋新太郎君ヨリ圖書陳列館設立費トシテ金五千圓ヲ寄附セラル。

明治四十三年三月評議員丸善株式會社ヨリ前組長小柳津要人君彰功紀念會費ヘ金參百圓ヲ寄附セラル。

明治四十四年四月故大橋省吾君ノ遺族ヨリ同君ノ遺志トシテ金貳百圓ヲ寄附セラル。其他明治三十五年以前ニ於ケル毎年圖書大糶市會ヨリノ寄附金其他ヲ省略ス。

### (乙) 東京書籍商組合員概歴

いろは書房

三輪逸次郎

二代(慶應元年八月二十日生)

東京市淺草區南元町二十四番地  
創業 明治二十六年一月



三輪逸次郎

生國ハ名古屋ニシテ父ハ同所ニ於テ書店ヲ營ミ文華堂ト稱ス。明治十七年出京シ、日本橋腕屋江島喜兵衛ノ店員トナリ、同二十二年同店廢業ト共ニ獨立シ、稗史小説類ノ行商及仲介業ヲ營ミ、同二十六年一月日本橋區濱町ニ於テ出版業ヲ創メ、其後現住地ニ移轉セリ。重ナル出版物ハ小説、字典、圍碁書、俗曲書等ナリ。

育英舍

阪上陽之介

三代(明治三十八年四月十日生)

東京市京橋區南傳馬町一丁目十五番地  
創業 明治五年八月十日



初代ハ阪上半七ト稱シ紀伊國由來ニ生レ、弘化四年八月出京シ、日本橋區通一丁目須原屋書店ノ店員トナリ、後支配人トナル。明治五年八月獨立シ日本橋區吳服町ニ書籍出版業ヲ開始シ「新律綱領」ヲ發布セラル、ヤ率先之ヲ出版シ、明治十七年日本橋本石町十軒店ニ移轉シ育英舎ト稱シテ初等中等教科書ヲ出版シ、明治廿三、廿四、廿五ノ三年間東京書籍出版業者組合ノ委員ニ當選シ、同廿六年及三十一年ヨリ三十四年迄同協議員ニ當選ス。明治三十五年本組合ハ東京書籍商組合ト改稱シ、委員ハ評議員ト改マル、同年評議員ニ當選シ、同四十年九月死亡ス。二代ハ忠之介ト稱シ生國ハ水戸ニシテ舊姓ヲ松信ト云ヒ、阪上ノ養子トナル、初代ノ業務ヲ繼承シ數種ノ教科書及大日本史ヲ刊行シ、四十四年十月死亡ス。三代當主ハ忠之介ノ長子ニシテ未ダ八歳ノ幼者タリ。



阪上陽之介

育 成 會 石 川 榮 司

初代(慶應元年九月二十四日生)

東京市本郷區森川町一番地  
創業 明治三十一年一月一日



石川榮司

生國ハ千葉縣長生郡日吉村ニシテ明治三十一年雜誌教育實驗界ヲ發行シ、次デ明治三十三年三月ヨリ專ラ著作及出版ニ從事シ、倫理心理教育ノ三學書解説及各種ノ教育書ヲ發行シ現在ニ至ル。明治三十五年ヨリ同四十二年迄東京書籍商組合評議員ニ當選ス。

磯 部 甲 陽 堂 磯 部 辰 次 郎

初代(明治十三年一月十八日生)

東京市日本橋區蠟殼町三丁目九番地  
創業 明治三十五年四月一日



磯部辰次郎

生國ハ甲府鍛冶町ニシテ明治三十年十月出京シ、同三十二年二月日本橋區本町三丁目古本商一心堂ノ店員トナリ同區通旅籠町ナル同店支店ニ勤務シ、同三十五年三月退店ス。同年四月一日日本橋區蠟殼町一丁目三番地ニ古本及貸本業ヲ開始シ、其後出版殘本見切物等ノ仲介ヲナス。三十九年六月出版業及販賣業ヲ營ミシガ、四十年



四月販賣業ヲ廢シ、現在地ニ移リ専ラ落語集ヲ出版シ現在ニ及ブ。

### 磯部屋 磯部太郎兵衛

東京市麴町區麴町四丁目十三番地  
創業 天保元年

三代(嘉永六年三月一日生)



磯部太郎兵衛

初代太郎兵衛ハ磯部次郎左衛門ノ次男ニシテ周防國室積ニ生レ、天保元年江戸京橋南傳馬町一丁目ニ書籍販賣及貸本業ヲ開始シ。二代モ太郎兵衛ト稱シ江戸ニ生レ、嘉永三年麴町四丁目現在地ニ移轉シ新古書籍及貸本業ヲ營ミ。三代當主ハ明治三年五月ヨリ貸本業ヲ廢シ出版及古本業ヲ營ミ現在ニ至ル別ニ文昌堂ノ商號アリ。明治十七年ヨリ同三十年迄東京古本商組合ノ副頭取ニ就任シ。明治二十、二十一ノ兩年東京書籍出版業者組合ノ委員ニ當選シ、同二十三、二十四ノ兩年同協議員ニ當選セリ。

### 六合館 林平次郎

東京市日本橋區數寄屋町九番地  
創業 明治二十年二月

初代(文久元年四月十五日生)



林平次郎

生國ハ江戸淺草西鳥越ニシテ明治五年二月十一歳ノ時京橋南傳馬町吉川半七ノ店員トナリ勤續十五年、明治二十年二月退店シ獨立シテ日本橋川瀬石町二番地ニ於テ書籍仲買業(俗ニ糶取ト云フ)ヲ開始シ商號ヲ文魁堂ト稱ス。明治二十二年四月日本橋區箔屋町八番地ニ移轉シ、先主吉川ト合同ニテ上野清著近世算術及代數、佐久間著初等近世算術其他數學書ヲ發行ス。同二十五年一月日本橋區本材木町二丁目ニ移リ、同二十八年四月日本橋區通三丁目六番地ニ轉ス。明治二十九年東京書籍出版業者組合ノ協議員ニ當選シ、翌三十年ヨリ三十四年迄同委員ニ當選ス。明治三十五年本組合ハ東京書籍商組合ト改稱シ委員ハ評議員ト改マル、同年ヨリ今日ニ至ル同評議員ニ當選ス。明治三十二年一月商號ヲ六合館ト文魁堂トヲ併用ス、此



設立ニ係ルモノニシテ、明治初年歐米各國ノ圖書ヲ翻刻發行スルヲ目的トセリ、其後越後ノ弦卷七郎繼承シ又渡邊兵吉經營スルコト、ナリシガ、渡邊廢業ト共ニ六合館ハ同年ヨリ林ガ繼承シテ専有ニ歸シタルナリ。明治三十六年九月教科書制度ノ變更ニ際シ日本書籍株式會社ノ設立スルヤ同社ノ支配人ニ就任シ、同三十七年五月現在地ニ移轉ス。明治三十八年文部省令ヲ以テ教科書制度改正セラレ、其結果合名會社國定教科書共同販賣所ノ設立セラル、ヤ同社ノ支配人ニ就任シ、同三十九年日本書籍株式會社ト合名會社國定教科書共同販賣所ト合併シ、株式會社國定教科書共同販賣所ヲ設立セラル、ヤ同社ノ取締役兼支配人ニ就任シ、同四十一年四月同社常務取締役ニ就任ス。明治四十二年九月新ニ日本書籍株式會社ノ創立セラル、ヤ同社監査役ニ就任シ、同年ヨリ年々醫書組合評議員ニ當選ス。明治四十四年東京書籍商組合副組長ニ就任シ現在ニ至ル。主ナル出版物ハ佐村八郎編國書解題○大西帝國地名辭典○物集高見編日本大辭林○大槻文彦編言海○高橋五郎編いろは辭典○ジョンストン編世界大地圖○長澤算術辭典○濱野編新譯漢和大辭典等其他數十種ナリ。

老 鶴 圃 内

二代 田 淺

東京市日本橋區大傳馬町二丁目十六番地  
創業 明治十三年九月一日



淺 田 内

初代ハ内田芳兵衛ト稱シ福井ノ今立郡岡本村ニ生レ、明治六年出京シ日本橋區横山町二丁目書肆親戚内田彌兵衛方ニ入り勤續七年ニシテ退店シ。明治十三年九月日本橋區通二丁目ニ書籍仲買業ヲ開始シ、同十八年一月現在地ニ移リ、同年士都華氏物理學ヲ出版シタルヲ初メトシ、次テ中等教科書ヲ發行ス。明治二十八年東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ當選シ、同三十一年九月十六日死亡ス。二代(當主)ハ初代ノ妻ニシテ初代ノ業務ヲ繼承シ専ラ中等教科書及參考書ヲ發行シ現在ニ至ル。

合資 六 盟 館

東京市日本橋區鐵砲町三番地  
創業 明治三十六年十月

當社ハ専ラ中等學校教科用圖書ヲ發行販賣シ來リシガ、明治三十八年十月明治圖書株式





丸百七木杉 員社當擔務業

會社ノ設立セラル、ヤ、中等學校教科用圖書ノ製造販賣  
ヲ同社ニ一任シ、單ニ實業學校教科用圖書ヲ出版發行ス  
ルノ方針ト更メタルモ、明治四十四年十一月明治圖書株  
式會社ノ解散スルト共ニ、中等學校用教科書及實業學校  
用教科書ノ發行ヲ主トシ他ノ圖書ノ發行ヲ副トス。  
資本金ハ五萬圓ニシテ創立當時ハ三萬圓ノ拂込ナリシ  
ガ現在拂込高ハ四萬圓ナリ。

創立當時ノ所在地ハ日本橋區通二丁目一番地ナリシガ、明治三十九年三月現在ノ地ニ移  
轉ス。

社員ハ杉本七百九、榊原友吉、目黒甚七、西澤喜太郎、目黒十郎ノ五人ニシテ杉本七百九代表  
者タリ、創立ヨリ現今ニ至ル變更ナシ。

### 博 報 堂 瀨 木 博 尙

初代(安政二年十月生)

東京市神田區三河町一丁目十九番地  
創業 明治三十五年



尙 博 木 瀨

生國ハ富山縣ニシテ、明治三十二年始メテ、めざまし新聞  
社ニ入り、其後獨立シテ「教育新聞」ヲ發刊シ、傍ラ廣告業ヲ  
開始ス。専ラ小學教育參考書ヲ出版シ、明治四十二年内  
外通信社ナルモノヲ興シ新聞社ヘ材料ヲ供給ス。爾來  
新聞ニ雜誌ニ廣告取扱ヲ業トシ、又教育文學ニ關スル數  
十種ノ圖書ヲ發行シ今日ニ及ブ。

### 博 文 館 大 橋 新 太 郎

二代(文久三年七月二十九日生)

東京市日本橋區本町三丁目八番地  
創業 明治二十年六月十五日

生國ハ越後長岡ニシテ十四歳ノ時出京同人社ニ學ブコト三年歸國家業ニ從事ス、明治二  
十年六月十五日先代佐平初メテ博文館ノ名ヲ以テ本郷區弓町ニ業ヲ開キ、雜誌「日本大家  
論集」ヲ發行ス、翌月日本橋區本石町三丁目ニ移轉シ更ニ數種ノ雜誌ヲ創刊ス、當時尙長岡



ニ在リテ越佐毎日新聞ヲ發行シツ、アリシガ翌二十一年三月出京父ト共ニ博文館ノ業務ヲ經營ス、明治二十五年十一月ニ至リ更ニ日本橋區本町三丁目ノ現所在地ニ移轉ス。明治三十年出版業ノ外印刷業及洋紙販賣業ヲ創メ、後者ハ博進社ノ名ヲ以テ山本留次專ラ其經營ニ任ズ、爾來共ニ逐年事業ヲ擴張シ以テ現今ノ博文館印刷所並ニ株式會社博進社トナレリ。



大橋新太郎

明治三十四年先代佐平病歿後其志ヲ繼ギ、金拾貳萬五千圓ヲ寄附シテ財團法人大橋圖書館ヲ設立シ公衆ノ縱覽ニ供ス。

明治二十五年東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ當選シ、翌二十六年ヨリ三十四年迄同委員ニ當選ス。

明治三十五年本組合ハ東京書籍商組合ト改稱シ百事革新ニ盡カスルトコロアリ、同三十六年ヨリ今日ニ至ル十年間同評議員ニ當選ス。

明治三十五年八月東京市ヨリ最大多數ヲ以テ衆議院議員ニ選出ス。

明治三十二年二月東京商業會議所會員ニ當選シ、同三十八年四月副會頭ニ舉ゲラレ、四十四年四月迄在任ス。

明治三十六年小學校教科書ノ制度變更セラレ全國一般國定教科書ヲ使用スルニ際シ、其事業經營ノ主腦者トナリテ現今ニ至ル。(株式會社國定教科書共同販賣所參照)

明治四十一年六月出發歐米諸國ヲ漫遊シ出版業其他一般經濟界ノ狀況ヲ視察シ、同年十二月歸朝。明治四十三年五月渡清實業團ニ加ハリテ清國各地ヲ歴訪シ、同七月歸朝セリ。明治四十五年六月十五日博文館創業二十五周年紀念會ヲ帝國劇場ニ開ク。當時發行ノ雜誌ハ左ノ二十種ナリ。

太陽	地球	文藝俱樂部	演藝俱樂部
女學世界	淑女畫報	少年世界	少女世界
幼年世界	幼年畫報	英語世界	英語少年
中學世界	文章世界	農業世界	實業少年
冒險世界	野球世界	數學世界	鐵道旅行案内

### 合資博進社

東京市神田區錦町一丁目十番地  
創業 明治三十年七月十五日

故大橋佐平、大橋新太郎、山本留次ト共ニ洋紙販賣ヲ目的トシ、資本金參萬圓ノ合資組織ヲ





次留本山 役締取務專

テ現役員ハ左ノ如シ。

專務取締役 山本 留次 取締役 中村 孝吉 取締役 長沼 恒次郎

取締役 中野 武營 監査役 大橋 新太郎

當社ハ歐米ノ大製紙會社ト特約ヲ結ビ、彼ノG(ゴロス)印刷紙、人形印刷紙及二十八番上質紙等ハ東洋一手販賣權ヲ專有シ、其他王子製紙、富士製紙、及内地各製紙會社ノ製品ヲモ販賣擔當ス。

以テ博進堂ト稱シ創立ス。明治三十三年博進社ト改稱シ資本金ヲ拾萬圓ニ増加シ、大阪市東區瓦町二丁目ニ支店ヲ設ク。明治三十七年更ニ資本金ヲ増額シテ參拾萬圓トナシ、洋紙販賣ニ加フルニ洋紙原料ノ輸入ヲ兼營スルニ至ル。同四十三年專務理事山本留次ガ歐米各國ノ視察ヲ爲シ歸朝、翌四十四年資本金ヲ百萬圓ニ増額シ株式組織ニ變更セリ、株主ハ孰レモ大橋及山本ノ一族ニシ

萬書堂 田村奈良吉

初代(明治十年四月生)

東京市本所區新小梅町十二番地 創業 明治四十二年三月



吉良奈村田

生國ハ奈良市中辻町ニシテ、幼ニシテ父母ヲ失ヒ大阪ナル親戚ノ家ニ養ハル。明治二十二年末ニ出京シ、翌年三月東京堂創業當時ニ店員トナリ、同三十九年迄十六年間勤績ス。

明治三十三年十月精勤三等賞ヲ、同三十九年一月精勤二等賞ヲ東京書籍商組合ヨリ授與セラレ。

於テ出版業ヲ開始シ、同四十五年ヨリ書籍雜誌取次販賣ヲ兼業トス。明治三十九年東京堂ヲ退店シ、同四十二年三月現在地ニ



日本堂

布川 甲三

初代(元治元年五月五日生)

東京市本郷區本富士町二番地  
創業 明治三十三年八月十六日



布川 甲三

生國ハ新潟縣三島郡宮本村ニシテ明治十五年出京明治義塾(今ノ中央大學)ニ學ビ、傍ラ板垣伯ノ主宰セル自由新聞社ニ入り、又自由黨ノ文武館タリシ築地新榮町有一館ニ入り、明治二十一年ノ頃條約改正反對ノ爲メ同志ト共ニ數回ノ政談演說會ヲ催シ、次デ三四ノ者ト中越俱樂部ヲ創起シ、自由民權ヲ鼓吹スルトコロアリ。明治三十三年出京シ舊知大橋佐平、大橋新太郎、大橋省吾等ノ援助ニ依リ神田區小川町十六番地ニ書籍業ノ店舗ヲ構ヘ、同三十六年十二月現在地ニ移轉シ販

賣ヲ專ラトシ現今ニ至ル。

明治三十八年ヨリ同四十四年迄七年間、東京書籍商組合評議員ニ當選ス。

日英堂 横尾留治

初代(元治元年四月二十四日生)

東京市神田區錦町  
創業 明治四十一年



横尾 留治

生國ハ宮城縣伊具郡丸森町ニシテ明治十八年宮城縣師範學校ヲ卒業ス、其後日本大學(舊日本法律學校)ニ入り、二十八年七月卒業シ、同三十年ヨリ四十年迄日本大學出版部長トシテ勤務ス。明治四十一年始メテ松華堂ヲ經營シ、専ラ法律經濟書ヲ發行シ、次デ日英堂ヲ開店シ中等教科書ヲ出版シ現ニ齋藤秀三郎著書ノ發賣所タリ。

日進堂 鶴岡五郎

初代(明治十一年四月十五日生)

東京市神田區南神保町十四番地  
創業 明治三十五年九月五日



鶴岡 五郎

生國ハ千葉縣市原郡市西村ニシテ明治二十四年三月出京質商ノ店員トナリ、同三十年十月退店シ、種々ノ商家ニ轉勤スルコト五年、明治三十五年九月始メテ本郷區菊坂町ヘ古本店ヲ開キ日進堂ト稱ス、同三十九年三月神田區錦町三丁目ヘ移轉シ、四十二年五月出版ニ著手シ語學、數學、理化學書ヲ發行セリ、四十三年三月現在地ニ移轉ス。



### 二 松 堂 宮 下 松 太 郎

初代(明治十一年九月生)

東京市神田區錦町一丁目十六番地  
創業 明治三十五年十一月二十五日



宮下松太郎

生國ハ長野縣ニシテ幼ニシテ信濃松本ノ松榮堂店員トナリ勤績七年、明治三十年出京シ、松榮堂大草常章ノ店員トナリ勤績六年、同三十五年十一月獨立シ、神田區上白壁町ヘ二松堂ト號シ書籍仲介業ヲ創ム、其後出版業ヲ營ミ明治四十一年十二月二十五日現在地タル神田區錦町ニ移轉シ、出版及取次販賣ヲ以テ現今ニ至ル。其發行書ノ主ナルモノハ社會學十回講義、社會學小史、ポケット菜根

譚、其他數十種アリ。

### 日本書籍株式會社

東京市日本橋區新右衛門町十七番地  
創業 明治四十二年九月

明治四十二年九月ノ設立ニシテ文部省告示第二五四號國定教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程ヲ遵守シ、文部省ノ監督ノ下ニ國定教科用圖書ノ翻刻發行事業ヲ經營ス。



會長大橋新太郎

創業當時ノ資本金ハ貳拾萬圓ナリシモ、明治四十四年一月參拾萬圓ニ増資シ、新株拾萬圓ニ對シ貳萬五千圓ヲ拂込ミ現在拂込額合計貳拾貳萬五千圓トナレリ、而シテ會社營業ノ成績ハ良好ニシテ、株主ニ對シ每期豫期ノ利益配當ヲナス。

創立當時ヨリ現時ニ至ル重役左ノ如シ。

取締役會長 大橋新太郎 勤績現在

同 勤績現在

同

同

同

同

同 明治四十四年一月迄勤績死亡

同 明治四十四年三月ヨリ勤績現在

同 勤績現在

- |       |       |
|-------|-------|
| 常務取締役 | 龜井忠一  |
| 同     | 大倉保五郎 |
| 取締役   | 江草重忠  |
| 同     | 水野慶次郎 |
| 同     | 西野虎吉  |
| 監査役   | 小立鉦四郎 |
| 同     | 大橋省吾  |
| 同     | 大橋光吉  |
| 同     | 林平次郎  |



### 寶文館 大

葉久吉

東京市日本橋區本石町三丁目十七番地  
創業 明治三十四年十一月二十五日  
初代(明治六年五月十七日生)



大葉久吉

生國ハ岐阜市中竹屋町ニシテ、漸ク長ズルニ及ビ岐阜縣立岐阜尋常中學校ニ入學シ、明治二十四年十一月大阪市東區備後町書籍商吉岡平助ノ店員トナリ、勤續九年ニシテ明治三十三年八月同店ヲ辭シ出京シ、神田區錦町ニ寓居シ、明治三十四年十一月同區駿河臺南甲賀町八番地ニ移轉シ、寶文館ト號シ、書籍業ヲ開始シ、同三十七年七月日本橋區本石町現在地ニ移轉ス。主ナル出版物ハ日本歴史辭典、公民讀本ヲ初メ數百種、又國民經濟雜誌、教育ノ實際等ノ雜誌ヲ發行シ、現今ニ至ル。明治三十八年東京書籍商組合評議員ニ當選シ、八年重任現今ニ至ル。

### 本郷書院

吉田正太郎

初代(文久二年一月六日生)

東京市本郷區東片町十番地  
創業 明治三十四年

生國ハ埼玉縣秩父郡小鹿野ニシテ、明治十五年出京、神田區小川町九番地ニ書籍店ヲ開業



吉田正太郎

シ五六種ノ出版ヲナセシガ、同二十四年ニ至リ廢業ス。明治三十四年本郷區東片町二十六番地ニ於テ再ビ出版業ヲ開始シ、與謝野晶子ノ『毒草』ヲ初メ三四種ヲ發行シ、次デ小泉八雲ノ『民謠全集』藤岡作太郎ノ『異木山家集』等ヲ發行ス。亦明治三十七年ヨリ冒險小説數十種ヲ發行シ、今又少女小説類ノモノヲ發行スルニ至ル。

### 會社 北隆館書店

東京市京橋區元數寄屋町三丁目七番地  
創業 明治三十四年十月

當社創立當時ハ北國組ト稱シ、金澤ノ宮都宮源平、福井ノ品川太右衛門、高岡ノ磯野小兵衛、富山ノ福田金次郎、其他六人ノ共同經營ニシテ、其當時北國筋ニハ未ダ今日ノ如ク交通機關發達セザリシヲ以テ新聞雜誌ノ遞送敏活ナラズ、仍テ前記同志十人各參拾圓ヲ出資シ、合計參百圓ニテ北國組ヲ組織シ、尙東京ニ出張所ヲ設クルコトニ決シ、明治二十四年九月福田金次郎一切ヲ擔任シテ出京シ、即チ北國組出張所ヲ創立ス、爾來新聞雜誌ノ發送ニ便





福田金次郎 業務擔當社員

ズルトコロアリ、明治二十七年五月京橋區館屋町ニ移轉シ、同時ニ巖々堂雜誌部ノ全部ヲ讓受ケ北隆館ト改稱シ、全國各地ノ書籍業者ニ對シ取次販賣ヲ開始ス。明治二十九年十二月學齡館發行『少國民』ヲ引受、之ガ出版經營シタルガ同三十四年他ヘ之ヲ讓渡ス。明治三十一年七月組織ヲ變更シテ北隆館合資會社ト改メ、業務擔當員ハ依然福田金次郎之ニ當リ、其後新聞部ト書籍部トヲ區分スル必要起リ、明治三十六年十二月合資會社北隆館書店ト改稱シ現在ニ至ル。

### 法木書店

法木德兵衛

二代(文久二年十一月二十七日生)

東京市日本橋區住吉町二十番地  
創業 明治五年五月五日

生國ハ江戸深川ニシテ幼ニシテ法木ノ養嗣子トナル、明治四年毎日新聞ノ横濱ニ於テ發行スルヤ、同社長島田豐寛トハ姻戚ノ關係上同新聞ノ東京支局主任トナリ、又東京日々、郵便報知其他ノ新聞雜誌ノ發行セラル、ヤ率先シテ其レガ賣捌ヲナシ、傍ラ新聞紙ニ連載セル小説ヲ單行本トシテ發行セシモ事情ノ爲メ明治二十年十二月閉店シ。同二十一年

新聞雜誌發賣會社ヲ起シタルモ再ビ閉店ノ止ナキニ至ル。其後東京テレメン會社、鐵道貸本所其他會社ノ創立ニ從事セシモ好果ヲ得ズ、暫ク石版印刷業ヲ營ミシモ是又明治四十年ニ至リ閉場ス。即チ明治四十一年ヨリ俗曲稽古本ノ發行ヲ專ラトシ以テ現在ニ至ル。別ニ漸進堂ト稱ス。

### 勉強堂書店

岸野英一

初代(明治二年九月十七日生)

東京市神田區錦町二丁目二番他  
創業 明治三十二年九月二十五日



岸野英一

生國ハ新潟縣南魚沼郡湯澤村ニシテ明治二十三年三月三日出京シ、翌四月東京堂創業ヨリ入店ス、同二十六年退店シ山栗米店ヘ白米商見習トシテ勤務シ、同二十七年二月一日芝區田村町六番他ヘ白米店ヲ開業シ、同三十二年八月之ヲ他ニ讓リ、同年九月現在地ヘ勉強堂書店トシテ書籍雜誌ノ取次業ヲ開始シ、傍ラ出版ヲ爲シ今日ニ及ブ、別ニ文王閣ト稱ス。

當選シ、大正元年八月株式會社大正堂ノ創立セラル、ヤ同取締役ニ就任ス。



### 吐鳳堂 田中 增藏

初代(慶應元年四月二日生)

東京市本郷區龍岡町三十四番地  
創業 明治二十六年七月三日

生國ハ江戸神田豊島町ニシテ明治十年三月醫書専門業英蘭堂島村利助ノ店員トナリ同十九年三月退店シ、神田區柳原通りニ床店ノ古本商ヲ創メ、同二十年五月神田區田代町ニ

移轉ス。明治二十二年四月廢業シテ豊島町ニ移リ、同二十六年六月本郷區龍岡町三十四番地ニ移轉シ、翌月三日吐鳳堂ト稱シ醫學書出版ヲ專業トシ同三十二年七月同所同番地ノ現在地ニ移轉ス。

明治三十二年及三十三年ニ東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ當選シ、同三十八年及同四十四年ヨリ現今ニ至ル、東京書籍商組合評議員ニ當選ス。



田中 增藏

明治四十年九月本郷區駒込林町百七十二番地へ活版印刷所杏林堂ヲ設置シ、醫學書及醫學雜誌ノ印刷ヲ專業トス。

明治四十三年三月聚精堂ヲ設ケ一般書籍ノ出版ヲ兼業トス。

### 東海堂 川合 晉

初代(萬延元年十月二十三日生)

東京市京橋區尾張町二丁目二十六番地  
創業 明治十九年五月十五日

生國ハ静岡縣小笠郡中内田村ニシテ明治十八年五月出京、翌月品川玻璃製造所ニ雇ハレ同年九月同所ヲ辭シ、其年十月本郷區湯島天神町ニ於テ下宿業ヲ營ミ、翌十九年三月廢業シ、同年五月十五日神田區佐栢木町二十一番地ニ於テ新聞雜誌賣捌業ヲ開始シ東海堂ト稱ス。其後現在地へ移轉シ圖書販賣ヲ併營シ、三十九年『家庭及教育』ヲ發行シ、爾來引續キ出版業ヲ兼營スルニ至ル。



川合 晉

明治二十七年及二十八年三十年ノ三回東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ當選シ、同二十九年及三十一年ヨリ三十四年迄同委員ニ當選ス。明治三十五年本組合ハ東京書籍商組合ト改稱シ委員ハ評議員ト改マル、同年ヨリ

現今迄十一年間評議員ニ當選ス。

明治三十一年一月東海信文合資會社ヲ創立シ其業務擔當社員トナリ、同三十八年株式會



社東部書館ノ監査役ニ就任シ、四十年十月同社解散ニツキ退職シ、四十五年歌舞伎座取締役ニ就任シ現今ニ至ル。

### 東洋印刷株式會社

東京市芝區愛宕町  
創立 明治三十九年二月

當社ハ信陽堂石版所及猶興舎石版所等ノ事業ヲ繼承シ資本金五拾萬圓ヲ以テ創立シ、其

後活文堂ヲ買收シ更ニ進ンデ帝國印刷株式會社ト合併シ資本金ヲ六拾五萬圓ニ増加ス、而シテ營業ノ課目ハ活版、石版、凸版、銅版、電氣版、コロタイプ等ノ製版印刷及鑄造活字ノ販賣ヲ以テス。役員ノ氏名左ノ如シ



昌猛塚手 役締取務專

監査役 加藤駒二 監査役 鈴木梅四郎

取締役社長 手塚 猛 昌 取締役理事 岡村竹四郎  
取締役 原 亮一郎 取締役 岡本貞然  
取締役 堀 健吉 取締役 大野富士松

### 東洋社 石川正作

東京市本郷區駒込千駄木町三十八番地  
創業 明治三十年四月

初代(慶應元年三月十一日生)



作正川石

當選シテ現今ニ至ル。

生國ハ三重縣伊勢國阿藝郡合川村大字徳居ニシテ明治二十五年四月十五日出京シ、爾後文學社、國光社等ノ編輯ニ従事ス。明治三十年四月東洋社ヲ創メ雜誌「女子の友」ヲ發行シ、専ラ女流、家庭、教育、考古學等ニ關スル著書ヲ發行シ、又教育用品、西洋樂器ノ製作販賣ニ従事シテ今日ニ至レリ。

明治三十五年東京書籍商組合評議員ニ當選シ爾來年々

### 東陽堂 吾妻健三郎

東京市神田區通新石町三番地  
創業 明治八年三月

初代(安政三年二月九日生)

生國ハ山形縣ニシテ米澤藩吾妻壽庵ノ第三子ナリ、明治五年一月父ノ訓諭ニ依リ出京シ攻玉舎ニ入學シタルモ學資遂ニ給セズシテ退學シ、某寺院ニ寄食スルコト半年、醫家某ノ





吾妻健三郎

學僕トナリ獨學ノ進ムニ從ヒ共慣義塾ノ副教師トナリ、大學南校内ニ創設セラレタル製作學教場ニ通學スルヲ得タルモ學費ニ乏シ。會々銅版印刷ヲ目撃シ斯業ヲ以テ身ヲ立テントワグネル教師ニ就キ銅版彫刻ノ技ヲ學ビ、明治八年三月始メテ日本橋區葺屋町ニ印刷業ヲ開キ東陽堂ト稱シ、自著ノ掌中數學書ヲ發行ス。其後舶來模造ペーパーヲ創製シ、次デ石版印刷業ニ著手シ、之ヲ毛筆畫ノ印刷ニ應用シ而シテ本邦ノ古畫ヲ模寫シ、西洋畫ノ光線法ヲ改メ我有線畫ニ應用スベキ新方法ヲ案出ス。明治二十二年二月『風俗畫報』ヲ發行シ、又農商務省地質調査所ノ印刷物ヲ引受ケタルコトアリ、以テ今日ニ及ブ。

東雲堂 西村寅次郎

初代(安政二年九月二十日生)

東京市京橋區南傳馬町三丁目十番地 創業 明治二十三年十月

生國ハ岐阜縣本巢郡生津村ニシテ初メ名古屋ニ於テ書籍販賣ヲ業トセシガ、明治二十三年十月出京シ京橋區中橋和泉町四番地ニ於テ圖書出版ノ業ヲ創ム。同二十六年六月日



西村寅次郎

本橋區通四丁目七番地ニ移轉シ、同二十九年八月故高須廣治、故三好守雄、奥村金次郎、木田吉太郎等ト計リ、日本橋區下槇町十一番地ニ東京圖書出版合資會社ヲ設立シ業務擔當社員タリ、明治三十九年八月同社存立期滿期ニツキ解散シ、而シテ四十年八月現在地ニ移轉シ専ラ出版業ヲ營ミテ今日ニ及ブ。

東亞堂 伊東芳次郎

初代(明治十四年十一月二十九日生)

東京市神田區鍛冶町八番地 創業 明治三十六年十二月六日



伊東芳次郎

生國ハ東京市京橋區三十間堀二丁目四番地ニシテ、薪炭商紅屋伊東安兵衛ノ三男ナリ。明治三十六年十二月本郷區本郷一丁目九番地ニ於テ書籍小賣業ヲ開始シ、翌三十七年八月ヨリ出版業ヲ兼營ス。明治四十三年十二月二日現在地神田區鍛冶町八番地ニ移轉シ、小賣業ヲ廢シ出版專業トナリテ現在ニ及ブ。



### 株式東亞公司

東京市日本橋區新右衛門町十六番地  
創業 明治三十八年三月

當社ハ明治三十八年三月ノ創立ニシテ本店ヲ東京ニ置キ支店ヲ清國上海英租界河南路百〇二號ニ置キ主トシテ清韓兩國ニ於ケル書籍賣藥教育品ノ製造販賣及輸出入業委託販賣並ニ各種代理業ヲ營ム。

現在資本金拾貳萬五千圓ニシテ重役ハ左ノ如シ。

- 取締役社長 大橋新太郎 常務取締役 山本留次
- 取締役 柿沼谷藏 取締役 津村重舍
- 取締役 龜井忠一 取締役 堀内伊太郎
- 監査役 西澤善七 監査役 三木佐助
- 監査役 山田安民 監査役 大倉保五郎



社長大橋新太郎

### 合資東京堂

東京市神田區表神保町三番地  
創業 明治四十四年二月

東京堂ハ明治二十三年博文館創立者大橋佐平ノ次男大橋省吾ノ創業セルモノニシテ雜



東京堂創業者大橋省吾

誌圖書ノ販賣業ヲ主トシ傍ラ出版業ヲ兼營シ來リシモ明治四十四年一月大橋省吾死亡シタルヲ以テ此事業ヲ永遠ニ繼續セシガ爲メ同族ノ合資會社ニ組織ヲ變更シ資本金ヲ拾萬圓ト定メ大橋正介代表社員トナリ博文館大橋新太郎之ヲ監督シ以テ現今ニ及ブ。

### 東盛堂 越元次良

東京市日本橋區龜殼町三丁目一番地  
創業 明治三十七年

初代(明治八年四月生)

生國ハ東京市神田區雉子町ニシテ明治三十七年現在地ニ於テ書籍業ヲ開始シ同四十四年ヨリ圖書出版業ヲ營ミ今日ニ及ブ。



越元次良



### 東京印刷株式會社

東京市日本橋區兜町二番地  
創業 明治七年六月



錫野星 役締取務專

當社ハ初メ王子製紙會社ノ分社トシテ明治七年橫濱ニ同八年東京ニ本社ノ製紙販賣ヲ兼ネ、印刷機關ヲ創設シタル兩製紙分社ノ後身ニテ、當時各官衙ノ帳簿洋式ニ改マルノ際其製作ノ大分ハ當社ニテ成レリ。明治二十九年六月兩製紙分社ノ財産ヲ擧ゲテ資本金十五萬圓ヲ以テ東京印刷株式會社ハ組織セラレタルナリ、其後深川區東大工町ニ工場ヲ設立シ、同四十一年七月更ニ三十五萬圓ヲ増加シ、資本金合計五十萬圓トハナレリ。當社營業ノ成績ハ獨立以來常ニ良好ニシテ純益金四十六萬一千九百八十九圓、株主配當金三十一萬三千九百六十四圓ニ達シ、現在積立金十一萬三千八百八十一圓ヲ算スルニ至レリ。

### 東京造書館

塚本岩三郎

初代(文久三年十二月二十八日生)

東京市京橋區奈十郎町十一番地  
創業 明治二十五年一月



塚本岩三郎

生國ハ三河國豐橋ニシテ吉田ノ藩士ナリ、明治九年出京シ同人社慶應義塾等ニ學ビ、次デ工部大學附屬美術學校ニ入學シ、洋畫ヲ研究シ且石版彫刻ノ術ヲ學ブ。明治二十五年東京造書館ヲ創設シ、專ラ教育書ノ出版ニ從事シ進ンデ各中小學校各教科目ニ要スル掛圖ヲ發行シ、支那印度布哇南米等ヘモ輸出スルニ至ル。其後日清戰役ノ油繪大幅調製ノ恩命ヲ蒙リ、而シテ各種教育掛圖ハ各宮家ヨリ御買上ヲ辱フス。明治四十二年七月東京石銅版印刷業組合ノ評議員ニ就任ス。四十三年八月東京書籍株式會社ノ評議員ニ就任ス。

### 東京書院

磯村政富

初代(嘉永五年六月生)

東京市四谷區愛住町二番地  
創業 明治二十二年六月

生國ハ愛知縣名古屋藩士ニシテ明治二十二年二月出京シ、同年六月警察監獄學會ヲ創立





富政村磯

本登録商標大全ノ如キモ、特許局ニ於テ官版トナスベキヲ引受ケ、既ニ第四輯ヲ發行スルニ至リ以テ今日ニ及ブ。

### 東京書籍株式會社

東京市小石川區指ヶ谷町百三十六番地  
創業 明治四十二年九月二十七日

明治四十二年九月原亮一郎、阪本嘉治馬、宮川保全、三樹一平、森山章之丞、橋本忠次郎、大柴四郎、小林義則、小柳津要人ノ發起ニ係リ、國定小學校教科用圖書ノ翻刻發行ヲ目的トシテ創立シ、神田區鎌倉河岸七號地ニ本社並ニ附屬工場ヲ假設シ、同年十一月十八日始メテ文部



原亮一郎

大臣ヨリ翻刻發行圖書ノ指定ヲ受ケテ事業ニ著手シタリ。翌四十三年六月現在ノ場所ニ事務所並ニ工場ヲ新設シテ之ニ移轉セリ。當社現時ノ役員ハ左ノ九人ニシテ何レモ創立當時ト異動ナシ。

取締役會長 原 亮一郎  
常務取締役 大柴 四郎

常務取締役 三樹 一平  
取締役 阪本嘉治馬  
取締役 宮川保全  
取締役 森山章之丞  
監査役 橋本忠次郎  
監査役 小柳津要人  
監査役 小林義則

創立當時ノ資本金ハ二十萬圓ニシテ、同年十一月全額ノ拂込ヲ了シ、翌四十三年十一月十



萬圓ヲ増資シテ三十萬圓トシ、現在拂込高合計金二十二萬五千圓トナレリ。

### 東京圖案印刷社

黒田久吉

初代(明治十一年三月生)

東京市神田區仲町一丁目十六番地  
創業 明治三十六年十一月

生國ハ大阪島之内ニシテ、父ハ製綿職タリ。幼ニシテ父ヲ失ヒ十歳ノ時小間物店ニ雇ハレ而シテ同家ノ分業タル洋酒店ニ勤務ス。明治二十七年ニシテ家兄ノ歿後ヲ繼承シテ製綿夜具業ヲ營ミ、同三十年難波製綿株式會社專務取締役ニ就任シ、其後任意解散ス。明治三十五年出京シ、神田東明館内土田小間紙店ニ雇ハレ主人ト會議シテ繪葉書ヲ發賣ス、翌年今川小路ニ獨立シ繪葉書ヲ發行シ、又表神保町ニ移轉シ浪華屋ト稱ス。明治三十九年八月現在ノ地ニ移リ各種印刷物ヲ引受ケ、繪葉書、寫眞帖ノ類ヲ發行シ、商號ヲ東京圖案印刷社ト改稱ス。嘗テ京濱繪葉書業同志會ノ幹事ニ就任シ、其後同會ハ解散サレ、日本繪葉書交友會ノ成ルヤ幹事ニ當選シ以テ今日ニ及ブ。

### 東京崇文館

山岸見喜壽郎

初代(明治二十七年十月二十一日生)

東京市神田區裏神保町二番地  
創業 明治三十八年十二月十五日

生國ハ東京市神田區裏神保町ニシテ明治三十八年十二月現在地ニ出版業ヲ開始シ崇文館ト稱シ、其後文書館ノ商號ヲ併用ス、明治四十五年東京崇文館ト改稱シ今日ニ及ブ。

### 統文館

眞田爲治

初代(慶應二年十月十一日生)

東京市神田區淡路町一丁目一番地  
創業 明治三十年三月十日



眞田爲治

生國ハ山梨縣甲府市大田町ニシテ眞田左衛門ノ三男ナリ、明治二十三年四月出京シ、神田區小川町一番地ノ東京法學校現廢校ニ入學シ二年ニシテ退學ス、同二十四年八月神田區表神保町金蘭社ノ店員トナリ、同二十六年十月退店シ、同年十一月二六新報社ニ入社シ廣告部ノ主任タルコト三年、同新聞休刊ニ際シ退社ス。明治三十年三月神田五軒町ニ轉シ雜誌『華の江戸』及『都錦』等ヲ發行ス。三十四年十月神田區淡路町ノ現在地ニ移轉シ眞田書店ト稱シ、法律書ヲ出版シ兼テ文官普通試驗學科講習會ヲ創設シ講義録ヲ刊行ス。四十二年一月統文館ト改稱シ專ラ法律書講義録ヲ發行シ、今日ニ及ブ。



### 島 鮮 堂 綱 島 龜 吉

二代(明治四年四月三日生)

東京市日本橋區馬喰町二丁目十四番地  
創業 明治元年四月



綱島龜吉

生國ハ埼玉縣大里郡深谷町ニシテ初代ハ龜吉ト稱シ、淺草區瓦町ニ於テ書籍業ヲ創メ、高橋お傳、島田一郎等ノ合卷本數種ヲ發行ス、明治十五年現在地ニ移轉シ、芳年ノ「風俗三十二相」及「武者繪」又ハ二枚續キノ東錦繪等ヲ出版ス。明治三十年四月當主家督相續シ襲名シテ龜吉ト稱ス、爾來錦繪、石版畫、小説本等ヲ出版シ、其後活版機械ニ掛ケテ木板色刷畫本、お伽畫本、歴史畫及百人一首、雙六等ヲ出版シテ現在ニ至ル。

### 同 文 館 森 山 章 之 丞

初代(明治四年十二月生)

東京市神田區表神保町二番地  
創業 明治二十九年四月三日

生國ハ島根縣松江ニシテ代々松平出羽守ノ藩士タリ。明治十六年大阪ニ出テ書肆文學社支店ニ勤務シ、翌年東京本店ニ轉ジ、爾後勤続十年、會々日清戰役ニ當リ貨物ヲ載セテ元



森山章之丞

山津ニ渡航シ商況ヲ視察スルコトアリ、準備ノ爲メ一たび歸朝シタルモ家事ノ都合上再ビ出版業ニ従事スルコト、ナリ、明治二十九年四月始メテ神田區通新石町ニ書籍小賣店ヲ創ム。斯シテ「商業立身案内」ニ次デ「商業實務誌」ヲ發行シ、之ヨリ専ラ商業書類ノ出版ニ著手ス。其後「教育實驗界」ト題スル雜誌ヲ發行シ、亦各種ノ教育書ヲ出版ス。明治三十一年「商業世界」ヲ發行シ、翌年「教育學術界」ヲ起シ、同年現在地ニ移轉ス。明治三十三年巴里ニ於ケル世界大博覽會ノ開設ヲ機トシ歐洲漫遊ノ途ニ上リ、各國ノ出版業ヲ視察スルコト一年、歸朝後ハ専ラ商業、經濟、財政、教育書ヲ出版シ、同三十五年ニ至リ「大日本百科辭書」ニ著手シ、三十八年五月初メテ其ノ一部タル「商業大辭書」第一冊ヲ出版シ、現在ニテハ商業、醫學、教育、法律、哲學ノ五大辭書ハ完成シ、工

業、經濟、農業ノ三種ノ完成亦近キニアリ。

明治三十四年東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ當選シ、同三十五年ヨリ現今迄十一ヶ年東京書籍商組合ノ評議員ニ當選ス。

明治三十七年「商業界」ヲ發行シ、後ニ「實業界」ト改題シ、翌年「日本の家庭」ヲ起シ、後ニ「婦女界」ト



改題ス。同三十九年雜誌『小學校』ヲ起シ、四十四年ニ『小學生』ヲ發刊ス。  
明治四十二年九月東京書籍株式會社ノ創立セララル、ヤ、取締役ニ任就シ爾來再任以テ今日ニ至ル。

### 千代田書房

寺本安之助

初代(明治七年六月二十八日生)

東京市京橋區南傳馬町一丁目十三番地  
創業 明治四十二年二月十一日

生國ハ大阪市東區兩替町二丁目ニシテ、明治十八年九月大阪市南區心齋橋筋松村文海堂ノ店員トナリ同四十二年迄勤續シ、同年二月出京シ京橋區南傳馬町一丁目三番地ニ於テ文山堂ト稱シ書籍業ヲ創ム。初メ京阪地方ノ出版物委託販賣ヲ專ラトセシガ、約五ヶ月ニシテ廢業シ、同時ニ千代田書房ト改稱シ出版ヲ專業トシ小説二三ヲ出版ス。明治四十三年二月日本橋區上横町ニ移轉シ、叢書『千代田文庫』ヲ發行シ、半途ニシテ廢メ、翌年十月下谷區池ノ端七軒町ニ移リ、四十五年現在地ニ轉ジテ今日ニ及ブ。

### 女子文壇社

野口竹次郎

初代(慶應三年十月十四日生)

東京市京橋區大銀町十番地  
創業 明治三十八年一月一日



野口竹次郎

生國ハ新潟縣長岡ニシテ明治十五年ノ頃博文館前館主故大橋佐平經營ノ越佐毎日新聞社ノ編輯局員トナリ、同二十年九月二十四日迄勤續シ、翌二十五日出京直ニ博文館ノ店員トナリ三十七年六月十五日迄勤續シ、退店ノ際一時金數千圓ト終生年金數百圓ヲ給セララル。

明治三十三年及三十七年ニ東京書籍商組合ヨリ三等及二等褒賞ヲ授與セララル。

明治三十八年一月一日獨立シテ女子文壇社ヲ起シ、雜誌『女子文壇』ヲ發刊シ、四十二年九月『少女』ヲ發刊シ、後ニ『お伽世界』ト改題シ、其他圖書十數種ヲ出版シ現今ニ至ル。



良 明 堂 中 井 眞 三

二代(明治十三年三月六日生)

東京市京橋區西紺屋町十六番地  
創業 明治十一年二月

初代ハ山本良助ト稱シ静岡縣安倍郡清水町ニ生レ、十二歳ニシテ出京京橋區南新堀ノ親戚醬油酢商森田半兵衛ノ店員トナリ、三十二年間勤續之ヲ辭シ、明治十一年二月十一日日本橋新葭町十二番地ニ賣藥及新聞雜誌書籍業ヲ營ミ、同二十一年京橋區三十間堀一丁目ニ移轉シ、更ニ二十五年京橋區南傳馬町二丁目ニ移リ其業ヲ當主ニ讓ル。  
二代(當主)ハ初代ノ三男ニシテ小學校ヲ修業シテ東京府第一中學校ニ入り、更ニ日本中學、國民英學會等ニ學ビ中途退學シテ自家營業ニ從事シ、専ラ新聞雜誌書籍ノ卸賣ヲナス。  
明治二十八年京橋區鎗屋町ニ移リ、同四十一年ヨリ出版業ヲ創メ、又副業トシテ京橋區彌左衛門町十三番地ニ手工用品ノ販賣ヲ營ム、明治四十二年四月現在地ニ移轉シ以テ今日ニ及ブ。

隆 文 館 草 村 松 雄

初代(明治十二年三月生)

東京市京橋區南鍋町一丁目二番地  
創業 明治三十七年二月

生國ハ熊本縣玉石郡彌富村ニシテ、夙ニ東京ニ遊學シ、明治三十三年東京專門學校文學科



草 村 松 雄

ヲ卒業シ、其後二三新聞雜誌ノ記者タリシガ、同三十五年四月金港堂編輯部ニ入り、雜誌「青年界」及「文藝界」ヲ擔任シ、一二ノ著書ヲ刊行シタルコトアリ、同三十七年二月獨立シテ出版業ヲ營ミ、京橋區尾張町一丁目一番地へ合資會社隆文館ヲ組織シ、文藝、美術、小説等ノ書ヲ出版ス、其後株式會社ニ變更シ專務取締役トナリ、而シテ現在地ニ移轉ス。  
明治四十三年四月三十日株式會社ヲ解散シ、權利義務ノ一切ヲ舉ゲテ其儘個人ニ引繼ギ、四十四年五月以後十月マデ舊關係者内田晋次郎ニ名義ヲ變更シ、單ニ顧問トシテノ關係ヲ持續シタルガ、再ビ起ツテ自己ノ營業トナシ以テ今日ニ及ブ。



# 大倉書店 大倉保五郎

二代(安政四年五月四日生)

東京市日本橋區通一丁目十九番地

創業 明治八年九月十五日

初代ハ孫兵衛ト稱シ天保十四年四月八日江戸ニ生ル、父ノ繪及紙業及出版業ヲ繼ギ錦榮堂、萬屋ノ商號ヲ用フ。明治二十二年以降二十四年迄東京書籍出版業者組合ノ委員ニ當選ス。明治二十二年繪及紙店ヲ廢シ洋紙店ヲ開始ス

明治三十五年十月書籍業ノ全部ヲ現主ニ譲リ、同三十六年小學校教科用圖書ノ國定トナルヤ、文部省ノ許可ヲ得テ其翻刻發行者トナリ四十二年迄繼續ス。

二代當主ハ千葉縣木更津町ニ生レ、慶應三年三月江戸ニ出デ大倉家ニ入り、同年日本橋小網町石本砂糖店ノ店員トナリ、明治八年迄九ケ年間勤續シ退店後、兄ノ經營セル



大倉保五郎

繪及紙業ヲ助ク。初代ガ森村市左衛門ト共ニ外國貿易ヲ創業スルニ當リ書籍業ノ一切ヲ擔任シ、須原屋、山城屋ト共ニ和漢書籍ヲ販賣シ、明治十四年以來『梅嶺百鳥畫譜』『省亭花鳥集』『瀧和亭耕香館畫牘』等數十種ノ畫譜ヲ出版シ海外ニ輸出ス。同十九年日就社長子

安俊著『第二版英和字彙』ヲ訂正出版シ、且ツ其當時未ダ使用セザル七號漢字活字ヲ創製シ、之ヲ島田豊譯『和譯英字彙』ニ使用ス、コレ七號漢字活字ニテ辭書ヲ製版シタル嚆矢ト云フベシ。其他英和、和英、獨和、和獨、佛和、和佛等ノ語學辭書ヲ出版スルコト數十種ニ及ビ、同三十六年發行ノ落合直文編『ことばの泉』ヲ初メ、主ナル出版物ハ○登張信一部編獨和大辭典○ナンベル漢字ヲ創製使用シタル芳賀矢一編新式辭典○三橋ノ大建築學○森、松野ノ汽關工學及ビ商業書、家庭書、地圖等ナリ。

明治三十一年日本橋區南茅場町ニ製版部ヲ設ケ、同三十九年ニ京橋築地榮町五丁目ニ印刷工場ヲ設ケ前記ノ製版部ヲ之ニ移轉ス。

明治二十五年ヨリ同三十四年迄十ケ年東京書籍出版業者組合ノ委員ニ當選シ、同三十五年本組合ハ東京書籍商組合ト改稱シ委員ハ評議員ト改メ、同年ヨリ今日迄同評議員ニ當選シ。其間四十一年ヨリ今日迄同副組長ニ就任ス。

明治四十三年十月醫書組合幹事ニ當選シ、同四十二年以降中等教科書協會幹事ニ就任シ共ニ今日ニ至ル。

明治三十六年九月日本書籍株式會社ノ常務取締役ニ就任シ、同三十九年八月退任ス。三十八年三月株式會社東亞公司ノ監查役ニ就任シ、同三十九年八月株式會社國定教科書共



同販賣所ノ監査役ニ就任シ、同四十一年七月同取締役ニ就任ス。同四十二年九月日本書籍株式會社常務取締役ニ就任シ共ニ在現ニ至ル。

### 大川屋 大川 錠吉

初代(弘化三年六月九日生)

東京市淺草區三好町七番地  
創業 慶應四年八月二十三日

生國ハ武藏入間郡横沼村ニシテ、幼ニシテ父ニ從ヒ江戸ニ出デ、十二歳ニシテ書店淺倉屋

久兵衛ノ店員トナリ、貸本部ニ勤績スルコト十年、慶應四年八月獨立シテ深川西町ニ貸本業ヲ營ム。明治二年現在地ニ移轉シ、同十八年ニ至リ貸本業ヲ廢シ書籍出版及取次販賣ヲ開始ス。



大川 錠吉

明治二十五年以降三十一年迄東京地本彫書營業組合ノ評議員ニ當選シ、翌三十二年ヨリ今日迄同頭取ニ就任ス。明治二十七年及三十四年ニ東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ當選シ、同三十五年ヨリ今日迄東京書籍商組合ノ評議員ニ當選ス。別ニ聚榮堂ノ商號ヲ併用ス。

### 大屋書房 額房 太郎

初代(文久三年二月十日生)

東京市神田區裏神保町二番地  
創業 明治十五年

生國ハ江戸淺草諏訪町八番地ニシテ、明治七年二月日本橋下横町大和屋江藤嘉兵衛ノ店員トナリ、同十五年迄勤績シ、同年主家閉店ニツキ退店シ同年ヨリ淺草馬道町七丁目一番地ニ於テ書籍仲買業(糶取)ヲ開始ス。明治二十年日本橋區蠣殼町二丁目ニ移轉シ書籍商ヲ開店シ、同二十二年神田區南神保町ニ移リ、其後現在地ニ轉ズ。明治二十五年ヨリ圖書大雜市會舉行毎ニ其ノ競賣者トナリ、明治三十五年圖書大雜市會ガ組合直接ノ經營トナルヤ、同ジク競賣者トナリ、茲ニ第十回



額房 太郎

ヲ迎ヘテ今日ニ及ベリ。



### 梶屋江島伊兵衛

東京市日本橋區通四丁目八番地  
創業 文久三年  
三代(明治二十八年四月生)

初代ノ父ハ難波ニ於テ梶屋ト稱シ蒲鉾商ヲ營ミ「梶屋蒲鉾」ノ名ヲ以テ知ラレタルモ初代ハ業ヲ棄テ江戸ニ出デ日本橋石町ニ書店ヲ開始シ商號ハ舊號梶屋ヲ使用ス。店員ニ茂

木新三郎ナルモノアリ、初代ハ其レヲ養嗣子トナシ、遂ニ伊兵衛ノ名ヲ譲リ、現在地ニ移轉ス。



江島伊兵衛

二代ハ下總野田町ノ生ニシテ、初代ノ養嗣子トナリ、多ク遠國ニ出遊シ、足偶々金澤ノ地ヲ踏ンデ謠曲ノ盛ナルヲ看取シ謠曲本ノ刊行ヲ企テ、業半成リテ明治三十二年死

亡ス。  
三代ハ欽治郎ト稱シ、父ノ歿後襲名シテ伊兵衛ト改ム。

私立商工中學校ヲ卒業シ家業ニ從ヒ以テ今日ニ至ル。

### 學海指針社 前川

初代(安政五年十二月十九日生)

東京市神田區昌平河岸四號地  
創業 明治二十年六月



前川一郎

生國ハ福島縣白河町ニシテ、夙ニ阿部藩ノ儒者大原滿治ニ師事シ經史詩文ヲ修ム、栃木縣師範學校ヲ卒業シ、同縣下ノ教育事務ニ從フコト前後十四年、其間文部省縣廳ヨリ受賞スルコト數次。明治二十年ニ出京シ學海指針社ノ創立ニ預リ學術雜誌「學海之指針」ヲ發行シ、又多クノ小學校教科書ノ編輯ヲ主宰シ、之ヲ集英堂ニ於テ發行ス、其後小學校教科用書ガ國定制トナルニ及ビ集英堂ノ事業ヲ繼承シ、明治三十七年十月株式合資會社學海指針社ヲ組織シ其社長トナリシガ、翌年株主ノ任意ニヨリ之ヲ解散シ、更ニ學海指針社ヲ獨立經營トシ、以テ出版業ノ外教育品ノ製造販賣ヲモ兼營シ以テ今日ニ至ル。

### 開拓社 隅谷巳三郎

初代(明治二年四月二十七日生)

東京市麻布區谷町六十三番地  
創業 明治二十九年七月一日





隅谷 三三郎

生國ハ東京府澁谷ニシテ、明治二十九年七月、竹越與三郎等ト共ニ月刊「世界之日本」、日刊「世界之日本」ヲ發行セシガ其後二ツナガラ廢刊シ、専ラ書籍ノ出版販賣ヲ業トス。明治三十七年九月ヨリ基督教書類會社ノ事務ヲ兼務シ以テ今日ニ至ル。

好文堂 小池

池 保 吉

初代(慶應四年一月二十一日生)

東京市神田區錦町三丁目七番地  
創業 明治三十一年三月二十一日



小池 保吉

生國ハ信濃中野町ニシテ小學校ノ教員タリ、郡役所ノ吏員タリシガ明治二十六年三月實業ニ志テ出京シ、日本橋區馬喰町興文社ノ店員トナリ、勤續五年明治三十一年三月ヲ以テ退店シ、直チニ現在地ニ書籍店ヲ開始シ今日ニ及ブ。

巖松堂 波多野

重太郎

初代(明治八年十月二十日生)

東京市神田區仲猿樂町一番地  
創業 明治三十四年十月二十日



波多野 重太郎

生國ハ静岡縣引佐郡都田村ニシテ世々農ヲ業トス、幼ニシテ父母ヲ失ヒ、祖父ト共ニ奥山半僧坊境内ニ於テ繪草紙、雜貨及土産物ヲ商フ、其間零碎ナル木版繪草紙一二ヲ發行シタルコトアリ、其後濱松ニ出デ、小商ヲ營ム。明治二十六年十一月濱松ヲ去リ、單身出京シ果物青物商ヲ營ムコト約五年、明治三十三年六月ヨリ新聞販賣及貸本業ヲ營ミ、翌三十四年十月麻布十番へ新古書籍ノ夜店ヲ

開ク。明治三十六年六月二十八日神田區猿樂町二十四番地ニ新古書籍販賣店ヲ開始シ翌年一月勅題「巖上松」ニ因ミテ商號ヲ巖松堂ト定ム。同年七月一日現在地ニ移轉シ、翌三十八年十一月裏神保町五番地ニ別舖ヲ設ク、幾クモナクシテ止メ専ラ出版ヲ業トス。明治四十一年合資會社三書樓ヲ設立シ、從來巖松堂ノ營メル出版業務ヲ之ニ移シ自ラ業務擔當社員タリシガ、明治四十四年七月十三日ニ至リ之ヲ解散シ、其業務一切ヲ巖松堂ニ復



シ法律書ヲ専門ニ出版シ以テ現今ニ及ブ。

翰香堂 杉本七百丸

初代(安政元年二月七日生)

東京市日本橋區本石町二丁目十二番地  
創業 明治十八年三月二十三日



丸百七本杉

生國ハ埼玉縣入間郡勝呂村ニシテ勝呂家ノ出タリ、明治十四年三月杉本家ノ養子トナリ、同十八年三月二十三日分家シテ日本橋區大傳馬町二丁目二十四番地ニ書籍店ヲ開業シ、専ラ墨帖ヲ販賣ス、同年ヨリ「東京玉篇」、「いろは字引」、「スベルリング」、「ナシヨナルリーダー」、「ウキルンリーダー」等ヲ發行シ、二十年ニ同區本町四丁目十八番地ニ移リ「活益東京字典」、「以呂波節用」其他數種ノ地圖、法律書、小説等ヲ發行ス。明治二十四年同區室町二丁目六番地ニ移轉シ、中等學校教科用書及ビ參考書ヲ發行ス。

明治二十四年以降三年間東京書籍出版業者組合ノ協議員ニ當選シ、又二十三年及二十七年以降三十四年迄同委員ニ當選ス。明治三十五年本組合ハ東京書籍商組合ト改稱シ

委員ハ評議員ト改マル、同年以降今日迄同評議員ニ當選ス。明治三十三年十月現在地ニ移轉ス。同三十六年十月合資會社六盟館設立ニツキ、其代表社員トナリ以テ現今ニ至ル。別ニ光文館ノ商號ヲ使用ス。

開成館 西野虎吉

初代(慶應三年七月十九日生)

東京市小石川區小日向水道町七十三番地  
創業 明治三十五年一月一日



吉虎野西

生國ハ大阪ニシテ、父ノ穀物商ヲ營ミシヨリ、初メ米穀業ニ從事セシガ、明治十五年大阪ノ三木書店ノ店員トナレリ。當時三木書店ハ古書ノ出版ヲ業トセシガ、新版圖書ノ注文荐リニ到リ永ク舊態ヲ墨守スベカラズトシ、又本邦西部ニ於ケル圖書集散ノ商權ガ殆ンド阪地ニ在ルヲ以テ、東京刊行物ノ成敗其他ヲ詳ニスルヲ得シカバ終ニ出版業ヲ開始スルニ至ル。其種類ハ多ク中等教科書及

參考書ニシテ、彼ノ「鐵道唱歌」ノ如キハ最モ歡迎セラレタルモノナリ。明治四十四年以降東京書籍商組合ノ評議員ニ當選シ、日本書籍株式會社ノ取締役、株式會社國定教科書共同販賣所ノ監査役ニ就任シ以テ今日ニ及ブ。



### 大日本圖書株式會社

東京市京橋區銀座一丁目二十二番地  
創業 明治二十年三月

明治二十年文部省ハ其ノ編輯出版ニ係ル小學校教科用圖書(甲部)及ビ其ノ他ノ圖書(乙部)ノ發賣ヲ甲部圖書關東取扱所(在東京)同關西取扱所(在大阪)ニ委任セラレタリ、越テ明治二十二

年三月右兩取扱所員ハ全國ノ信用アル書肆ト共ニ會社ヲ設立シ、文部省ヨリ甲乙兩部圖書製造發賣ノ委任ヲ引受ケ、文部省所管ノ圖書器械未製品全部ヲ拂下ゲ大日本圖書會社ト命名ス、後今ノ名ニ改ム。



全保川宮 役締取務專

ニ於ケル小學校教科用圖書ノ編輯出版漸次旺盛ヲ極メ、加フルニ明治二十七年十二月限リ文部省ハ會社ニ對スル小學校教科用圖書製造發賣ノ委任ヲ取消シタルヲ以テ會社ハ茲ニ業務ノ方針ヲ變更セザルベカラザル機運ニ際會セリ、依テ當事者ハ文部省乙部圖書

ヲ基礎トシ、中等學校教科圖書ノ出版ヲ以テ業務ノ中心ト定メ、逐次其ノ方針ニ向テ進行セリ、爾來多少ノ波瀾曲折アリシト雖モ大方針ニ至リテハ變更ナク以テ今日ニ至レリ、然ルニ明治四十四年ニ至リ特許紙鉛筆ノ製造販賣ヲ開始シ、茲ニ圖書出版ト文具製造トヲ兼業スルコト、ナリス。

創立當時ノ資本金ハ拾萬圓、拂込金五萬圓ナリシガ、明治三十四年八月積立益金ノ内五萬圓ヲ株主ニ配當シ、之レヲ拂込株金ニ振替ヘタルヲ以テ、拾萬圓全部拂込済トナレリ、明治四十二年十二月業務ノ擴張ニ伴ヒ資本金ヲ二十萬圓ニ増加シ、新株十萬圓ニ對シ二萬五千圓ヲ拂込ミ、明治四十四年十二月更ニ二萬五千圓ヲ拂込ミ、現在拂込高合計金拾五萬圓トナレリ。

本社ハ創立以來東京市京橋區銀座一丁目二十二番地ニ置キテ變更セズ、支社ハ大阪市東區上難波南ノ町七十二番屋敷ヨリ同區博勞町四丁目十七番屋敷、同區北久太郎町四丁目十七番屋敷等ニ移轉セシガ、年々發達スル運輸交通ノ利便ハ之レヲ存置スル必要ナキニ至レルヲ以テ、明治四十三年七月之レヲ廢止セリ。

創立當時ノ委員ハ小柳津要人、佐久間貞一、白井練一、原亮三郎、並木善道、田沼太右衛門、辻敬之、宮川保全、小林八郎、松村九兵衛、三木佐助、梅原龜七ノ十二名ニシテ、佐久間貞一委員長タ



リ、明治二十四年八月定款ヲ改メ委員ヲ取締役監査役ト改稱セリ、其ノ後ノ役員左ノ如シ。

專務取締役 佐久間貞一 明治三十一年十一月マテ勤續死亡

取締役(現) 宮川保全 勤續現時ニ至ル

監査役(現) 小柳津要人 勤續現時ニ至ル

取締役(現) 松村九兵衛 明治四十三年四月マテ勤續死亡

取締役 辻敬之 明治二十五年十二月マテ勤續死亡

取締役 太田資順 明治三十二年二月ヨリ同三十六年三月マテ勤續辭任

取締役(現) 川村理助 明治三十七年七月ヨリ勤續現時ニ至ル

監査役(現) 白井練一 勤續現時ニ至ル

監査役(現) 三木佐助 勤續現時ニ至ル

創立以降滿二十二年現在役員五名中一名ヲ除クノ外、悉ク滿二十二年ノ勤續者タルコトハ蓋シ稀有ノ類例ナルベシ。  
會社營業ノ成績ハ常ニ佳良ニシテ株主配當二割二十二回、一割八分一回、一割五分十回、一割三分強一回、純益金總額六十八萬八千五百五十餘圓、配當金總額三十一萬八千三十圓ニ達シ、現在諸積立金合計十萬二千七十圓餘ナリ。

### 大同館 阪本眞三

初代(明治十八年四月二十三日生)

東京市神田區表神保町四番地  
創業 明治四十四年四月十五日



阪本眞三

生國ハ大阪市東區備後町三丁目ニシテ、初メ吉岡寶文館ニ勤務シ、明治四十三年出京シ弘道館辻本卯藏ノ店員トナリ、翌四十四年四月現在地ニ於テ開業シ、大同館ト稱ス。同年六月ヨリ「最新日本地理資料」「源氏物語大意」ヲ出版シ現今ニ及ブ。

### 高岡書店 高岡安太郎

初代(元治元年十一月生)

東京市神田區裏神保町六番地  
創業 明治十八年

生國ハ岐阜縣大垣ニシテ幼ニシテ出京シ親戚ノ家ニ育チ、明治十年親戚ニ書籍業ヲ營ムモノアリ、其レニ就テ學ビ、同十八年麴町區三番町ニ於テ古本業ヲ開始シ、二三直譯書ヲ出版ス。明治二十四年現在地ニ移轉シ、同三十四年ヨリ理科書、數學書ヲ専門ニ出版ス。





高岡安太郎

明治三十三年東京書籍商共立會ノ創立スルヤ選レテ評議員トナリ今日ニ及ブ。  
明治三十五年以降現在ニ至ル東京書籍商組合評議員ニ當選ス。  
大正元年八月株式會社大正堂ノ創立セラル、ヤ其專務取締役ニ就任ス。別ニ國文館ノ商號ヲ使用ス。

大黒屋松木

初代ハ享保元年兩國廣小路(現在地)ニ始メテ、木版色合摺繪畫ノ業ヲ開始ス、コレハ俗ニ江戸繪ト稱シ、東錦畫ノ元祖ナリ、爾來約二百年、世々平吉ト稱シ、同業ヲ繼續シテ今日ニ及ブ、別ニ松壽堂ノ商號ヲ使用ス。

東京市日本橋區吉川町二番地  
創業 享保元年十一月六日  
五代(明治四年九月二十二日生)



松木平吉

初代ハ享保元年兩國廣小路(現在地)ニ始メテ、木版色合摺繪畫ノ業ヲ開始ス、コレハ俗ニ江戸繪ト稱シ、東錦畫ノ元祖ナリ、爾來約二百年、世々平吉ト稱シ、同業ヲ繼續シテ今日ニ及ブ、別ニ松壽堂ノ商號ヲ使用ス。

大正堂田中

初代(明治五年三月生)

東京市淺草區須賀町二十二番地  
創業 明治二十八年十一月



田中中藏

生國ハ現在地ニシテ、父ハ幕臣名ハ定輝ト云ヒ、御藏奉行代ヲ勤メタリ、其四子ニシテ明治五年ニ生ル。明治二十三年小學校訓導トナリ、同二十五年三月教職ヲ捨テ、東京商業學校ニ入學シ卒業ノ後、明治二十八年十一月博文館々員トナリ以テ今日ニ及ブ。又大正元年八月創立ノ株式會社大正堂ノ取締役ニ就任ス。

淡海堂酒井久三郎

初代(明治二年三月十二日生)

東京市日本橋區馬喰町四丁目二十一番地  
創業 明治二十七年三月十二日

生國ハ滋賀縣阪田郡鳥居本村ニシテ、幼ニシテ父母ヲ失ヒ、京都其他ニテ呉服店ノ雇人トナリ、明治二十四年九月出京シ、時ニ極窮シテ横濱ノ築港人夫トナリ、翌二十五年救世堂ノ新聞賣トナリ、而シテ二十七年三月現在地ニ於テ古本業ヲ開始シ、傍ラ貸本新聞配達ヲ業





酒井久三郎

トス。明治二十九年三月柳浪ノ「堀河夜討」二菜庵ノ「二枚屏風」等ヲ發行シ、三十三年湯淺武田中等ト共ニ日本橋區村松町ニ東陽館ナルモノヲ設立シ、出版及販賣ヲ目的トシタルモ翌年之ヲ閉店ス、其以前ヨリ各書店ノ殘本ヲ買受ケ、其レガ販路ヲ拓キツ、今日ニ及ブ。明治三十五年ヨリ地本彫畫組合ノ評議員ニ當選ス。

泰文社 小泉德兵衛

初代(慶應三年七月六日生)

東京市日本橋區本石町二丁目十五番地  
創業 明治三十年



小泉德兵衛

生國ハ尾張名古屋ニシテ明治三十年出京、神田區表神保町ニ於テ書籍出版業ヲ開始シ、又日本繪畫其他美術製作品ヲ海外ニ輸出シ、寫眞畫帖ヲ發賣ス、明治四十五年現在地ニ移轉シ美術常設展覽會ヲ起シ今日ニ至ル。

叢書閣 早矢仕民治

初代(安政四年六月二十五日生)

東京市芝區新幸町二番地  
創業 明治二十一年四月

生國ハ美濃國武儀郡武藝村字笹賀ニシテ、明治五年四月二十一日橫濱市境町二丁目九善商社店員トナリ同十八年一月迄勤續シ、明治二十一年四月叢書閣ヲ讓受ケ、同三十一年迄營業ス。明治二十三年以降同三十一年迄東京書籍出版業者組合ノ協議員ニ當選シ、同三十一年ヨリ四十年一月迄東京書籍商組合ノ事務員タリ。

中西屋 山田九郎

初代(明治十八年九月二十九日生)

東京市神田區表神保町二番地  
創業 明治十四年九月二十一日



山田九郎

岐阜縣岩村藩ノ醫、早矢仕有的ノ六子ニシテ東京市本郷ニ生ル。明治十四年九月早矢仕有的ノ創立スルトコロニシテ、當時名義人ハ別人ナリシガ丁年ノ後チ現在ノ如ク改ム。營業ノ全般ハ支配人ヲ設ケテ之ニ擔當セシメ、主トシテ歐米ノ刊行ニ係ル圖書ヲ輸入シ、又内地刊行ノ書ヲ取次販賣シ、兼テ歐文其他邦文書ヲ出版發賣ス。



### 南江堂 小立鉦四郎

二代(明治十五年十一月生)

東京市本郷區湯島切通坂町八番地  
創立 明治十二年

初代ハ鉦四郎ト云ヒ、安政三年九月相模國小田原ニ生ル、明治七八年ノ頃、時ノ足柄縣令山田信道ノ學僕トナリ、明治十年西南ノ役ニ從軍ス。明治十二年出京、本郷區春木町ニ於テ醫書專賣業ヲ始メ、次デ現在地ニ移轉シ、醫藥學書ノ出版ト獨乙國典籍ノ輸入販賣ヲ開始ス。醫書組合創立ニ際シ副頭取ニ就任ス。明治三十八年文部省ヨリ國定教科書翻刻發行ノ許可ヲ受ケ、國定教科書共同販賣所ノ監查役ニ就任ス。明治二十、二十一及二十六、二十七年ニ東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ當選シ、明治二十三年及同三十五年以降四十二年迄東京書籍商組合評議員ニ當選シ、同年二月死ス。



小立鉦四郎

### 久保田書店 久保田長吉

初代(明治十年三月十八日生)

東京市日本橋區馬喰町四丁目十六番地  
創業 明治三十四年二月五日

生國ハ神奈川縣中郡平塚町ニシテ、明治二十二年出京シ、同二十七年十月鹿島紙店ノ店員トナリ勤續七ケ年ニシテ退店シ、明治三十四年淺草區片町五番地ニ玩具繪其他ノ行商ヲ始ム、同三十七年二月神田區橋本町二丁目四番地ニ移轉シ澤瀉屋ト稱シ、時恰モ日露開戰ニ際シ、專ラ戰爭畫ヲ出版ス。四十二年現在地ニ移轉シ商號ヲ現今ノ如ク改メ、兒童用圖書ヲ發行シテ今日ニ及ブ。

### 魁眞樓 井口松之助

初代(嘉永六年十二月生)

東京市神田區錦町一丁目十三番地  
創業 明治十九年十月

生國ハ滋賀縣大津ニシテ、初メ京都ノ書肆須磨勘兵衛ニ雇ハレ、更ニ同所福井源次郎ニ轉勤シ、其ノ後名古屋ノ紙久ノ養子トナリ、明治十四年十二月出京シ、十九年ニ米業ヲ營ミシモ幾許モナク廢業シ、同年十月東京橋南大工町ニ書籍業ヲ開始シ、二十二年ニハ圖書雜市ノ必要ヲ同業者ニ勸誘シ、同年第一回羅市ヲ舉行セルヤ其ノ販賣人振手トシテ勤メ、二



十四年十月神田鍋町ニ移リ書籍小賣業ヲ開始シ、脚本「闇の梅」ヲ出版シタルモ苦情ノ爲メ失敗ニ歸シ、爾來各所ニ轉ジ、各種ノ出版物アリ、現在地ニ移リテヨリハ京阪地方へ東京一部ノ出版物ノ販路ヲ拓クコトニ周旋シツ、今日ニ及ブ。

### 書報社 星野錫

初代(安政元年十二月生)

東京市本郷區湯島切通坂町二十五番地  
創業 明治二十七年

生國ハ播磨國ニシテ、姫路藩士星野乾八ノ長男、幼名ヲ錫一郎ト云ヒ、後チ錫ト改ム、明治七年横濱製紙分社ニ入り、尋デ東京製紙分社ニ轉ジ、累進其ノ總括ニ任ズ。二十年九月、印刷業視察ノ爲メ米國ニ渡



星野錫

航シ、同二十二年歸朝、アトタイプ印刷術ヲ齎ラシ來ル。明治二十九年六月社名ヲ東京印刷株式會社ト改メ、其ノ專務取締役社長トナリ、爾來今日ニ至ル其ノ職ニ在リ。明治二十七年故山東直砥ト資ヲ釀シ、畫報社ヲ起シ、雜誌「美術畫報」ヲ創刊シ、後チ又「美術新報」ヲ發行スルノ外、數多ノ畫集類ト美術書ヲ發行シ、四十四年「日本美術年鑑」ヲ公ニス。山東直砥歿後ハ獨力畫報

社ヲ經營シ、別ニ泰東同文局ヲ起シテ清國ノ教科用書普及ヲ計レリ。

明治四十五年、東京市ヨリ衆議院議員ニ選出セラレ、東京印刷同業組合組長タリ、又株式會社東京築地活版製造所監査役ニ就任シ、其他幾多會社ノ重役、會長、理事ノ要職ニ在リ。

### 軍事教育會 高橋靜虎

初代(慶應二年五月生)

東京市四谷區片町十二番地  
創業 明治二十九年四月

生國ハ新潟縣北蒲原郡水原町ニシテ、明治二十九年四月軍事教育會ヲ組織シ、每週「軍事新報」ヲ發行シ、其他尙武的圖書及繪葉書等ヲ發行シ、明治四十三年ヨリ參謀本部陸地測量部ノ地圖ヲ取扱ヒ、別ニ在郷軍人地方青年ノ爲メニ士友團ナルモノヲ組織ス。

### 山口屋 森江佐七

三代(安政元年生)

麻布區飯倉町五丁目四十四番地  
創業 文政九年





七佐江森

生國ハ江戸ニシテ、代々書肆ヲ業トシ、明治三十五年以降四十年ニ至ル、東京書籍商組合評議員ニ當選ス。主ニ各宗佛教圖書ヲ出版シ、和漢洋書及ビ中等教科圖書ヲ販賣シ、國定教科書ノ大賣捌タリ。別ニ擁萬閣、森江書店ノ商號ヲ併用ス。

山口屋書店

荒川龜次郎

東京市日本橋區小傳馬町三丁目十四番地

七代(明治八年八月三日生)



荒川龜次郎

生國ハ甲府市鍛冶町ニシテ五代山口屋藤兵衛ノ店員トナリ、五代ハ明治二十八年十月死亡ス。仍テ其ノ店員某五代ノ娘ニ入婿シ、六代ヲ相續シタルモ、三十八年一月洋紙店ヲ開業スルニ際シ、書籍店ヲ當主ニ譲リタルナリ。當主ハ五代ノ娘ノ入婿ニシテ明治三十八年一月分家ス。別ニ錦耕堂ノ商號ヲ使用ス。

丸山舎 竹

澤 章

東京市日本橋區箔屋町十四番地

初代(明治元年九月生)

創業 明治二十六年十月



澤 章

生國ハ千葉縣安房郡大山村ニシテ、明治十八年出京シ、同人社ニ學ビ、二十年歸國シ農業ニ從事ス。二十六年再ビ上京シ、芝區高輪南町ニ於テ蠶業器械發賣及ビ蠶業書ヲ發行シ、又「蠶業新報」ヲ創ム、明治三十一年二月京橋區銀座一丁目ニ轉ジ、同年十月更ニ現住地ニ移ル。明治三十七年丸山舎印刷部ヲ設ケ、又「衛生新報」ヲ發行ス。別ニ章光閣ノ商號ヲ使用ス。

丸善株式會社

東京市日本橋區通三丁目十四番地  
創業 明治二年一月

當社ハ岐阜ノ人早矢仕有的ノ創業ニシテ、明治二年一月丸善商社ヲ結ンデ書籍及ビ藥品ノ輸入販賣ヲ營ム。當時商社ノ號タル我國未知ノ事ニ屬シ、從テ法人ノ公認ナカリシガ



故ニ丸屋善八ノ名義ヲ以テ公私ノ交渉ニ代表セシメシニ、其名時人ノ耳ニ入り易フシテ廣ク世ニ知ラレシカバ、其ノ略名ヲ取リテ明治十三年三月改メテ丸善商社ト稱ス。當社創立ノ初志ハ歐米ニ於ケル衣食住及ビ文物ノ進歩ヲ我國ニ齎ラサント欲スルニ在ルヲ以テ、年ト共ニ營業ノ種目ヲ増加シ、家具食料品ニ至ルマデ外國貨物ヲ輸入セシガ、遂ニ書籍、文房具、洋雜貨ニ全力ヲ傾注セリ。然ルニ營業ノ大部



社長 小柳津要人

分ヲ占ムル洋書ハ創業當時ヨリ明治十五年ニ至ル迄ハ學校用教科書類ヲ除クノ外ハ殆ンド販路ヲ求ムルノ望ナク、爾來七八年需要尙遲々タリシカバ維持頗ル困難ヲ感ジ、多クノ同業者ハ或ハ轉業シ或ハ倒産スルニ至リ、當社ノ如キモ困難ノ位置ニ立チシガ、漸クニシテ前途ノ光明ヲ得タルナリ。明治二十六年十一月、丸善株式會社ノ定款認可セラレ、繼デ日清戰爭後、文藝學術ノ隆昌及ビ企業熱ノ勃興ト與ニ洋書ノ需要ハ頓ニ増加シ、更ニ日露戰爭以後ニ至ツテハ我邦人ガ外國知識ヲ要求スルコト多キヲ加ヘ、現今ハ洋書目錄ノミニテモ三種十四冊ヲ發行シ、又彼地ノ出版ハ數十日以内ニ我國ニ紹介スルノ最捷方法ヲ採リ、毎月『學燈』ヲ發行セリ。現時大阪及ビ京都ニ支店ヲ設置ス。

和書ニ就テハ初メ醫書ノ出版ヲ專ラトセシガ、漸次學術工藝ニ關スルモノヲ發行シ、傍ラ諸官衙大學等ノ官版團體ノ藏版ノ委託發賣ヲ營ム。別ニ明治十八年ノ頃ヨリ『インキ』ノ製造ニ著手シ、底揚式ノ『センチユリーインキ』、氣壓式ノ『セニスインキ』ヲ製出ス。

當社創立當時ハ横濱市相生町三丁目ニ在リテ資本金ハ五千圓ニ過ギズ、其ノ翌年同市境町二丁目ニ移リ、六年辨天通二丁目ニ轉ゼシガ、此前後資本金漸ク増加シテ、八年ニハ約八萬五千圓ヲ算セリ。十三年三月、元支店タル現在所ニ移リ、合資ヲ株式組織ニ變更シ、資本金ヲ十五萬圓トシ、二十六年ニハ二十萬圓、四十一年ニハ五十萬圓ニ改メ、四十三年新築成ル。

重役ハ自然故參相承ク、明治十八年社長早矢仕有的辭シテ松下鐵三郎襲ギ、三十三年松下歿シテ小柳津要人專務取締役トナリ以テ現時ニ至ル。中村重久、山崎信興、齋藤定四郎、金澤末吉取締役タリ、皆社員トシテ二三十年以上ノ勤勞ヲ積ミ當社ヲ以テ生命トナス。

明治二十年本組合創立以來、今日迄組合ノ委員評議員ニ當選シ、現社長小柳津要人ハ當社ヲ代表シテ明治二十二、二十三ノ兩年本組合副頭取ニ就任シ、二十五年以降四十四年ニ至ル十八年間、本組合ノ頭取又ハ組長ニ就任ス。仍テ四十三年三月本組合ヨリ彰功紀念品ヲ贈呈ス。



敬文館 榎村喜久太郎

初代(明治二年十一月生)

東京市神田區小川町四十一番地  
創業 明治四十三年八月一日



榎村喜久太郎

生國ハ福島縣田村郡守山町ニシテ、初メ桐生ニ出デ、羽  
二重業ニ從事シ、其後明治三十一年日本橋區通油町水野  
書店ニ入り、傍ラ同四十年ニ法制經濟書ヲ出版シタルヲ  
初メトシ、明治四十三年八月一日現在在所ニ獨立開店シ出  
版ヲ專業トシテ今日ニ至ル。

警眼社 田山宗堯

初代(安政六年八月六日生)

東京市日本橋區數寄屋町一番地  
創業 明治二十一年十月一日

生國ハ江戸ニシテ舊宍戸藩士ナリ、六歳ニシテ孤トナリ藩主ノ没邑ト共ニ、母子三人具ニ  
艱苦ヲ嘗ム、後チ藩ノ封邑ヲ復セラル、ヤ、祿ニ復シ藩校修德館ニ入り學ブ。明治四年廢

藩ト共ニ實業ニ志シ、明治二十一年十月大阪ニ於テ政法會ヲ創設シ法典講義録ヲ發行ス。  
翌二十二年八月東京ニ移住シ「税法雜誌」「議會」等ノ雜誌ヲ發行シ、二十三年更ニ地方行政  
學研究會ナル名稱ノ下ニ地方行政講義録ヲ發行ス。二十五年同會ヲ廢シ警眼社ト號シ  
「警察眼」ナル雜誌ヲ發行シ、三十三年ニ至ツテ警察協會ニ於テ雜誌ヲ發行セラル、ニ付警  
察眼ヲ廢刊シ、同會及ビ官廳ノ印刷物請負事業ヲ兼營シ、官廳ノ法規類ヲ發行シ、別ニ三十  
七年中、株式會社中外圖書局ノ出版物ヲ引受ケ、三友書院ト號シ中等教科書ヲ發行シ、其外  
美術的印刷物ヲ發行シ以テ今日ニ及ブ。

警醒社 福永文之助

初代(文久元年十一月二十四日生)

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地  
創業 明治二十一年六月

生國ハ和歌山縣ニシテ、明治十六年神戸ナル七一雜誌ト稱スル我國ニ於ケル最初ノ基督  
教主義ノ新聞發行所福音社ニ入り、同年十月同社ノ大阪ニ移轉スルニ從ヒ大阪ニ移住ス。  
二十一年四月出京シ、同六月京橋區加賀町十一番地ニ東京福音社ノ名義ヲ以テ書店ヲ開  
ク。是ヨリ先キ、明治十六年ノ頃、浮田和民、小崎弘道、植村正久、湯淺次郎等ノ設立ニカ、ル  
警醒社ナルモノアリテ「六合雜誌」「基督教世界」ヲ發行シ、傍ラ書籍ヲ出版シ居タリ。二十





福永文之助

組合評議員ニ當選ス。

一年九月、都合上東京福音社ハ前記警醒社ト合併シ、併シテ同區日吉町二十番地ニ移轉ス。明治二十二年警醒社ノ全部ヲ讓受ケ、個人經營トナシ、第一着ニ「立志の礎」ヲ發行シタリ。二十三年同區出雲町一番地ニ移リ、三十一年ニハ采女町二十四番地ニ轉ジ、三十五年十一月ヲ以テ現在地ニ移轉ス、爾來基督教主義ノモノヲ主トシ各種ノ書籍ヲ出版シ今日ニ至ル。明治四十五年一月、東京書籍商

### 鷄聲堂 高島大圓

初代(明治八年一月生)

東京市小石川區原町六番地  
創業 明治三十四年三月

生國ハ新潟縣ニシテ、明治三十四年ニ鷄聲堂ト稱シ、現在地ニ於テ書籍雜誌販賣業ヲ開始シ、同三十九年四月故山中孝之助外一人ト共同ニテ丙午出版社ナルモノヲ起シ、書籍出版ニ著手シタルガ、其後山中死亡シタルヲ以テ全權ヲ引受ケ、丙午出版社ノ商號ヲ併用シ出版及ビ販賣ヲ兼營シツ、今日ニ及ブ。

### 慶雲堂 秋葉和助

初代(明治五年六月十一日生)

東京市深川區東森下町八十五番地  
創業 明治二十八年



秋葉和助

雲ノ命名スルトコロナリ。

生國ハ東京ニシテ當主ハ秋葉家ノ三代ナルモ書籍業トシテハ初代タルナリ。累代父祖ノ名ヲ襲グノ慣例ニ從ヒ、當主ハ明治三十一年五月舊名瀧次郎ヲ和助ト改ム。父祖以來舊徳川幕府ノ家臣ニシテ世々深川ニ住シ、公務ノ餘暇筆ノ製作ヲナシタルニ基キ、維新以後「水筆」ノ創作ヲ考案シ、其ノ製造ニ從事シツ、今日ニ至ル。當代ニ至リ筆墨文房具製作ト書籍出版販賣ヲ兼ネ、明治二十八年以來教科書ノ販賣ニ從事シ、現ニ國定教科書ノ大取次販賣所タリ、慶雲堂ノ號ハ故栗本鋤

### 株式啓成社

當社ハ明治三十六年十一月、東京市下谷區御徒町三丁目ニ於テ遠藤國次郎ガ獨力經營セ

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地  
創業 明治四十二年四月





藤遠國次郎 事務取締役

ル啓成社ニ起源シ、中等程度ノ教科用圖書各種參考書ノ出版販賣ヲ爲シ來リシガ、明治三十八年ニ至リ大阪市ノ前川善兵衛ト合資會社ヲ組織シ逐次事業ノ發展ヲ見ルニ及ビ増資ノ必要ヲ感ジ、明治四十二年四月、資本金二十五萬圓ノ株式會社ト爲シ以テ今日ニ及ブ。創立當時ハ拂込額金五萬圓ナリシガ、其後更ニ拂込ヲナシ現在拂込額ハ金十萬圓トナレリ。當社創立後二ヶ月、下谷御徒町ヨリ本郷區本郷一丁目七番地ニ移リ、更ニ明治四十四年十月現在地ニ移轉ス。

現在ノ役員左ノ如シ。

取締役會長 根津嘉一郎  
取締役 前川善造  
監査役 横澤米太郎

專務取締役 遠藤國次郎 取締役 松本孫右衛門  
取締役 須田宣 監査役 内田直三  
監査役 鎮目泰甫 顧問 間鞆澤總明

### 建築書院

吉原米次郎

初代(明治元年四月六日生)

東京市京橋區南橫町十三番地  
創業 明治二十四年四月

生國ハ香川縣香川郡中笠居村字香西ニシテ、明治二十一年出京シ建築學ヲ學ブ、偶々建築



吉原米次郎

學講義錄ノ發行ヲ囑托セラル、ヤ就職ノ念ヲ斷テ、工業書専門ノ出版業者タラント欲シ、明治二十四年四月、建築書院ト號シテ書店ヲ創メ、一二講義錄ヲ月刊シ、其他土木建築ニ關スル書ヲ發行ス。明治三十年一月以後、更ニ進ンデ工業全般ニ涉リ専門的ノ書籍及ビ海軍、庭造ニ關スル書ヲ發行シ、以テ今日ニ至ル。

### 教文館

堀田達治

初代(慶應元年八月八日生)

東京市京橋區銀座四丁目一番地  
創業 明治二十九年



堀田達治

生國ハ越後國峯岡村ニシテ、明治十五年出京シ、法律英學等ヲ學ビ、明治十八年ヨリ同二十六年迄教育事業ニ従事シ、二十七年ヨリ二ヶ年移民事業ノ爲メ南洋ニ渡航ス。明治二十九年教文館ヲ經營シ、英米ノ書籍ヲ輸入シ、又宗教文學其他ノ書籍ヲ出版販賣シ今日ニ至ル。



### 武林堂 宮

本林 治  
初代(明治三年三月二十三日生)

東京市麴町區平河町一丁目二番地  
創業 明治三十九年九月九日



宮本林治

生國ハ廣島縣豐田郡乃美村ニシテ志願ヲ以テ軍人トナ  
リ、明治二十二年三月ヨリ大阪及姫路屯在軍隊司令部ニ  
在リテ軍務ニ服スルコト約九年此間日清戰役ニ從軍シ  
勳功ヲ以テ叙勳年金ヲ授賜セラル、同三十二年出京シ陸  
軍省ニ奉職シ傍ラ法律學ヲ學ブ、同三十四年位階ヲ賜フ。  
三十七年日露戰役ニハ陸軍歩兵中尉トシテ從ヒ、殊勳ニ  
依リ從七位ニ陞叙シ勳六等單光旭日章及功五級金鷄勳  
章並ニ年金ヲ授與セラレ、同年退職恩給ヲ受ク。明治三十九年武林堂ト號シ圖書出版業  
ヲ創メ、傍ラ陸軍省其他ノ印刷物受負ヲ爲ス、四十一年以後兵書ヲ専門ニ出版シ、四十五年  
二月兵用圖書株式會社ヲ設立シ、之ガ常務取締役ニ就任シ以テ現今ニ至ル。

### 武揚堂 小島 棟吉

初代(慶應二年十二月十八日生)

東京市日本橋區通三丁目七番地  
創業 明治三十一年十一月

生國ハ愛知縣寶飯郡小田淵村ニシテ、明治十一年五月豐橋町ニ出デ製茶取扱及ビ木炭製



小島棟吉

造業ニ從事ス。同十七年出京シ石材及運送業ニ從事シ、  
十九年歸郷、二十年二月更ニ豐橋ニ出デ繪草紙及書籍店  
ヲ開キ、兼テ地方屯在軍隊ノ用達ヲ爲セシガ、二十九年二  
月或ル事情ノ爲メニ廢業シ、再ビ出京シ京橋南傳馬町相  
澤厚生堂ニ入り、三十一年十一月京橋區大鋸町八番地ニ  
武揚堂ト號シテ出版業ヲ創メ、諸官衙ノ兵用圖書用達ヲ  
爲シ、三十三年私製葉書ノ制定セラル、ヤ軍人繪葉書ヲ  
發行シ、三十四年厚生堂ヲ辭シ、佐藤組ノ營業ヲ繼襲シテ六號活字ニテ兵書ノ寸珍本ヲ發  
行ス。三十八年ニハ兵書出版協會ヲ組織シ、四十一年ニハ文淵堂ノ著手シタル『佛教大辭  
典』ヲ繼承シ、四十四年ニハ佛書刊行會ヲ起シ、四十五年三月兵用圖書株式會社ヲ設立シ之  
ガ取締役ニ就任シ以テ今日ニ及ブ。

### 袋屋 東生眞之助

三代(明治二十年十二月生)

東京市本所區林町二丁目七十一番地  
創業 安政五年十月

初代ハ東生龜次郎ト云ヒ、攝津國東生郡今ノ東成郡ニ生レ、安政元年十月出京シ刷工ニ從  
事スルコト四年、同五年日本橋通旅籠町一番地ニ袋屋ト稱シ書籍業ヲ創メ、明治ノ初二、西





東生眞之助

國立志編及ビ「筆算訓蒙」ヲ發行ス。  
二代ハ東生龜次郎ト稱シ、江戸ノ産、明治九年以來「國史略」  
「元明清史略」、「日本政記」、「皇朝史略」等ヲ發行シ、同十八年  
火災ノ後、日本橋區濱町二丁目十一番地ニ移轉ス。  
當主眞之助ハ東京ニ生レ、現ニ大倉書店ニ勤務シツ、ア  
リ。

福島書店

福島孝太郎

東京市芝區三田一丁目十六番地

創業 明治二十三年六月十四日

二代(明治二十四年三月十八日生)



福島孝太郎

初代ハ福島熊吉ト稱シ、「英譯百人一首」、「名家詩集」其他二  
三出版ヲナセシガ、其後ハ専ラ販賣ヲ營ミ、明治三十四年  
ニ死亡ス。  
當主(孝太郎)ハ東京ニ生レ、父ノ歿後家督ヲ相續シ、四十年  
二月慶應義塾商業學校ヲ卒業シテ以來、専ラ圖書雜誌ノ  
販賣ニ努メ、以テ今日ニ及ブ。

合資富山房

東京市神田區裏神保町九番地  
創業 明治二十九年



馬治嘉本 員社當擔務業

當社ハ明治十九年三月現社長阪本嘉治馬ガ個人的經營  
セル富山房ニ起源シ、明治二十九年其ノ組織ヲ變更シテ  
合資會社トナシタルニテ、個人富山房ノ出版物一切ヲ繼  
承シ、三十二年故岸田吟香ト共ニ清國向ノ出版ヲ計リ、「萬  
國史綱目」ヲ始メトシ各種圖書ヲ刊行輸出シ、三十三年ニ  
至リテ小學讀本ヲ發行シ、更ニ辭書類ヲ企畫シ、三十五年  
ニハ他ノ出資全部ヲ阪本ニ於テ引受ケ、三十七八年戰役  
ニ際シテハ「日露戰報」、「軍國畫報」ヲ發行シ、三十九年ニハ「日本家庭百科事彙」ヲ發行シ、四十  
一年ニハ「大日本地名辭書」ヲ、四十二年ニハ「國民百科辭典」ヲ發行シ、其他教科書ニ參考書ニ、  
文學理化學書ニ、多方面ニ出版發行ス。明治三十八年明治圖書株式會社ノ設立サル、ヤ  
之ガ専務取締役ニ就任シタルモ、同社解散ト共ニ解任シ、現ニ日清印刷株式會社監查役、東  
京書籍株式會社取締役、株式會社國定教科書共同販賣所取締役等ニ就任シ今日ニ及ブ。  
明治二十四年以降二十八年迄阪本個人トシテ東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ當選



シ、又合資會社富山房トシテハ明治二十九年以降同三十四年迄同協議員ニ當選シ、本組合ノ東京書籍商組合ト改稱スルヤ、三十五年及ビ四十二年以降現今迄同評議員ニ當選ス。

### 福岡書店

福岡新三

初代(明治十年七月十六日生)

東京市神田區表神保町二番地  
創業 明治二十七年五月五日



福岡新三

生國ハ東京市日本橋區本材木町二丁目ニシテ、父ハ藍玉商ヲ營ミシモ親戚覺張榮三郎ガ日本橋區本石町ニ於テ上田屋ト號シ、書籍業ヲ營ミ居リシトコロヨリ、明治二十年同店ニ入りシガ弟某ノ勤務シ居タル本郷ノ畊文堂ヘ轉勤スルノ止ナキニ至リ、二十四年同店ニ入りシガ、四年ヲ經テ主家ノ閉店ニ遭遇シ、茲ニ始メテ獨立スルコト、ナリ、時恰モ二十七年日清役ニ際シ二三出版ニ著手シ、爾來出版及販賣ヲ兼營シ以テ今日ニ及ブ。別ニ大成社ノ商號ヲ併用ス。

### 文學社 小林義則

初代(弘化四年十一月十七日生)

東京市神田區美土代町二丁目一番地  
創業 明治十五年十一月五日



小林義則

生國ハ近江國ニシテ彦根藩士ナリ、其年家督ヲ襲ギ藩命ニヨリ大和ノ役、京都伏見ノ役、長州役等ニ從フ。維新ノ際官軍ニ從ヒ東山道ヨリ會津ニ至リ、越後口舟渡川ノ役ニ功アリトテ賞典祿ヲ與ヘラル、後藩學校弘道館ノ教授トナル。明治五年東京師範學校ノ創立ニ際シ入學ス、在學中 天皇陛下臨幸アラセラレ教授法ヲ天覽ニ供ス、國史覽要一部ヲ賜フ。同八年卒業文部省ヨリ神奈川縣ニ派遣セラレ、尋テ師範學校ヲ創設シ其ノ校長トナリ、又學務課員トナル。同十五年辭職、同年十一月文學社ヲ東京ニ開キ、小學教科書ヲ販賣シ傍ラ中等教科書ヲ出版ス。明治二十年、原亮三郎等ト東京書籍出版營業者組合ヲ創立シテ之ガ副頭取トナリ、二十四五六ノ三年及ビ二十八年以降三十四年迄、亦副頭取ニ就任ス。明治二十三年文部省一ノ圖書會社ヲ創立シ、其ノ所有版權ヲ拂下ゲントスルヤ、長尾景弼、辻敬之等ト共ニ其ノ委員トナリ、文部大臣ニ陳情シ定款ヲ改定セシム。明治四十三年東京書籍株式會社創立ニ及ビ監査役トナリ、以テ今日ニ及ブ。



藤岡屋水野慶次郎

東京市日本橋區通油町十八番地

創業 天保五年

三代(慶應三年六月二十九日生)

初代慶次郎ハ江戸本郷ニ生レ、天保五年日本橋通油町ニ於テ書籍地本及ビ錦繪問屋ヲ開始ス。

二代慶次郎ハ専ラ書籍ヲ出版シ、教科書ノ翻刻及ビ取次販賣ヲナシ、明治十四年ノ頃、錦繪問屋ヲ廢ス。

當主(三代)ハ埼玉縣北足立郡草加町ニ生レ、明治二十四年入リテ慶次郎ヲ襲名ス。明治三十六年日本書籍株式會社創立ヨリ取締役ニ就任シ、同三十九年國定教科書共同



水野慶次郎

販賣所設立ト共ニ退職シ、四十二年日本書籍株式會社ノ設立セラレ、ヤ取締役ニ就任シ現今ニ至ル。

明治三十五年東京書籍商組合ノ評議員ニ當選シ、爾來重任今日ニ及ブ。別ニ松林堂、水野書店ノ商號ヲ併用ス。

富文館片山與三吉

東京市神田區鍛冶町四番地  
創業 明治四十五年三月

初代(明治十年九月十五日生)

生國ハ京都府南桑田郡龜岡町ニシテ富田姓ナリシモ、幼ニシテ片山家ノ養子トナリ農業ニ從事シタルモ、明治三十三年十一月出京シ、富田文陽堂ハ實兄ナルヨリ其ノ店ニ勤務シ、其ノ後富文館ト號シテ出版ニ著手シタルモ、店舖ヲ有セザリシガ、明治四十三年九月獨立シ、神田區千代田町十三番地ニ於テ書籍仲介業ヲ開始シ、四十五年三月現在地ニ移轉シ、爾來出版及ビ書籍仲介ヲ併營シテ今日



片山與三吉

ニ及ブ。

文榮閣前川又三郎

東京市京橋區中橋廣小路六番地  
創業 明治三十年十月十五日

初代(明治三年三月二十五日生)

生國ハ大阪東區北久寶寺町ニシテ、明治二十三年七月出京シ、翌月岡島書店東京支店ニ入リ勤續八年ノ後、同店閉店ト共ニ退店シ、同三十年十月神田區松住町島平書店ニ入リ書籍仲介業ヲ創メ、同年十二月日本橋區箱屋町七番地ニ獨立シ、文榮閣ト稱ス。三十二年一月同町十六番地ニ移リ、翌月ヨリ幾多書籍ヲ出版シ、取次業ヲ兼營ス。明治三十八年九月現在地ニ移轉シ以テ今日ニ及ブ。



文 林 堂 淺

見 文 吉

東京市日本橋區大傳馬町二丁目廿一番地  
創業 明治三十一年一月一日  
初代(明治四年十二月十九日生)

生國ハ名古屋市門前町三丁目六番地ニシテ、明治二十二年五月出京シ、日本橋區本石町小林喜右衛門ノ店員トナリ、九年勤續シ、明治三十年十二月ヲ以テ同店ヲ辭シ、翌三十一年一月一日獨立書籍業ヲ開始シ、爾來出版販賣ヲ兼營シテ今日ニ及ブ。



淺見文吉

文 盛 堂 榑

原 友 吉

東京市日本橋區鐵砲町三番地  
創業 明治十一年二月十一日  
初代(安政三年三月十五日生)

生國ハ江戸京橋ニシテ、慶應三年下谷池ノ端仲町ノ地本問屋上州屋大澤金藏ノ店員トナリ、時恰モ戊辰ノ戰役ニ際シ、主家ノ火災ニ罹リタル等種々ノ事項ヲ經過シ、明治十年ヲ以テ退店シ、翌年兩國若松町ニ獨立シテ書籍取次業ヲ開始ス。其後文部省出版ノ『小學讀本』



榑原友吉

『日本地誌略』ナドヲ翻刻シ、次デ『スベルリング』、『ナシヨナルリーダー』等ヲ翻刻ス。明治二十九年現在地ニ移轉シ、三十六年合資會社六盟館ヲ起シ業務執行社員トナリ、四十年七月ニハ明治圖書株式會社ノ監査役トナリ、四十二年十月更ニ支配人タリシガ、四十四年十一月同社解散ト共ニ退社シ今日ニ及ブ。別ニ三河屋ノ商號ヲ使用ス。明治二十三年ヨリ同二十六年迄、東京書籍出版營業者組合ノ協議員ニ選バレ、二十七年ヨリ三十四年迄同委員ニ當選ス。明治三十五年本組合ハ東京書籍商組合ト改稱シ、委員ハ評議員ト改マル、同年ヨリ三十九年迄評議員ニ當選シ、故アリテ本組合ヲ脱退シ、再ビ加入シ、翌四十年ヨリ毎年評議員ニ當選シ今日ニ及ブ。

文 運 堂

山 本 留 次

東京市日本橋區本石町二丁目十七番地  
創業 明治四十二年九月十五日  
初代(明治五年九月二十八日生)

生國ハ長岡市ニシテ、幼ニシテ父ヲ失ヒ、明治二十年六月故大橋佐平ノ博文館ヲ創設スルヤ、出京シテ經營ニ任ジ支配人トシテ勤續セリ。明治三十年七月大橋佐平ト計リ合資組織ヲ以テ博進社洋紙店ヲ創立シ、之ガ専務理事ニ就任シ、現時資本金百萬圓ノ株式組織ヲ





山本留次

ル同社ノ専務取締役タリ。明治四十二年九月、神田區錦町一丁目ニ文運堂ヲ創立シ、日記手帳及ビ各種文房具ヲ製造販賣シ、大阪市東區瓦町二丁目ニ其ノ支店ヲ設ク。四十三年歐米諸國ヲ漫遊シ、四十五年三月現在地ニ移轉ス。現時關係セル法人ハ、株式會社博進社専務取締役、株式會社東亞公司常務取締役、株式會社日本板紙共同販賣所監査役、其他二三會社ノ重役ニ就任ス。

文光堂 淺井光之助

初代(明治八年一月生)

東京市本郷區本富士町二番地  
創業 明治二十九年二月



淺井光之助

生國ハ東京本郷ニシテ、明治二十年高等小學ヲ卒業シ、翌年ヨリ二十八年十一月迄商家ニ入り、翌二十九年二月現在地ニ於テ書籍業ヲ創メ、爾來新古書籍ノ販賣ヲナシツツ今日ニ及ブ。

文祿堂 堀野與七

初代(慶應三年二月二日生)

東京市京橋區木挽町五丁目一番地  
創業 明治三十一年四月三日



堀野與七

「春風やくれまさ町の紅暖簾」ト世ニ唄ハレシ花田屋ト云フ紅商ノ家ニ生レ、京の彙兵衛ト戲號シテ故紅葉山人等ガ組織セル硯友社ノ客員トナリ新聞ニ雜誌ニ筆ヲ走ラセ、後チ一書ヲ編シ、其レヲ出版セントシ、自ラ文祿堂ナル書肆トナリ「滑稽類纂」ト題シテ發行ス。又、馬琴ノ「童蒙赤本事始」ヲ現代ノお伽噺ニ翻譯シ、「日本五大噺」ト命ジテ出版ス。意匠圖案ノ研究ニツキ日本圖案會ヲ起シ、出版印刷業子弟ノ爲メニ黃嘴會ヲ設ケ、明治四十五年三月東光印刷合資會社ヲ起シ、之ガ代表社員トシテ現今ニ至ル。

文會堂 立田義元

初代(文久三年十一月十五日生)

東京市神田區小川町一番地  
創業 明治三十五年九月二十六日

生國ハ土佐國幡多郡宿毛町ニシテ、幼ニシテ家學ヲ修ム、明治十四年三月出京シ、姻戚ノ家





立田元義

ニ在リテ陶器製造ニ從事シ海外輸出ヲ企畫セシガ果サズ。同二十五年富山房會計主任トナリ、二十九年同店ガ合資會社トナルヤ、阪本嘉治馬ト共ニ業務擔當社員トナリ、三十五年同社ヲ辭シ現在地ニ書店ヲ創メ文會堂ト號ス。爾來數種ノ書籍ヲ發行シ、販賣ヲ兼營シテ今日ニ及ブ。

東京市神田區錦町一丁目十六番地

創業 明治二十三年

初代(元治元年十月三日生)

文學同志會 大



大月隆

生國ハ長野縣東筑摩郡波多村ニシテ明治十六年ノ頃古田梵仙ノ門ニ入り佛學ヲ修メ、後チ出京シ神學ヲ究ムルコト五年、明治二十三年神田區小川町五十三番地ニ文學同志會ヲ起シ、出版ニ著手シ、同四十年十月同區錦町現在地ニ移リ、別ニ東京滑稽社ヲ起シ「東京滑稽」ト題スル雜誌ヲ發行シ以テ今日ニ及ブ。

文陽堂 富

田能次

東京市神田區美土代町三丁目一番地  
創業 明治二十八年十月一日

初代(明治四年八月四日生)



富田能次

生國ハ京都府龜岡町ニシテ、明治十三年十月京都ノ書肆出雲寺文治郎ノ店員トナリ、同二十四年六月東京ナル出雲寺書店ニ廻勤ス、兩店ヲ通ジテ勤續十五年以上、明治二十八年九月退店シ、翌月一日日本橋區小傳馬上町ニ於テ獨立シ書籍仲介業ヲ開始ス。同三十年八月神田區美土代町三丁目二番地ニ移轉シ出版業ヲ創メ、三十六年十一月同町一番地現在地ニ移リ、専ラ普通教育ニ關スル書籍ヲ出版シ、傍ラ大阪有數ノ出版物關東一手販賣ヲ兼營シ、常ニ全國各地ヘ店員ヲ派出シテ販路ヲ拓キツ、現今ニ至ル。

文星堂 直

江てつ

東京市日本橋區檜物町八番地  
創業 明治三十五年三月一日

二代(明治二十年十月二十六日生)

初代ハ直江外次郎ト稱シ、生國ハ石川縣金澤市ニシテ明治二十年八月出京シ、日本橋ノ青野書店ニ入り、勤續十年餘ニシテ明治三十五年一月本組合ヨリ精勤賞ヲ授與セララル。三





直江 直

十五年三月一日日本橋區下横町十六番地ニ獨立シ、文星堂ト稱シテ書籍取次業ヲ開始シ、其後出版業ヲ創メ、四十四年八月現在地ニ移轉シ、翌四十五年二月九日死亡ス。當主ハ初代ノ妻女ニシテ、初代ノ經營セル出版及ビ取次業ヲ繼續シ以テ今日ニ及ブ。

文進堂 鈴木 貞吉

初代(明治十二年七月二十七日生)

東京市神田區表猿樂町二十五番地  
創業 明治四十年七月十四日



鈴木 貞吉

生國ハ東京牛込ニシテ、明治二十三年四月日本橋區本町文學社小林義則ノ店員トナリ、勤続十年、明治三十三年十月、本組合ヨリ精勤賞ヲ授與セラレ、其後猶七年勤続シ、明治四十年四月ニ退店シ、同年七月十四日神田區表猿樂町現在地ニ書籍小賣業ヲ開始シ、今日ニ及ブ。

庚寅新誌社 手塚 猛 昌

初代(嘉永六年十一月二十二日生)

東京市京橋區鑰屋町十五番地  
創業 明治二十三年二月十一日



手塚 猛 昌

生國ハ山口縣阿武郡須佐村ニシテ、同郡福川村手塚正篤ノ養子トナリ、明治十八年出京シ、慶應義塾ニ入り同塾幼稚舎ノ教師ヲ兼ネ、二十二年別科ヲ卒業シ、翌年二月「庚寅新誌」ヲ發行シタルモ廢刊スルノ止ナキニ至リ、明治二十六年十月「汽車汽船旅行案内」ヲ發行シ、今尙ホ續刊ス。三十年ヨリ三ケ年時事新報編輯ニ從事シ、其後交通事業ヲ企畫シ、各種會社ノ重役ニ就任シ、三十九年以降東洋印刷株式會社取締役ニ任シ現今ニ至ル。

弘道館 辻 本 卯 藏

初代(明治七年十月二十二日生)

東京市神田區北神保町十一番地  
創業 明治三十八年八月二十八日

生國ハ奈良縣宇陀郡松山町ニシテ、明治二十三年大阪圖書出版合資會社ニ雇ハレ、翌年同市積善館ニ轉勤シ、約一年餘ニシテ博多ノ同支店ニ轉勤シテ以來十三年、明治三十八年退





辻本卯藏

店シ、同年出京本郷眞砂町ニ弘道館ト號シ、東京帝國大學哲學會ノ機關ナル「哲學雜誌」ヲ發行發賣ヲ引受ケ、翌年一月京橋區南大工町ニ移リ、各種ノ書籍ヲ出版シ、又「東亞之光」「婦人と小供」ノ二雜誌ヲ刊行ス。四十一年一月神田猿樂町ニ番地ニ轉ジ、五月現在地ニ移轉シ、「帝國教育」ヲ發刊シ、更ニ教育參考書ヲ出版シテ今日ニ及ブ。

弘學館 江

藤 邦 松

初代(明治十三年六月生)

東京市日本橋區檜物町二十六番地  
創業 明治四十二年



江藤邦松

生國ハ東京ニシテ、明治二十八年大倉書店ニ雇ハレ勤績十年、同三十八年一月本組合ヨリ精勤賞ヲ授與セララル、明治四十二年退店シ、現在地ニ獨立シテ書籍出版業ヲ開始シ今日ニ及ブ。

厚生堂 相

澤 富 藏

初代(安政二年七月十七日生)

東京市京橋區南傳馬町一丁目一番地  
創業 明治十九年十一月



相澤富藏

生國ハ新潟縣頸城郡原田村ニシテ、明治十三年工兵科現役滿期後、同郡役所ニ奉職中、兵事ニ關スル願屆書式ヲ編シ「兵役者心得」ト題シ出版シタルニ起因シ。同十九年十一月出京シ神田區美土代町二丁目ニ居ヲ定メ、生地ニ因ミ厚生堂ト號シテ開業シ、傍ラ登記簿用紙ヲ印刷發賣セリ。同二十一年三月日本橋區本町一丁目ニ移リ、二十六年十二月京橋區中橋廣小路ニ轉ジ、三十年六月現在地ニ移轉ス。爾來兵用圖書出版ヲ主トシ、創刊ノ「兵役者心得」ハ後ニ「在郷軍人心得」ト改題シ、自己紀念出版トシテ年々加除訂正シテ今日ニ及ブ。

今古堂 瀧川民治郎

初代(明治二年十月十一日生)

東京市日本橋區馬喰町三丁目十四番地  
創業 明治三十二年九月三日

生國ハ和歌山縣ニシテ、明治十二年出京獨逸學校ニ入學シ、在校五年、同十七年大學豫備門





川瀧民治郎

ニ入校ス。後チ或ル事情ノ爲メニ歸郷シタリシガ、再ビ  
出京、明治十九年十月活版印刷所ノ校正掛トナリ、次デ會  
計ヲ掌リ、印刷業ニ從事スルコト十三年、明治三十二年九  
月日本橋區葺屋町一番地ニ今古堂ト稱シ書店ヲ開始シ、  
講談小説類ノ出版ヲナス、同三十六年始メテ文學書ノ出  
版ヲ企畫シ「聖人か盜賊か」ヲ出版ス。同年現在地ニ移轉  
シ、爾來各種ノ書籍ヲ出版シテ今日ニ及ブ。

光世館 谷澤光吉



谷澤光吉

生國ハ茨城縣結城郡ニシテ、明治二十年出京シ、黨志堂井  
上勝五郎ニ雇ハレ勤続十餘年、同三十一年獨立シ、現在地  
ニ出版業ヲ開始シ以テ今日ニ及ブ。

初代(明治二年九月十日生)

東京市日本橋區松島町二十九番地  
創業 明治三十一年七月二十三日

國華堂 山崎曉三郎



山崎曉三郎

初代(元治元年十月二十八日生)

東京市淺草區猿屋町十七番地  
創業 明治二十三年六月二十八日

生國ハ父ノ任地室蘭ノ役宅ニシテ、慶應四年六月出京シ、  
明治六年十一月三日日本橋區吉川町大黒屋松木平吉ニ  
雇ハレ、勤続約十七年、明治二十三年三月退店シ、同年六月  
淺草區小島町十番地ニ獨立シ、錦繪仲買及畫本ノ出版ヲ  
創ム。明治二十九年十一月以降有價證券賣買業ニ轉ジ  
タルモ、四十二年二月十一日現在地ニ於テ再ビ出版業ヲ  
營ミ以テ今日ニ及ブ。

鴻盟社 今村延雄

三代(明治三十六年七月六日生)

東京市芝區露月町十八番地  
創業 明治十四年一月三日

初代ハ大内青巒ニシテ、明治十四年麻布區本村町百九十四番地ニ於テ鴻盟社ト稱シ「中外  
郵便週報」ナル雜誌ヲ發刊シタルモ同十六年之ヲ廢刊シ、同夏ノ頃京橋區南鍋町十四番地  
ニ移轉シ、更ニ麻布區北日ヶ窪町二番地ニ支店ヲ設ケ、佛教ニ關スル書籍雜誌ヲ發行ス。



二代ハ今村金次郎ト稱シ長野縣伊那郡大島村ニ生レ、出京シテ鴻盟社ニ入り、明治二十三年三月業務一切ヲ讓受ケ、芝區愛宕下町四丁目一番地ニ轉ジ、更ニ二十八年三月同區露月町現在地ニ移轉シ、「大藏法數」、「正法眼藏私記」、「正法眼藏御抄」、「碧巖集講話」等主トシテ佛書ヲ出版シ、雜誌「傳道」ヲ創刊ス。明治三十九年六月十二日死亡。

當主延雄ハ二代ノ嗣子ニシテ、其ノ業務ヲ繼承シ以テ今日ニ及ブ。



今村延雄

株式會社 國定教科書共同販賣所

東京市日本橋區新右衛門町十六番地  
創業 明治三十九年八月二十日

設立ノ由來 小學校教科用圖書ハ從來民間ニ於テ著作發行シ、文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノ、中ニ就キ、小學校教科用圖書審査規則ニ據リ、審査ノ上府縣知事之ヲ採定スルノ制度ナリシガ、明治三十六年中時ノ文部大臣菊池男爵ハ該制度ノ弊害ヲ認メ、之ヲ一掃シ且ツ教科書ヲ統一スルノ目的ヲ以テ、同年四月小學校教科用圖書翻刻發行規則ヲ定

メ、明治三十七年以後ノ教科書ハ文部省ニ於テ之ヲ著作シ、謂フル國定制度ヲ實施セラ  
ル、コトトナリタリ。

而シテ其翻刻發行並ニ販賣ハ一定ノ制限ノ下ニ之ヲ民業ニ附シ、重モナル出版業者十  
九名ニ其翻刻發行ヲ許可セラレタリ、其許可ヲ受ケタル者ノ中大橋新太郎外十三名ハ  
一團トナリ、圖書供給ノ統一ヲ圖ルノ目的ヲ以テ國定教科書出版協會ナルモノヲ組織

シ、別ニ全國同業者ヲ株主ニ募集シテ資本金壹百萬圓拂  
込金貳拾五萬圓ヲ以テ、同年九月日本書籍株式會社ヲ設  
立シ、國定教科書出版協會ト契約ノ上明治三十七年同三  
十八年ノ二ケ年間、翻刻發行許可總冊數ノ十分ノ九ハ同  
社ニ於テ製造並ニ販賣ヲ爲シタリ。



大橋新太郎 社長

然ルニ明治三十八年四月圖書供給事業ヲ一層完全ニ統  
一スル爲メ、文部省ハ翻刻發行規則ヲ改正シ、翌五月大橋  
新太郎外九名ニ翻刻發行ヲ許可セラレ、此翻刻發行者ノ全員ハ同規則第九條ノ命ズル  
所ニ從ヒ、同月資本金貳拾萬貳千參百圓ヲ以テ會社名國定教科書共同販賣所ヲ設立シ、  
三十九年度以後ノ國定教科書ノ供給販賣ノ業務ヲ經營スルコト、ナシタリ。



前掲翻刻發行規則改正ノ爲メ合名國定教科書共同販賣所設立ノ結果、日本書籍株式會社ハ其存續ノ必要ナキニ至レリ、然レドモ元ト同社ノ設立ハ文部省ノ承認ヲ受ケタルモノニアラザルモ、翻刻發行者間ノ競争ヲ防ギ、供給ノ完全ヲ期センガ爲メ設立シタルモノナルガ故ニ、同業者ノ圓滿ヲ圖ランコトヲ欲シ、兩社協議ノ上一旦共ニ解散ヲ爲シ、株式會社國定教科書共同販賣所及日本書籍株式會社ヨリ各金拾貳萬五千圓ヲ出資シ、更ニ舊教科書肆ノ合同團體タル文教社ヨリ金五萬圓ヲ出資シ、其總額參拾萬圓ヲ以テ新設株式會社國定教科書共同販賣所ノ資本金ト爲シ、文部大臣ノ認可ヲ得テ明治三十九年八月二十日茲ニ本社ヲ創立シ、國定教科書供給事業ヲ統一經營スルニ至リタルモノナリ、其後明治四十二年十月文部省告示第二百五十四號ヲ以テ、小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程ヲ改正セラレ、四十三年度以降所用ノ教科用圖書翻刻發行ハ新ニ設立セラレタル日本書籍株式會社、東京書籍株式會社、大阪書籍株式會社ノ三會社ニ許可セラレ、三會社ニ於テ製造シタル圖書全部ノ供給事業ハ依然本社ニ於テ統一經營スルノ特許ヲ得タルモノナリ。

營業ノ目的 本社ノ營業ハ翻刻發行者ノ製造ニ係ル國定小學校教科用圖書ヲ供給販賣スルヲ主眼トスルノ外、教育ニ關スル圖書並ニ教授用具ノ發行販賣ヲ爲セリ、本社ニ於

テ四十四年度使用トシテ受入レタル國定教科書ノ總冊數ハ四千七百八十四萬五千八百冊ニシテ、其定價總額ハ三百三十一萬三千三百二十七圓五十錢ナリ。

資本金額 本社設立當初ハ資本金參拾萬圓ナリシガ、業務ノ發展ニ伴ヒ四十年十月五萬圓ヲ、四十二年十一月拾五萬圓ヲ、四十四年二月更ニ貳拾五萬圓ヲ増資シ、現在資本金七拾五萬圓拂込金五拾六萬貳千五百圓ナリ。

供給ノ設備 本社ハ東京市日本橋區新右衛門町十六番地ニ本店ヲ置キ、出張所ヲ大阪市西區阿波座上通一丁目一番地ニ置キ、尙ホ圖書供給ノ普及ト敏活トヲ計ル爲メ左ノ販賣機關ヲ設定セリ。

國定教科書特約販賣所 各府縣及ビ樺太ニ各一個所、北海道ニ三個所、朝鮮ニ二個所、計五十個所ヲ置キ、各其供給區域内ノ供給ノ任ニ當ラシム、但東京府及ビ大阪府ハ郡區ノ區域ニ依リ大取次販賣所三十五個所ヲ設置セリ。

國定教科書取次販賣所 特約販賣所又ハ大取次販賣所ノ下ニ、更ニ全国各地ニ取次販賣所ヲ置キ、各其受持區域内小學校ニ對スル供給ノ任ニ當ラシム、現在二千四百六十八個所アリ。

普通圖書特約販賣所 全国各地ニ之ヲ置キ、國定教科書以外ノ圖書並ニ教授用具販